日迄默止罷在候由申聞候就テハ前文ノ通リ右ハ至急良法ト奉存候間先ツ「ビリヤード」二器急速寮内ヱ御備相成候樣致シ度尤代價ハ一器ニ付凡千五百圓程ノ見込ニ御座候何分早々可否御指揮被下度此段申出候也

一月　　兵學寮

海軍省　御中

（上申ノ通但其寮定額金ヲ以テ仕拂可致候事）

二月十九日　寮直會食ヲ復ス

生徒食事之節不取締無之爲寮直會食致シ候得共昨年八月以來相廢止候處兎角亂雜ニ流レ不體裁ノ義御座候間南北新三寮ヱ寮直一名ツヽ生徒食事ノ節自今官費ニテ會食爲致度奉存候此段申出候也

二月三日　　兵學寮

海軍省　御中

（申出ノ通二月十九日）

野戰砲實習ヲ始ム

別紙横文譯ノ通リ「ドーグラス」申出候ニ付テハ拾貳斤野戰砲ハ武庫司ヨリ御渡相成度角場ノ儀ハ御許可相成候ハヽ場所見立更ニ可申出候其他艦體並內部雛形製作ノ儀ハ當寮ニテ製作仕度候右ハ早々

欠

御指揮有之度此段申出仕候也

二月六日　　兵學寮

海軍省　御中

（申出通　但射的場之儀ハ水兵本部ニ築造白金臺町舊高松邸内ニテ可然候條同所へ打合可取計候事二月十二日）

生徒ノ遊戯ヲ行フ

生徒競爭遊戯御許容ニ付テハ來十一日興行致候積ニ付樂隊御差出相成度且水路寮軍醫寮並ニ「ブリンクリー」生徒モ御差出有之度旨教師申出候間可然御詮議ニ候ハヽ夫々へ御達相成度此段申出候也

二月廿七日　　兵學寮

海軍省　御中

上申之通但其筋へ相達置候事三月二日

（按）上文「ブリンクリー」生徒云々トアリ一見甚解シ難カラン是ハ「マリーン」即チ海兵生徒ナリ而シテ其教師ニ「ブリンクリー」氏ヲ雇ヒアリシヲ以テ常ニ「ブリンクリー」生徒ト稱シタルナリ之ヲ公文ニ掲ケタルハ如何ニモ奇異ノ觀アリ然レトモ當時百事創制ノ際ニ於ケル濶大ノ氣象ノ一班ヲ呈露スルモノナリ小節ニ拘泥セサル所眞ニ欽スヘシ

三月　然ルニ三月十一日ハ雨ヲ以テ果サス十六日ニ定ム又雨ナリ依テ左ニ生徒遊戯來ル二十一日興行仕候ニ付此段御届仕候也

三月十六日　　兵學寮

海軍省　御中

（本文ノ趣正院ニ御届ノ上甲第三拾六號ヲ以テ院省使並東京府へ相達候事但廿一日雨天ニ候ハヽ同廿六日興行候段相副候事三月十七日）

遊戯番附

第一　十五歳以下ノ生徒三百「ヤード」ノ距離ヲ平驅スル事　賞與ハ一番二番三番ニ

第二　十五歳以上ノ生徒六百「ヤード」ノ距離ヲ平驅スル事　賞與ハ一番二番三番ニ

第三　十二歳以下ノ生徒百五十「ヤード」ノ距離ヲ平驅スル事　賞與ハ一番二當三番ニ

第四　長飛　賞與ハ一番ニ

第五　高飛　賞與ハ一番ニ

第六　玉投ケ　賞與ハ一番ニ

第七　二人連三脚驅　賞與ハ一番二番ニ

第八　十五歳以上ノ生徒十歳以上ノ生徒ヲ荷フテ二百ヤード」ノ距離ヲ平驅スルコト、賞與ハ一番二番ニ

第九　竿飛　　賞與ハ一番ニ

第十　整列歩行　　賞與ハ一番ニ

第十一　五十「ヤード」ノ距離ヲ目隠シニテ驅ケル事　　賞與ハ一番二番ニ

第十二　飛倚　　賞與ハ一番二番ニ

第十三　三百「ヤード」ノ距離ヲ限リテ見物人ニ競走セシムルコト（但兵學寮管轄ノモノニ限ルヘシ）賞與ハ一番二番三番ニ（其品ハ兵學寮ノ存意ニ任ス）

第十四　豚ノ走ルトキ其尾ヲ握ルコト、但豚ヲ放ツハ一度ニシテ其尾ヲ握ルニモ時間ヲ限ル　賞與ハ一番ニ

第十五　三飛毎ニ立ツ事　賞與ハ一番ニ

第十六　頭上ニ水桶ヲ戴キテ平驅スル事、但五十「ヤード」ノ距離内ニテ水ヲ持歸ルコト最速ニシテ其分量最多キ者勝利トス　賞與ハ一番二番ニ

第十七　雞卵二十箇ヲ一「ヤード」毎ニ置キ平驅シテ之ヲ拾ハシムル事、但シ二百「ヤード」ノ距離内ニテ二十番ノ雞卵ヨリ標柱ニ到ル間ヲ四十「ヤード」トス　賞與ハ一番二番三番ニ

第十八　先ニ豚ヲ放ツトキ誰モ其ノ尾ヲ握ル者アラサレハ今又之ヲ放チテ遊戯ノ大切リトス

右ノ游戯ヲ與行スルトキハ海軍省ヨリ樂隊ヲ出ス

行司ハ英國中等士官「シントジョン」「シブソン」及「チップ」ト定ム

（按）當時生徒ノ遊戯未タ行ハレス此遊戯ヲ以テ此種ノ遊戯ノ嚆矢トス且本省ヨリ院省使並東京府ヘ通知シ又其ノ賞與ハ省ヨリ出セルニ依リテ見レハ一官立學校内ノ生徒ノ遊戯ニハ非スシテ幾ント官府ノ盛典ナルカ如シ蓋シ當時學生ノ風一般學事ヲ重ンスルノミヲ知リ學政ニ當ル者モ身體ノ重スヘキ事ヲ知ラス我校茲ニ見ル所アリ曩ニハ球戯ヲ設ケ今又此舉アリ以テ當時文弱ノ弊風ニ感染セサル事ヲ得タルナリ然レ共此ノ如キ盛舉アルヲ得タルハ招聘教師ノ助言モ蓋シ隠然力アリシナラン此時ヨリ數年ニシテ他學校ニテモ始メテ運動會ノ舉アリシモ微ニシテ振ハス二十年以後別シテ韓清之役以後ハ文部管轄學校ノ運動ハ著シク活潑トナリ我校ノ運動會ニ比シテ却テ激シキモノアルニ至レリ

四月　華頂宮殿下豫科ニ御入校ノ内報アリ

華頂宮其寮ヘ入校相成度被申入候條此旨申達候也

明治七年四月四日　　海軍省

兵學寮

（按）殿下（故三品華頂宮博經親王）ハ明治三年七月米國留學被仰付、同五年五月同國「アナポリス」海軍兵學校御入校同年八月御病氣ノ爲メ御歸朝、七年四月二日病間ヲ以テ海軍省兵學寮ヘ隨意通學ヲ許サル

八年十二月三十一日　叙勳一等賜賞牌

九年五月十三日　任海軍少將
同年五月二十四日　薨去アラセラル
博恭王殿下ハ明治十六年伏見宮家ヨリ其ノ後ヲ繼カレ後日豫科ニ御入校アリシナリ

豫科生徒ニ各學期修業ヲ命ス

豫科第二期ニ

高桑　勇　宮岡直記　秋庭直衛　齋藤富五郎
野口定次郎　寺垣猪三　字野順時　荒川才藏
大西庸行　山田錄郎　岩崎達人　山内萬壽治
大塚文倫　杉本理太郎　福島篤平　澤　鑑之丞
河野虎彦　岩城男外鐵　齋藤孝至　藤沼　初
佐々木廣勝　山田萬壽吉　大濱和壽　有馬純男
岩本耕作　星野猶吉郎　山原春海　豐島四敎
加藤友三郎　梶川良藏　齋藤錠三郎　上原伸次郎
小松養三郎　吉富彌一郎　相川信順　伊東茂治
三平清太郎　西原友忠　近藤兵吉郎　下條於兎丸
疋田敬作　塚原茂藏　高木助一　石倉初太郎
海野知覺　佐分利泰輔

豫科第四期ニ

成川　揆　北古賀竹一郎　宮原二郎　瀧川具和
丸田秀實

豫科第五期ニ

郡司成忠　横山正恭　幸村　常　名倉茂三郎
大木六太郎　淺田整次郎　根岸有鄰　松平政久
野元從虎　牧野良兆　永井平八郎

四月　筑波艦ヲ練習艦トシ當寮ニ屬セシム

筑波艦ノ儀練習艦トシテ其寮管轄被仰付候事

七年四月廿七日

筑波艦、大砲積込トシテ北海道渡島國江差港ヘ回艦被仰付候事

四月廿九日

（按）蓋シ舊幕脫艦回陽所載ノ大砲ナラン而シテ同年六月五日歸着セリ

五月　機關生徒ノ爲横須賀ニ分校ヲ置ク

横須賀四番地拾四番舍ヘ兵學分校被設置候事

今般横須賀ヘ其寮分校被置候ニ付テハ豫科生徒二十名機關實地修業トシテ入校可申付此段相達候事

但外國教師及教官諸官員等在勤ノ者人撰ノ上更ニ可申出事

（按）機關科ハ從來砲、運、航三科ト共ニ築地兵學寮ニ於テ教授シ來リタレトモ造船所ニ至近ノ地ニ在サレハ其目的ヲ達シ得ヘカラサルヲ以テ之ヲ横須賀ニ移シタリ後獨立ノ校トナリ十九年廢セラレ其生徒ハ兵學校ニ轉シテ築地ニ來リ後兵學校内ニ再ヒ機關生徒ヲ置キ二十六年再ヒ分レテ横須賀ニ復シ今日（三十三年）ニ至ル

五月　機關士補ヲ置ク

海軍少尉補（今ノ少尉候補生）ノ振合ヲ以テ機關生徒ノ卒業シタル者ヲシテ官等ニ不相立當省限機關士補申付候條此旨相達候事

七年五月十三日

機關士補俸給制ノ儀左ノ通ニテ支給方及取扱方等總テ少尉補同樣タル事

五月十三日

少尉補相當	在役俸	非役俸	乘艦加俸	乘艦食卓料日當
機關士補	壹等	十二圓	二圓	二十錢
	貳等	十圓		
	二十圓			
	十七圓			

五月　航海練習艦始メテ航ス

當艦（按）（筑波ナラン）都合相調ヒ候間明後十日品海抜錨發艦仕候此段御届仕候也

七年五月八日　伊藤海軍中佐

（按）去四月中教師「ドーグラス」ヨリ左ノ意見ヲ呈シタリ之レニ因リテ右ノ實行アリタルナラン

海軍生徒教育ノ爲航海稽古艦御設定ノ儀必要ノ事ト奉存候就テハ右艦ノ儀ハ士官以下火夫定員ノ外生徒教授掛リ官員乘組有之度生徒教課ノ次第並本艦航海地方巨細ノ儀ハ追テ相定可申候尤右稽古艦航海ノ方向ハ最初日本海ニ相限可申且少クモ六ケ月以上航海可有之同艦ノ儀ハ生徒教育ノ外海軍水兵、火夫教導ニモ相成可申此段申出候也

千八百七十四年四月二十一日　コンマンドル兼ダイレクトル、ドーグラス

海軍卿殿

五月三十日　練習艦乾行構内ノ堀ニ入ル

生徒ヲ募集ス

（按）生徒ハ皆當初豫科ニ入ラシメ終リテ本科ニ登スノ制ナリ

一　當明治七年十月海軍兵學寮ニ於テ撰擧スヘキ生徒ノ員數左ノ加シ

運用、砲術科　二十人　　測量科　十五人　　機關科　十五人

一　海軍出身志願ノ者ハ華士族平民ヲ論セス當八月十五日限リ兵學寮ヘ左ノ如ク願書差出スヘシ

何府縣華士族平民何某男或ハ弟　何　某

何年何月何日於何國何郡何地生　　何年何ヶ月

父兄住所……

當人住所……

右之者海軍出身志願ニ付御檢査ノ上運用、砲術科（或ハ測量科或ハ機關科）生徒ニ入寮奉願候也

何府縣華士族平民東京何大區何小區何町何番地

身元引受人　何　某

明治七年　月　日

海軍兵學寮　御中

何府縣印

前書之通相違無之候也

一　九月上旬ヨリ兵學寮ニ於テ本年入寮ノ生徒ヲ檢査シ合格ノ者ヲ撰擧シ入寮ヲ許容ス

一　入寮生徒ノ年齢ハ十三才以上十五歳以下タルヘシ

一　生徒入寮ノ節ハ終身海軍ニ從事スヘキ誓書ヲナスヘシ

一　右生徒ハ入寮ノ日ヨリ衣服ハ勿論其他ノ諸具ニ至ル迄悉ク官費ヲ以テ給與スヘシ

但シ「ブランケット」二枚、五ッ布蒲團一枚、三ッ布蒲團一枚、靴二足、靴刷毛一ッ、「フランネル」下襦袢五枚、下股引五枚、靴下足袋十足、稽古用筆墨紙並ニ必要ノ手道具等ハ初メ入寮ノ節而已持參可致事

一　右生徒ノ中來ル二月ノ試驗ニ於テ落第セシ者ハ其期ニ至リ退寮ヲ命スヘシ

明治七年五月　　海軍省

五月　自費生徒ヲ募集ス

海軍兵學寮自費生徒入寮布達書

一　當明治七年十月中旬於海軍兵學寮自費生徒凡ソ二十人撰擧相成候條各府縣華士族平氏ヲ論セス入寮志願ノ者ハ左ノ件々熟知ノ上身元引請人附添八月十五日限リ兵學寮ヘ願書可差出事

但身元引受人ニ相立候者ハ東京府在住或ハ寄留ノ者ニ限ルヘキ事

一　願書案文左ノ如シ但正副二通出スヘシ

何府縣華士族卒或ハ平民何某倅弟

何年何月何日於何國何郡何地生　　何　某

父兄住所……　　當何歳何月

當人住所……

右之者於御寮學術修業仕度志願ニ付御檢査ノ上入寮御許容成被下度奉願候同人入寮中ハ私儀身元引請人ニ相立御規則之通リ無遲滯月々納金可仕候也

何府縣貫屬華士族卒或ハ平民
東京何大區何小區何町何番地
何　某　印

明治七年　月　日

海軍兵學寮　御中

前書之通相違無之候也

何府
何縣　印

年　月　日

一　入寮差許スヘキ生徒ハ入寮ノ節十三才以上十五才以下タルヘシ

一　願書差出候者ハ九月上旬ヨリ兵學寮ニ於テ左ノ通檢査有之合格ノ者ヲ撰擧ス

第一　身體筋骨强壯疾病無之哉ヲ檢査ス

第二　作字、手跡或ハ書翰等ヲ檢査ス

第三　讀書、是迄學ヒタル書籍ニテ檢査ス

但　英學、洋算等ヲ學ヒタル者ハ同ク之ヲ檢査ス

一　滿十七歲迄ヲ在寮期限トス

一　生徒入寮ノ節誓書致スヘシ

一　身元引請人ヨリ毎月二日迄ヲ限リ其月ノ入費金拾圓宛兵學寮ヘ納ムヘシ但第三期ニ進ムトキハ此金高ノ一割ヲ減シ又五期ニ進ムトキハ二割ヲ減スヘシ

尤モ在寮中衣服其外諸雜用小遣錢ニ至ル迄兵學寮ヨリ取賄フヘシ

但「ブランケット」二枚、五ツ布蒲團一枚、三ツ布蒲團一枚、靴二足、靴刷毛一個、「フランネル」下襦袢五枚、下股引五枚、靴下足袋十足、稽古用筆墨紙竝ニ必要ノ手道具等ハ初メ入寮ノ節而已持參致スヘシ

一　前件納金ノ期限ヲ遲延スル者ハ毎月四日以後一日ニ五拾錢ノ罰金ヲ相添ヘ納金スヘシ

一　十七歲ニ到リ豫科學成業ノ大試アリ此ノ大試ハ本省及兵學寮ノ諸官員立會ノ上試驗スヘシ

一　大試合格ノ者武官ハ勿論省內何局ニテモ當人ノ望ニ任セ本科ヘ從事セシムヘシ

一　本科成業ノ後海軍省ノ外ヘ轉勤致シ度望ミノ者ハ本人ノ志願ニ任スヘシ然レトモ本科成業ノ後二年ノ間ハ本人ノ學術及其才能ニ從テ相當ノ俸給ヲ與ヘ必ス省內ニ奉職セシムルモノナリ

明治七年五月

海軍卿　勝　安芳

六月三日　横須賀海軍兵學分校ヲ開ク

勝海軍卿式場ニ於テ演ヘテ曰ク今般茲ニ海軍兵學分校ヲ置キ蒸汽機關科生徒ヲシテ實地經驗ノ學ニ就カシメ後來海軍ヲ擴張シ國家ヲ護持スルノ一助ニ備フ衆皆勉勵スヘシ

（按）當時鐵道ノ成レルハ新橋横濱間ノミ故ニ出張員ハ横濱ヨリ汽船ニテ横須賀ニ到ル

七月　英語教師トシテ英人「チヤンプレン」ヲ雇フ

九月　將來艦隊ニ乘組マシムヘキ生徒ノ順次ヲ豫定ス

（按）今年六月ヨリ十二月ニ至ル間臺灣ニ事アリ故ニ本省ヨリ求メ來リ年齡ヲ以テ其順序ヲ定メタルナリ而シテ皆志願者中ヨリス

艦隊乘組願人名順序

二十三年一ヶ月	宮川保之	
二十二年十一ヶ月	伊集院五郎	
同	深尾弘	
同	雪下熊之助	
同	十ヶ月	上村正之亟
同	飯牟禮俊位	
同	九ヶ月	坂元八郎太
同	八ヶ月	早崎源吾
同	七ヶ月	細江尚政
同	六ヶ月	迫田甚之亟
二十二年		吉田鐵吾
同		池端清
同		森元繁
二十一年四ヶ月		大河平隆義
同	一ヶ月	成川萬藏
二十一年		山田彦八
二十年十ヶ月		馬場練兵
同	七ヶ月	矯本正明
同	五ヶ月	松枝新一
同		石原忠俊
同		關五六郎
同	一ヶ月	新島一郎

同　玉利親賢
同　三須宗太郎
二十年　出羽重遠
十九年十ヶ月　細谷資氏
同　佐久間秀三郎
同　林　讓作
同　九ヶ月　舟木練太郎
同　向山愼吉
十九年九ヶ月　本山丈三
同　瓜生外吉
同　井上幸次郎
同　世良田亮
同　八ヶ月　米倉久磨
同　三ヶ月　遠藤喜太郎
同　二ヶ月　中溝德太郎

九月二十日　始メテ水雷ノ術ヲ修ム

當分水雷製造局兼勤被仰付候事　海軍少佐　福村周儀
但製造傳習ノ儀ハ兼テ申達候通リ可相心得事　海軍大尉　小林　翹

七年九月二十日　（按）秘密ノ意ナラン

十月　生徒ヲ諸艦ニ配乘セシム　（按）前記ノ結果ナリ

第二丁卯艦乘組申付候事　九月十一日　生徒　宮川保之
雲揚艦乘組申付候事　十六日　同　伊集院五郎
同　同　深尾　弘
同　同　雪下熊之助
同　廿二日　同　上村正之亟
東艦乘組申付候事　十月四日　同　飯牟禮俊位
同　同　坂元八郎太
同　同　早崎源吾

同　細江尚政
同　迫田甚之亟
同　吉田鐵吾
同　池端清
同　森元繁
同　大河平隆義
十月十四日　安田虎之助
同　梁瀬新一
同　諸岡頼之
同　松永雄樹
同　河原要一
同　遠藤増藏
同　横尾道昱
同　櫻井規矩之左右
同　日高壯之亟

筑波艦乗組申付候事

同　同　同　同　同　同　同　同

同　川島虎夫
同　早崎七郎
同　植村永孚
同　内田正敏
同　伊藤常作
同　島崎好忠
同　山本權兵衛
同　堀敬爾
同　天野才藏
同　藤田幸右衛門
同　三好克巳
同　平尾福三郎
同　福島虎次郎
同　中山訥
同　矢部與功

同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同

明治七年

同	同	同	澤良渙
同	同	同	片岡七郎
同	同	同	濱田太二
同	同	同	矢部矢八郎
同	同	同	中村正亮
同	同	同	森下寧一
同	同	同	友野雄介
同	同	同	倉山季方
同	同	同	石井猪太郎
同	同	同	外記康昌
同	同	同	中林長國
同	同	同	上村彦之亟
同	同	同	本田弘
實地修業トシテ高尾丸ヘ乗組申付候事	十月廿日	同	成川萬藏
同	同	同	山田彦八

同	同	同	馬場練兵
同	同	同	橋本正明
同	同	同	松枝新一
同	同	同	石原忠俊
實地修業トシテ北海丸ヘ乗組申付候事	同	同	關五六郎
同	同	同	新島一郎
同	同	同	玉利親賢
同	同	同	三須宗太郎
同	同	同	出羽重遠
同	同	同	細谷資氏
同	同	同	佐久間秀三郎
同	同	同	林讓作
同	同	同	舟木練太郎
同	同	同	向山愼吉
同	同	同	本山丈三

同　同　井上幸次郎
同　同　大井上久磨
同　同　遠藤喜太郎
同　同　中溝德太郎
川村大輔九州出張ニ付隨行申付候事　同　同　爪生外吉
同　同　世良田亮
實地研究ノ爲高雄丸ヘ乘組申付候事　十月廿二日　同　佐久間國安
同　同　深見有記
同　同　吉田貞一
同　同　馬場新八
同　同　重久彦右衛門
同　同　原實員
同　同　權田正三郎
同　同　廿三日　同　中村貞邦
同　同　大村三亟

同　同　永島松籟

（按）右諸艦船ノ中筑波艦ハ特ニ生徒航海練習トシテ九月回艦ヲ命セラレ十月二十三日發艦ス又生徒安田虎之助、梁瀨新一、諸岡眞三郎、松永雄樹、河原要一、遠藤增藏、三好克己、平尾福三郎、福島虎次郎、中山訥、矢部興功、澤良渙、本田弘ノ十三人ハ教師「ドーグラス」ヨリ九月二十五日艦士補ノ適任免狀ヲ授ク

十月　有栖川稠宮殿下本月ヨリ豫科ヘ御通學アラセラル（御入寮ハ翌年四月五日）

十月二十日　豫科生徒入校ス

和田賢助　鹿兒島士　野元綱明　鹿兒島士
川浪治倫　佐賀士　池田早苗　同右
田口三平　佐賀士　伊東榮　若松平民
福井正義　三重士　木村浩吉　濱松士
高橋義篤　新川士　但馬惟孝　鹿兒島士
志賀直藏　三潴士　佐伯胤員　山口士
伊地知季珍　鹿兒島士　今井兼昌　鹿兒島士
坂元宗七　同　坂本常英　同

山上　徹　北條士
馬場金八郎　靜岡士
吉松茂太郎　高知士
青木直重　靜岡士
齋藤利昌　熊谷士
田原吉藏　宮崎士
仁禮幸助　鹿兒島士
山本光雄　東京士
松村直臣　靜岡士
磯野善八郎　北條士
松本和吉　東京平民
中江員可　鹿兒島士
成田勝郎　靜岡士
星　清次郎　若松平民
中村靜嘉　石川士
淺羽金三郎　濱松士
石川源太郎　東京士
大森純一　小田士
高橋助一郎　鹿兒島士
鈴木三郎　東京士
四方田榮太郎　熊谷士
沖　貞　鳥取士
荻島政吉　千葉士
平井錬次郎　盤前士
内田義方　靜岡士
佐藤龜太郎　熊谷士
大屋劒三郎　靜岡士
渡邊壽太郎　名東平民
遠藤伸次郎　石川士
伊地知彦次郎　鹿兒島士
藤井較一　岡山士
新井次郎　濱松士

淺井正次郎　愛知士
荒井八介　青山士
松本有信　石川士
中西重慶　高知士
藤井希植　東京士
栗田伸樹　高知士
坂本　一　高知士
島村速雄　高知士
自費　一柳紹念　東京華
同　福間惕介　山口士
計　六十八人
十一月一日　生徒築瀨新一以下十七人少尉補ニ任ス
生徒　築瀨新一　生徒　安田虎之助　生徒　諸岡頼之
同　松永雄樹　同　河原要一　同　遠藤增藏
同　三好克巳　同　平尾福三郎　同　澤良　渙
細谷松次郎　新潟士
伊東吉五郎　佐賀士
新納八束　鹿兒島士
山木艮三郎　三重士
志水正直　三重士
今井寛彦　高知士
千頭正賢　高知士
逸見一東　飾磨士
自費　青山忠惇　東京華
同　川路新吉郎　熊谷平民

同　本田　弘　　同　矢部興功　　同　中山　訥
同　福島虎次郎　　同　日高壯之丞　　同　島崎好忠
同　山本權兵衛　　同　植村永孚

海軍少尉補申付候事

七年十一月一日

（按）右ハ曩ニ練習艦筑波ニ乗組航海中長崎ニ於テ三十七人中ヨリ抜擢シテ任セラレタルモノナリ

十一月十四日ヨリ十二月八日　曩ニ艦船ニ分乗セル生徒次第ニ歸寮ス

十二月十八日　利根川船ヲ練習船トス

自今練習船ニ被定候事

但乗組人員給俸ノ儀練習艦同樣被下候事

利根川船

七年十二月十八日

海軍省

十二月廿八日　語學教師「ベルキントン」ノ雇ヲ解ク

御雇語學教師　米人「ベルキントン」

右ハ今年一月一日ヨリ當十二月中迄ノ定約滿期ニ付解約仕候此段御届仕候也

七年十二月二十八日

兵學寮

海軍省御中

冬季日課表　（參考ノ爲記載ス）

六時二十分　起シ喇叭　但日曜ハ七時二十分
自六時三十分至八時二十分　喇叭ノ合圖ニテ寢床ヲ離レ之ヨリ凡ソ一時間ヲ掃除ノ時トス終テ盥嗽着服スヘシ
八時二十分　整列　喇叭合圖　（按）十二月二日八時ニ改ム
八時三十分　朝食　朝食後拜借書籍其他申出　（按）十二月二日八時十分ニ改ム
自九時三十分至十一時卅分　講堂出席　九時三十分號鐘
十二時　晝食
自一時至三時　講堂出席　一時五分前號鐘
四時三十分　休日歸寮時刻
五時　晩食
九時　整列　喇叭合圖
九時三十分　就寢　喇叭合圖　消燈　（按）十二月二日十時ニ改ム
九時四十分　各室巡視　（按）十二月二日十時十分ニ改ム

毎朝七時ヨリ八時迄ヲ馬術稽古時間トス

（按）十二月二日自六時五十分至七時五十分ニ改ム

水曜日午後一時ヨリ三時迄銃隊操練但雨天ノ節書籍等調物ノ事

豫科學表

	初期	二期	三期	四期	五期	六期
史學	史略	日本史略	同	泰西史鑑	同	萬國新史
地學	東京區分ケ五幾八道郡縣宿驛名稱	地理撮要日本地圖	地理新編	輿地史略	同	同
尺牘學	習字初步啓蒙手習文	十二月帖風俗往來	尺牘作文	同	同	
博物學	布帛五穀木材紙油	登高自卑博物新編補	化學要論	化學大意	同	器械書
讀書	單語篇	童蒙教草	勸善訓蒙	西國立志編	同	
醫書		講筵筆記	同	同	健全學	外療一班砲痍論
算術 數學	四術ヨリ比例迄	開方ヨリ對數表用法迄	代數學四術ヨリ開方迄	開數四位ヨリ方程式マテ	二次方程式級數對數原理	
算術 幾何學	點線面多邊形原質	線ノ比例ヨリ平面求積法迄	立體全部	圖學平面式	圖立體交切影	
英語	習字綴字「サ」「セント」氏第一、二課程書、書取、博物學、會話篇	會話篇、第二、三課程書、書取、作文、外國地圖學	會話篇、地理典、萬國史、作文書、書取、作文	「ヒチオ」氏文典、作文	「クエッケンボエ」氏窮理書、作文	飜譯
佛學			「ヒーラロー」氏幼生學科同氏寫文進步	同氏第一篇國語學、同氏幼生學科、同氏寫文進步	同氏第二篇國語學、同氏寫文進步	同氏第三篇國語學、英佛對譯
畫學	畫工大略及圖學ヲ教授ス					
體術	鞦韆、轉舞、擺手等ノ諸法ヲ教授ス					
水泳	毎夏二個月間教授ス					

明治七年中　出版書目

二月　後部運用教授書卷六

砲術教授書卷四

四月　後部運用教授書卷七

五月　化學大意卷一、卷二

七月　颶風寧要

日本志略卷二（按）豫科用

數學教授書答卷一

日本志略卷三

數學教授書卷四、五

後部運用教授書卷八

十月　代數學教授書卷一

十一月　艦砲操式前篇

明治七年末現在職員

少將兼兵學頭　中牟田倉之助

權　頭　佐々倉桐太郎

事務掛

七等出仕　一等秘書　河野榮次郎

大　屬　二等秘書營膳掛　前田正之

同

中　屬　三等秘書　安達重典

權中屬　書籍掛水泳掛　新波二郎

三等秘書　谷　信銳

同　安藤熊之助

十三等出仕　營膳掛　內田邦靖

並木元節

同　廳守則信

大主計　一等會計　中村致敬

中主計　二等會計　石丸和義

主計副　會計補　阿部定次

給與課

中　屬　道家雅道

權中屬　吉村君平

十二等出仕　澤　更造

十四等出仕　大川好義

書記掛

十等出仕　習字教授　館　德

同　大柳俊平

少　屬　教授所附　川口信義

十二等出仕　生徒掛　橋瓜保幸

同　周東通正

製圖係

權中屬　三浦義路
少屬　中川義忠
同　林雅昭
同　狩野雅喬
同　狩野昭信
十二等出仕　伊藤雅良
十五等出仕、博覽會事務局當分（出勤　山本重賢

小計　三十名

教官（武官ノ部）

大尉　寮直　數學　一等　山本淑儀
同　砲術　同　小林翹
同　同　同　中島伴九郎
中尉　同　數學　同　山澄直清
同　砲術　二等　谷信久
少尉　幼年數學　一等　永峯秀樹

航海術　同　荒川重平
同　同　中川將行
運用術　二等　笹尾精行
砲術　同　河村弘貞
少機關士　蒸氣機關　一等　手塚宜道
同　横井時庸
同　小蒸氣船掛　二等　眞田義一
掌砲長屬　一名

小計　十四名

（文官之部）

大教授　教授總監　澤太郎左工門
中教授　教授所掛　稽古船掛　本山漸
同　講堂掛　麻生武平
新寮教授所（豫科）　粟津高明
海軍省六等出仕　兼博覽會事務局員　航海教授書調　近藤眞琴

少教授

測地、造船、航海、數學掛　長田清藏

横須賀分校掛　渡邊忻三

大助教

飜譯、砲掛　教科書編輯　前田享

雛形室及蒸氣機械掛　正木保之

中助教

數學　白藤道恕

英學　錦織精之進

少助教

幼年英學　三輪光五郎

測地　幼年數學　市川清啓

數學　明治八年五月海軍教官筑波乘組　永井重英

幼年皇學　松波直清

幼年英學、數學　服部章藏

十等出仕　教師附　石原勇五郎

十一等出仕

圖學教授　狩野辰信

同　橋本雅邦

造船及皇學　船體雛形製造ヲ司ル　小林爲文

小銃　竹本正廣

船具運用掛　松岡春造

幼年皇學　小野邦尙

同　花房職

十二等出仕

幼年數學　西東信之

幼年皇學　山田養吉

英學　吉田直温

十三等出仕

書籍掛、水泳掛、數學　櫻井當道

十四等出仕

英學　造船掛　池田猪之助

幼年英學　佐竹萬三

同　皇學　石崎安藏

小計　三十四名

醫官　木下乾

少醫監　今井弘

軍醫副　橘道守

同　牟井成質

同　中村道久

小計　三名　若粟章

筑波艦掛　伊藤雋吉

中佐　艦長

少教授兼少佐　稽古場掛　福村周義

大尉　航海士　大坪正愼

中尉　三浦功

同　新井有貫

少尉　杉間爲雄

同　利根忠親

少尉補　森又七郎

同　平山藤次郎

少機關士　谷木義爲

同　宇野爲久

同　山口陳長

主計副　吉田直温

掌砲長　加藤佐吉

乾行艦掛　濱武愼

少教授兼少佐　艦長

明治七年

大尉一等士官　香山永隆
中尉二等士官　中村清三郎
少尉　田代郁彦
同　松田尚之
水夫長　明石岩吉
同　濱邊清次郎
利根川船掛
少尉　運用小蒸汽船掛　永田嘉之
等外一等出仕　賄掛　村田歌友
同　同　植林實利

寮直長ノ職務

一　寮直長ハ少佐或ハ大尉ニテ之ヲ勤メ諸官員ノ出勤及ヒ退出時刻ヲ監察シ毎朝出勤時刻十五分前ヨリ定刻迄諸官員ノ調印席ヘ立會致シ若シ時刻ヲ過ル者アレハ之ヲ兵學頭ニ進達スヘシ

一　寮直長ハ寮直之ヲ補佐シテ常ニ寮内外ヲ巡見シ生徒ノ品行ヲ監督シテ其ノ可否ヲ辨別シ詳細ニ之ヲ兵學頭ニ報告シ頭ノ許可ヲ受ケテ生徒ヲ賞罰スルノ權ヲ有スヘシ

一　寮直長ハ教官及生徒共授業ノ時刻ヲ達ヘス日課定則ノ通リ行ハル、ヤ否ヤヲ注意シ及時鐘ヲ監スヘシ

一　寮直長ハ生徒巡吏賄掛寮番寮僕等ノ取締ニ任シテ時々寮内ニ止宿シ諸事ヲ監督スヘシ

一　寮直長ハ生徒ノ出入願伺届等ノ事ヲ調査シテ之ヲ兵學頭ニ進達シ其ノ許可ヲ得テ處分ヲ行フヘシ尤モ授業ノ差支ナキトキハ時トシテ自ラ生徒外出ノ願ヲ處分スルノ權ヲ有スヘシ

一　寮直長ハ時トシテ生徒ト共ニ會食シテ其ノ善惡ヲ試ミ且會食ノ節生徒ノ行狀ヲ監督シテ若シ不行狀ノ者アルトキハ之ヲ督責シ或ハ兵學頭ニ報告シテ之ヲ罰スルコトアルヘシ

一　寮直長ハ寮直ヲシテ毎月一度ツ、生徒ノ衣服、書籍、諸品ヲ檢査セシメ若シ不足或ハ損傷ノ品アルトキハ其ノ事實ヲ糺シ兵學頭ニ進達シテ其ノ處分ヲナスヘシ

一　寮直長ハ時々朝夕ノ整列ニ立會シ其ノ儀ノ整肅ナルヤ否ヲ監スヘシ

一　寮直長ハ毎週一度ヨリ少カラス生徒ノ室内ヲ巡視シテ其ノ清潔ナルヤ否ヲ監スヘシ

一　寮直長ハ毎朝諸官員及ヒ生徒ノ病氣或ハ他ノ事故ニヨリ不勤ノ者ヲ檢シ其ノ姓名及ヒ事故ヲ記載シテ巡吏ニ命シ之ヲ兵學頭及教授總監ヘ差出サシムヘシ

一　寮直長ハ總テ日々取扱ヒタル事務及ヒ取締ニ關シタル見込等ノ事アラハ報告日記ヘ記載シテ毎週

火曜日ニ兵學頭ヘ差出スヘシ

寮直ノ職務

一 寮直ハ寮直長ノ補佐ニシテ諸事凡テ寮直長ノ命令ヲ受ケテ生徒ノ取締ニ任スヘシ寮直長若シ不在ノトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ奉シ直ニ兵學頭或ハ兵學權頭ノ命ヲ受ケテ處分スルコトアルヘシ

一 寮直ハ大、中、少尉ニテ授業ノ外他ノ分課ナキ者三名ニテ之ヲ勤メ互ニ交番シテ一名ハ必ス常ニ寮內ニ止宿シ學舍日則ノ通リ施行スヘシ

一 寮直ハ各手帳ヲ所持シ朝暮生徒ノ勤怠品行ノ善惡ヲ記載シテ每週寮直長ニ報告スヘシ

一 寮直ハ常ニ生徒ノ整列ニ立會致スヘシ殊ニ朝整列ノ節ハ別シテ衣服等ニ注意シテ不體裁之レナキ樣ニセシム

一 寮直ハ巡更ヘ案內セシメテ每夜消燈後凡テ寮內ヲ巡見シ諸事ノ取締ニ注意シ殊更ニ火ノ元ヲ大切ニ致スヘシ

一 寮直ハ常ニ生徒ト會食ヲナシ若シ食事ノ不宜コトカ或ハ生徒ノ不行狀ノコトアラハ直チニ寮直長ニ報告スヘシ且ツ休日及其ノ他ニテモ生徒ノ人員增減等ノコトヲ取調ヘ賄掛ヘ其ノ時々達スヘシ

一 寮直ハ賄掛及寮僕ニ命シテ常ニ寮內外夫々請持ノ場所ヲ掃除セシメ自ラ巡見シテ不潔ナラサル樣注意スヘシ

明治八年乙亥

一月一日 筑波艦ヨリ少尉補松永雄樹外十二名生徒二十二名歸寮ス

一月四日 筑波艦於長崎表臨時艦隊編入被仰付候處從前ノ通リ練習艦トシテ其寮管轄被仰付候事

一月九日 海軍始メニ付午前十時兵學寮ヘ臨幸アリ 奉迎奉送ノ式ハ例年ノ如シ 天覽ニ供シタルハ第一競漕操練、第二省內入堀ニ於テ水雷點火、第三同所乾行艦ニ於テ帆前調練、正午御晝饌午後一時中敎授麻生武平海軍歷史(チルソン傳)ヲ講ス午後二時式畢テ還幸アラセラル

勅語

海軍ハ國ノ主要タリ故ニ其大任ヲ擔當スル士官トナルヘキ者ハ第一其行ヲ正クシ其學ヲ成業セサルヘカラス各自宜敷此意ヲ體シ奮起勉勵セヨ

兵學寮ヘ臨幸ノ節雇外國人席次

上等士官(奏任官席)

「ダーグラス」 「ヂョン」 「ベーリー」 「サットン」

「ギッシンク」 「ハルヂング」 「ブリンクリー」 「ホース」

「コーニング」 「ホーエーレル」

中等士官(判任官席)

「フエントン」　「オーステン」　右ノ外十一人

寮門内へ

御雇水夫一同

春季試驗ノ及第、落第ノ點數ヲ定ム

一　皇學英學數學三科共ニ全點數三分ノ一以上ヲ得ルモノヲ第一ノ及第者トス

一　皇英數三科ノ内二科ノ全點數三分ノ一以上ヲ得ルモノハ第二等ノ及第トス

一　皇英數三科ノ内二科全點數ノ三分ノ一以上ニ及ハサル者及三科共三分ノ一以上ニ及ハサルモノヲ落第トス

一　落第セシモノハ再ヒ試驗シテ第二等ニ及第セサルトキハ退寮ヲ命ス

二月十一日　生徒處罰ノ件制定スル所アリ(按)横須賀分校ヨリ伺出ノ結果ナリ

當校生徒儀規則ヲ犯シ候節罰シ方ノ義懸隔ノ場所其都度伺出候テハ機會ヲ失シ候義モ有之候ニ付別紙ノ條々ハ不經伺於當校直ニ施行追テ御屆仕度候依テ禁足日限等但書ニ取調ヘ奉伺候至急御指令被下度此段申出仕候也

追テ本文ノ外重立候事件ハ其都度伺可仕候也

分校生徒懲罰規則

一　一週間禁足

寢起ノ定時ヲ外ス者、消燈後談話スル者、校内ニテ私ニ喫食スル者、外出シ歸校ニ遲刻スル者

一　二週間禁足

室内ニテ煙草ヲ吸フ者、校内ニ於テ吟詠放歌スル者ノ類、前條ノ罰二度ニ及フモノ

御召船春風丸、五馬力小蒸汽船ヲ附屬品共主船寮ヨリ受領ス

三月一日　雇教師「チャンプレン」本月中ニテ雇滿期ニ付尚ホ三月一日ヨリ八月三十一日迄雇續クコトトナレリ

三月六日　横須賀分校ヘ御臨幸、(按)鎮守府ヘ(行幸ノ御序ヲ以テ臨マセラル

三月十五日　書籍展覽所ヲ設立ス

今般書籍展覽所設立相成候ニ付日曜日及ヒ御祭日等ノ休暇ヲ除クノ外毎日朝九時ヨリ夕整列後マテ各課ノ生徒授業ノ餘暇同所ニ罷出看書可爲勝手候事、但シ展覽所中ニ於テハ看書ニ意ヲ用ヒ粗暴ノ擧動有之間敷候事

三月十九日　語學教師「コーニング」ヲ解雇ス

足下我明治五年第六月以來當學寮奉職中英、佛學、算術及造船術ノ教科ヲ兼授シ孜々勉勵ノ力ニ依リ

生徒一層ノ進歩ヲナスハ實ニ我輩ノ信スル所ニシテ欣喜ニ堪ヘス今滿期解約ニ至レリ乃チ茲ニ別紙目錄ノ通リ慰勞ノ證ヲ貴下ニ呈ス希クハ此レ其レヲ領掌セラレン事ヲ

海軍兵學頭　中牟田倉之助

明治八年三月

「ビフグラス、コーニング」君

別紙目錄

薩州鹿兒島製駕籠目燒　一花瓶　壹對

四月五日　有栖川稠宮殿下昨年來御通學中ノ處愈御入寮被遊

四月八日　練習艦筑波ニ本國回航ヲ命ス

筑波艦其艦兵學寮「エー」號「ビー」號生徒航海練習ノ爲日本環海六月間回航被仰付候修理落成次第發艦可致事

「エー」號

松永雄樹　河原要一　遠藤增藏　横尾道昱

櫻井規矩之左右　日高壯之丞　川島虎夫　早崎七郎

植村永孚　内田正敏　伊藤常作　島崎好忠

山本權兵衛　堀敬爾　天野才藏　藤田孝右工門

成川萬藏　上村正之亟　細江尚政

「ビー」號

矢部興功　澤良渙　片岡七郎　中村正亮

森下寧一　友野雄介　倉山季方　石井猪太郎

外記康昌　中村長國　上村彦之亟　本田弘

迫田甚之亟　官川保之　早崎源吾　雪下熊之助

四月十七日　海軍兵學少助敎永井重英筑波艦乘組申仕候事

四月十九日　山階宮定麿王殿下本日ヨリ御通學アラセラル（按）後ノ依仁親王殿下ナリ

四月二十日　機關生徒佐野政道、平田愼一退寮申付候事（成業ノ見込無之）

四月二十二日　豫科生徒秋庭直衛、山木艮三郎機關生徒申付條事

五月三日　本日ヨリ日課左ノ通リ定ム

朝起	五時	整列	六時三十分
朝食	六時四十分	授業　算	八時ヨリ十時マテ
授業　英	自十時三十分至十二時	晝食	十二時
授業　皇	自零時三十分至一時三十分	授業　運動、習字、圖學	自二時至三時

夕食　六時　獨見所　七時
牛乳　八時　消燈　九時

五月七日　左ノ生徒十三名ニ退寮申付（成業ノ見込無之ニ付）

松平政久　伊藤義和　伊東榮　大森純一
海野知覺　守谷王雄　川路新太郎　上原眞之進
小松養三郎　佐分利泰輔　村松鎭吉　吉富孫三郎
青山忠淳

機關生徒召募ヲ告示ス

一　當明治八年十一月海軍兵學寮ニ於テ機關生徒十五人ヲ選擧ス依テ志願ノ者ハ華士族平民ヲ論セス當十月十五日限リ兵學寮ヘ左ノ如ク願書差出スヘシ
但當府在住或ハ寄留ノ官員或ハ親戚ニテ身元引受可致事

願書案料紙美濃紙二ッ折リ控共二通可出

何年何月何日於何國何郡何地生　何府縣華士族平民何某男或ハ弟
東京在住或ハ寄留
父兄住所何々　何某　何年何月

右之者海軍出身志願ニ付御檢査ノ上機關科生徒ニ入寮奉願候也

明治八年　月　日　何府縣華士族平民東京在住或ハ寄留
何大區何小區何町何番地
身元引請人　何　某　印

海軍兵學寮御中

折返シ裏

前書之通相違無之候也　東京府印

一　當十一月兵學寮ニ於テ志願ノ者ヲ檢査シ合格ノ者ヲ選擧シ入寮ヲ許容ス

一　試驗ノ科目左ノ如シ

日本學　算術　代數學　英語學　英文習字　地理學　幾何學

一　入寮生徒ノ年齡ハ當十一月ニ至リ十三歳以上十五歳以下タルヘシ

一　生徒入寮ノ節ハ終身海軍ニ從事スヘキ誓書ヲ爲スヘシ

一　右生徒ハ入寮ノ日ヨリ衣服ハ勿論其ノ他ノ諸具ニ至ル迄悉ク官費ヲ以テ給與スヘシ

但シ青色ノ「フランケット」二枚續キ三枚、靴二足、靴刷毛一ツ、「フランネル」下襦袢五枚、股引五枚、靴下足袋十足、稽古用筆墨紙並必用ノ手道具ハ初メ入寮ノ節而已持參可致事

明治八年五月　　海軍大輔　川村純義

六月九日　英國及米國ヘ留學生ヲ命ス

生徒遠藤喜太郎、舟木練太郎、運用術及砲術修業トシテ英國留學

生徒瓜生外吉、世良田亮、運用術及砲術修業トシテ米國留學

生徒宮原次郎、丸田秀實、機械學修業トシテ英國留學

六月二十三日　海軍必需英書數部ヲ飜刷ス

別紙標目ノ書籍今般英國在留公使上野景範ヨリ呈送相成候處右ハ容易ニ難得品ニモ有之候ニ付於其寮每部百本ツヽ活字飜刷可致此段相達候也

兵學寮　御中　　海軍省

一「リツキング、ワルランツ」　一部

一「インヂニーヤ、エスタブリシメント」　一部

一「カルベントル、エスタブリシメント」　一部

一「エスタブリシメント、オフ、ガンナーストーア」　一部

一「ポースンスエスダブリシメント」　一部

一「プロポーション、オフ、ストーアサツブライ、バーチウオール、デパートメント」　一部

六月二十五日　在横須賀分校生徒ヲ試驗ノ爲メニ上京セシム

其校生徒試驗候ニ付來ル二十八日爲迎利根川船差向候ニ付出張ノ教官初メ巡吏生徒トモ一同同船ヘ爲乘組歸京可被取計候内田權中屬ハ御用取調出來次第歸京可致候此段相達候也

追テ暴風雨ノ節ハ順延ノ積ニ候也

七月六日　英國「アドミラル、ライドル」氏當寮參觀

生徒ノ白靴ヲ禁ス

一　英國教師「ケビテイン、ドーグラス」ヨリ英國ニ於テハ生徒白靴相用儀嚴禁ノ旨申聞候ニ付以來

右横ノ品相用候儀相禁候也此段布告ス

七月二十三日　先任教師「ドーグラス」歸國ス（二十五日横濱出帆）

（按）聞ク所ニ依レハ立國ノ大本トシテ海軍ノ最モ急務ナルハ當時識者ノ俱ニ同シク認ムル所ナリ從テ士官養成ノ急ヲ認メ英國政府ニ良教師ヲ依頼シタルハ川村海軍大輔（後卿伯爵）ノ力居多ナリト云フ而シテ英政府ノ撰ヲ以テ各職各科三十餘人ヲ聘シタリ「ドーグラス」氏ハ其ノ長タリ氏ハ威貌堂々タル偉丈夫ニシテ亦一團ノ和氣アリ一個ノ人物タリ而シテ其ノ實際我生徒ニ業ヲ授クルニ及ンテハ其ノ初念未開野蠻人ニ對スル觀念ヲ以テシタル者カ我青年ノ理會力ノ鋭敏ナルヲ驚嘆セリ然レトモ其ノ授クル所ハ主トシテ實地修練ニ止マリ殆ント理論ニ亘ル事ナシ之レ蓋シ其ノ國風ノ然ラシムル所カ或ハ特ニ我生徒ニ然クセシカハ知ラサルモ當時ニ在リテハ蓋シ其ノ法ノ最良ナルモノタリシヤ疑ナシ我海軍今日ノ發達ハ氏ノ力ニ負フ所實ニ尠少ナラス

八月二日　御召船蒼龍丸自今當寮所轄ト定メラル

八月三日　軍醫寮ヨリ左ノ通照會シ來ル

今般提督府浦賀港ヘ轉府可相成ニ付テハ從前設置候省内醫寮ノ義ハ全ク貴寮ノミ受持ノ事ニ相成候條右室ハ悉皆引揚ケ更ニ貴寮ヘ藥室御取設ケ當直等致候樣相成度左スレハ醫務ノ者一名司藥扱ノ者一名毎夜宿直相成候樣致度增員ノ義ハ別紙ノ通見込候條御異存無之候ハハ早速本省ヘ可申出此段及御掛合候也

增員

自十二等至十五等　壹人　但シ醫務

手傳トシテ等外出仕　參人　但シ司藥取扱

右ノ通增員見込ミ候也

右照會ニ對シ左ノ通回答ス

省内醫室御引揚ケニ付當寮ヘ藥室御取設被成度云々御掛合ノ趣承知致候當寮差支無之ニ付本省ヨリ御達ノ運ヒニ御取計有之度此段及御回答候也

八月二十日　本科生徒坂井廣四郎、山田萬壽吉、小池太次郎ノ三名退寮申付（成業ノ見込無之ニ付）

八月二十三日　教師「コンマンドル、ジョンス」氏ヲ「コンマンドル、ドーグラス」氏ノ後任ト定メラル

九月二日　海岸ニ建築セル重砲臺成ル

九月十六日　日課ヲ左ノ通リ改ム

朝　起　六時　　整　列　七時三十分

朝　食　七時四十分　　室内巡覽

授業　自九時至十二時　午食
授業　自零時三十分至二時三十分　皇、英一時間ッヽ、
　　自三時至四時　圖書、運動
晩食　五時　獨見所　七時
牛乳　八時　消燈　九時

九月二十日　砲術生徒學校ヲ海兵士官學校ト改稱セラル
十月一日　自費生徒福間惕介依願退寮
十月十七日　海軍少將兼兵學頭中牟田倉之助免兼官
十月二十二日　筑波艦實地練習トシテ米國桑港ヘ回航仰付候事
　但シ四ヶ月間ノ見込ヲ以テ諸支給向等準備可致且出帆日限取極可申出候事
十月二十四日　海兵士官學校假規則當分別冊ノ通定メラル十一月一日ヨリ施行(別冊ナシ)
十月二十七日　本寮所轄第一利根川船自今第一利根丸ト改稱セシメラル
十月二十八日　語學獨案內成ル
　納本ハ本省二部、史官二部、內務省三部
十月二十九日　士官生徒入校ヲ命セラレタル時各生徒持參品目左ノ通リ

石筆　三　鉛筆　三　鐵筆　三　鐵筆軸　一　半紙　一〇〇
水筆　一　眞書筆　一　墨　一　「インキ」　一

十月三十日　海兵士官學校假規則第三十三條中改正アリ
　他出セント欲スル者ハ時限及其ノ事由ヲ身元保證人ヨリ願書上ニ記載シテ其ノ掛ヘ呈スヘシ
　休暇日等午後第九時迄外出許可ノ所第六時迄
十一月十二日　生徒大砲實彈射擊ヲ行フ
　生徒大砲玉入稽古ノ義春秋二季ノ規則ニ付來ル十七日越中島ニ於テ執行仕度此段御屆仕候也
十一月二十五日　三菱會社商船學校創設ノ爲航海運用教官ヲ貸與セラル
　驛遞寮所轄郵便汽船三菱會社ニ於テ今般商船學校設立ノ筈ニ候處航海測量船具運用術ヲ得タル御國人教師ニ乏敷依テ當省技術官員ノ內兩名程來ル九年一月ヨリ當分借受度旨該寮ヨリ依賴有之候條右技術熟達ノ官員人撰ノ上姓名可申出該校規則書相添ヘ此旨相達候也
　右ニ對シ左ノ兩名ヲ撰扱シテ申出ッ
　　兵學寮出勤大尉　大坪正愼
　　日進艦出勤大尉　服部潛藏
(按)　三菱商船學校果シテ成後郵船會社ニ屬シ遂ニ官立トナル今ノ商船學校是ナリ

十二月七日　航海表始メテ成ル

八線表印刷製本等當寮ヘ御委任云々出第三千四百六十五號ヲ以テ御指令濟ニ付追々着手可仕ノ處表題ノ義八線表ニテハ不適當ニ付航海表ト改メ別紙草案ノ通序文竝目錄ヲ附シ編輯校合人名前ヲモ掲載仕度且該書編輯ノ義ハ中牟田少將兵學頭兼務中ノ事ニ係リ候ニ付序文ハ同氏名前ヲ以テ識シ候尤モ其義同氏長崎出發前既ニ承知ノ義ニ御座候此段伺出候也

（伺ノ通リ九年一月十七日）

十二月十四日　筑波艦「サンフランシスコ」着

十二月十七日　權頭佐々倉桐太郎卒死

十二月十八日　横須賀兵學校分校御用地反別書

五番地字向山一反別　一反九畝十歩（明治四年辛未年十一月造船所御用地ノ處同七年五月兵學寮分校ヘ引渡シ）

改　六反一畝十三歩　此金四十八圓三十三錢三厘（買上代價）

同字汐留新田一反別　一反四畝二十六歩　前同斷

改增減無之　此金五十九圓四十六錢七厘（買上代價）

（按）亦以テ當時ノ地價ヲ推知シ得ヘシ

兵學校大教授澤太郎左衛門當分寮務兼勤被仰付候事

十二月二十七日　兵學校大教授正六位澤太郎左衛門任兵學權頭兼兵學大教授

下宿ノ者心得方

一　來ル十日下宿ノ者ハ晝食後晩食前ニ出寮可致事

但シ本文日限後ニ下宿致候者ハ朝食後晝食前ニ出寮スヘシ　（按）出寮ハ寮ヨリ出ルナリ

一　下宿中御渡衣服帽子等一切着用不相成事

但シ前以テ自己ノ着服取寄置官服ハ脱シ出寮スヘシ

一　下宿中タリトモ自然遠方罷越候ハヽ其段寮直ヘ可申出事

一　海軍省近傍出火ノ節ハ至急歸寮可致事

一　願期相立歸寮ノ日ハ午後一時ヨリ三時迄ノ内歸寮可致事

一　下宿中不行跡無之樣注意可致事

一　在寮生徒ヘ用事有之罷越候節ハ寮直ノ許可ヲ得テ面話可致事

一　兼テ御渡相成居候手牒ハ出寮ノ節寮直ヘ差出スヘシ

休業中在寮生徒心得方

一　外出、平常、土曜日ノ通リ朝食後ヨリ午後五時迄ノ事

但シ外食致候輩ハ前夜七時迄ニ外食札差出可申事

一　同室ノ者下宿致候ハヽ總テ殘置候荷物心附可申事

朝　起　六時三十分　　整　列　八時
朝　食　八時十分　　晝　食　十二時
晩　食　五時　　夕　整　列　七時
牛　乳　七時十分　　獨　見　所　七時三十分
消　燈　九時　　寮直見廻　九時十分

明治九年丙子

一月五日　練習艦筑波桑港抜錨「メールアイラント」ヘ回航
一月六日　清國海軍生徒二十名餘當寮視察ノ爲來ル
一月七日　横須賀分校在勤被仰付　　兵學少教授　渡邊忻三
同　　兵學中屬　斯波二郎
同　　海軍機關士補　馬場新八
同　　同　吉田貞一
同所在勤差免　　兵學權中屬　澤更造
一月九日　海軍始メニ付海軍兵學寮ヘ　行幸可被爲在ノ處御風氣ニ付行幸アラセラレス
例年ノ通開講諸官員並ニ生徒之ヲ聽聞シ終テ生徒練砲場ニ於テ「アームストング」發砲練習ス
講義書目ハ千八百六十二年亞米利加合衆國南北戰爭記ヨリ抜萃甲鐵艦ノ略説ニシテ講義人ハ澤兵學權頭ナリ
一月十一日　筑波「メールアイラント」ヨリ桑港ヘ回航
一月十四日　豫科生徒河野虎彦蒸汽機關本科生徒申付
一月十五日　米國博覽會出品縱覽ノ爲生徒ヲ延遼館ニ派遣ス

一月十七日　大試驗優等生豫科生徒島村速雄、吉松茂太郎、中村靜嘉ノ三名ニ左ノ物品ヲ下賜ス

一　運用全書　一部　但シ圖共

一　航海教授書　一部

一　艦砲操式　一部

一　「ペンシル」　一本

同上落第生三名ニ退寮申付

本科生徒　濱田太二　牧野良兆　豫科生徒　荒井八介

一月二十日　筑波桑港抜錨「サンドウイチ」ニ向フ

一月三十日　生徒長、生徒次長ヲ置ク

教師「ジョンス」ヨリノ申出モアリタレハ當寮生徒中技術抜群且行狀正シキ者ヲ英國ニ於ケルカ如ク生徒長並次長ニ抜擢シ小遣金支給方等他生徒ヨリ優等ニシテ生徒一同ノ奬勵ヲ計ルコトヽナレリ

二月一日　筑波艦「ホノルヽ」發本國ニ向フ

二月三日　海軍中尉中村清三郎商船學校教授トシテ本月ヨリ當分驛遞寮ヘ被貸渡候ニ付兵學寮出勤免被

二月十日　自今海軍始ノ節御差支有之　臨幸在セラレサル時ハ皇族御名代臨場仰付ラルル旨達セラル

二月十一日　練習艦筑波「サンドウイチ」着

二月二十四日　雇教師英國「リユウテナント、ホース」解備

延遼館ニ於テ饗應左ノ　勅語ヲ賜ヒ且ツ御下賜ノ品アリ

勅　語　ノ　寫　「ホース」ヘ

我明治四年海軍教師ニ依頼セシ以來軍艦龍驤號ノ教授海兵隊ノ法汝能ク黽勉盡力シ終ニ今日ノ成蹟ヲ見ル朕深ク其功勞ヲ嘉賞ス

一　大和錦　三卷

右下シ賜ハル

勅語傳達ノ節川村大輔ヨリ添翰左ノ通リ

我　天皇陛下勅語ノ書付貴君ヘ贈致可及旨正院ヨリ被達拙者此ノ書ヲ貴下ニ進呈ス實ニ永年ノ功勞相顯シ貴下ノ爲メ拙者欣喜ノ至リニ不堪云々

愚勞トシテ更ニ贈與ノ物品ヘ同人ヨリ添翰左ノ如シ

「ホース」君貴下我明治四年來海軍教師ニ依頼セショリ軍艦ノ教練其ノ懇篤ナルニ依リ大ニ進歩致候且ツ海兵隊ノ教授モ是亦大ニ面目ヲ改メ候ニ至リ其ノ益ヲ得ルコト不尠候今般貴下ノ負任ヲ解クニ際シ我邦製品花瓶一對茶具一揃及金五百圓ヲ呈シ貴下ノ功勞ノ萬一ニ報セントス希クハ領掌アランコトヲ

（按）「ホース」氏ハ「アフリカ」ニ「アンサ」領事ニ任セラレ後「ハワイ」ニテ死セリト云フ

三月二十五日　龍驤艦實地研究ノ爲今般「ウラシヲストツク」港及「ポシエツト」港邊ヨリ朝鮮海ヘ航海仰付ラル

四月六日　雇教師「ブライヤント」解雇

以手紙得貴意候然ハ足下我海軍兵學寮ヘ奉職以來既ニ二ケ年間餘黽勉御盡力ノ段ハ深ク信スル處ニ候然ル處今般ハ歸國ニ付是迄ノ御勤勞ヲ謝シ併テ將來ノ御幸福ヲ祈申候　敬具

海軍大輔　川村純義

「ブライヤント」君

四月十四日　筑波艦横濱歸着

五月五日　先ニ遠洋航海ヨリ歸着シタル筑波艦ニハ「タイホイド」熱性病續々發生シ猶傳播ノ兆アルヲ以テ其ノ乘組一同ヲ池上本門寺ニ上陸セシメ消毒施行サル

有栖川稠宮御事乾行艦操練御稽古隔週金曜日午後二時ヨリ三時迄ト定メラレ本日ノ金曜日ヨリ初メラル

五月十日　生徒夜具渡方並保存期限等ニ付テ規定ス

五月二十六日　自今白袴着用ノ節ハ帽ノ日覆可相用旨生徒ヘ達ス

六月八日　朝鮮國修信使來ル

六月十三日　雇教師掌砲上長「オーステン」同上等掌砲長「ヨー」ノ兩人解雇

六月十五日　英國海軍中將「ライダ」來校

六月二十四日　雇教師「ジョンス」ヨリ練習生徒成績ニ關シ意見書ヲ本省ニ提出ス

余ハ筑波艦生徒ノ試驗成績ヲ閣下ニ進達ス生徒ノ半ハ運用術ニ於テハ試驗ニ所要ノ點數ヲ得タルモ航海術及數學ニ於テ良ク所要ノ點數ヲ得タル者ハ中山氏ナル一員ニシテ少尉ニ昇進サルヘキ人物ヲ一人ヨリ多ク報告シ能ハサルコトヲ余ハ嘆スルナリ然レトモ航海術及三角法ノミヲ學ハンカ爲今年殘餘ノ日數授業時間ハ當兵學校ヘ出席スヘク閣下貴國海軍ニ留置カント欲スル者ヘ命シ前顯二個ノ學業ヲ試驗シ若シ各業ニ於テ完全點數ノ十分ノ四ヲ得ル能ハサルトキハ放免スヘク警戒セラレンコトヲ建言ス且ツ余ノ意見ニ於テ貴國海軍ノ善良士官トナラサルヘキ者ノ人名書ヲ封入拜呈ス　敬具

東京日本帝國海軍兵學校ニ於テ

准艦長兼司令官「シー、ダブリユー、ヂョンス」

千八百七十六年六月二十一日

海軍大輔　川村閣下

甚タ不良ノ成績ヲ經タル生徒ノ人名書

中林　迫田　石井　細江　宮川　天野　成川　藤田　本田　上村

六月二十八日　英國軍艦「オーデシヤス」乘組ノ生徒佐藤鎮雄退艦其代リトシテ生徒富岡定恭ヲ同艦ニ乘組申付

七月五日　雇教師英國大機關士「ギツシング」ヨリ生徒教授ノ爲左ノ圖書ヲ献納ス依テ本省ヨリ金百圓ヲ下賜セラル

一　蒸汽機械圖　十一枚
一　同必要表　十四枚
一　同雛形　一個

七月十八日　雇教師「ヒツキンス」外五名歸國ス

二等掌砲長「ヒツキンス」　二等水夫長「ウイルバイ」
水夫長屬「ニコロス」　俊秀水夫「グランド」
俊秀水夫「クランウイン」　同「ウエスト」

右ノ外俊秀水夫「スミス」適應水夫「クイツキ」ノ二名ハ都合ニ依リ次ノ郵船ニテ出發スルコト、ナレリ

七月十九日　本年九月當省兵學寮ニ於テ機械科生徒二十名選擧ノ義東京府ヘ相達セラル

七月三十一日　筑波艦乘組生徒中林以下九名練習ノ爲左ノ通配乘セシメラル

龍驤艦ヘ乘組　中林長國　迫田甚之丞
東艦ヘ乘組　石井猪太郎　細江尙政
春日艦ヘ乘組　宮川保三　天野才藏
清輝艦ヘ乘組　成川萬藏
第二丁卯艦ヘ乘組　藤田幸右衛門
雲揚艦ヘ乘組　上村彦之丞

八月十一日　英國留學生舟木錬太郎、遠藤喜太郎英國軍艦ヘ配乘ノ件通報

千八百七十六年五月一日外務省ニ於テ

先月十二日余ヨリ送レル書簡ニ付左ノ一書ヲ受收シタル事ヲ謹ンテ閣下ニ報告ス即チ右書簡ニハ舟木練太郎及遠藤喜太郎ヲ各別ニ地中海ノ「スクワードロン」艦隊ノ旗艦タル官船「ヘルクレス」號及英國海峽ノ「スクワードロン」艦隊ノ旗艦タル「ミノタウル」號ニ乘組マシメ員外艦士試補ニ任シ食料ノミヲ給與スヘキ命ヲ海軍事務局ノ大臣海軍宰相ヨリ與ヘタルコトヲ記載セリ舟木練太郎ハ官船「スユルタン」號ニ乘リ「ヘルケレス」號ニ至ル可キ爲「ボルツマウス」ニ往クコトヲ要シ又遠藤喜太郎ハ「ミノタウル」號ニ至ル可キ爲「デホンボート」ニテ官船「デベンス」號ニ乘組ムコトヲ要シタリ余謹ンテ此事ヲ閣下之考案ニ供ス　敬白

海軍兵學校事務章程制定

舊兵學寮ニ兵學校ヲ設置セラル（按）改稱ノ意ナリ

兵學校長被仰付　　海軍大佐　松村淳藏

同教務課長被仰付　　五等出仕　澤太郎左衛門

「デルベール」印

九月一日　左ノ通川村海軍大輔ヨリ達セラル

其校出勤ノ面々是迄別段辭令書相渡候得共今般改定ノ際ニ限リ別段辭令書不相渡校員別紙ノ通リ相定メ候條本人ヘ通達可有之此旨相達候也

兵學校長　松村大佐殿　　川村海軍大輔

兵學校出勤

六等出仕　近藤眞琴　　六等出仕　麻生武平

同　粟津高明　　七等出仕　河野榮次郎

七等出仕　長田清藏　　八等出仕（大屬）　安達重典

八等出仕（大助教）　前田亨　　九等出仕（中助教）　白藤道恕

九等出仕（中助教）　錦織精之進　　同（同）　荒川重平

同（同）　中川將行

十等出仕　石原勇五郎

同（中屬）　斯波二郎

同　大柳俊平

同　竹村正廣

同（小助教）　服部章藏

十一等出仕（權中屬）　吉村君平

同（同）　内田邦清

同　狩野辰信

同　水野邦昌

同　山田養吉

十二等出仕　周東通正

同　並木元節

同　佐竹萬三

十四等出仕　大川好義

同（同）　永峰秀樹

十等出仕（中屬）　道家雅道

同　舘德

同　小林爲文

同（少助教）　永井重英

同（同）　松波直清

十一等出仕（權中屬）　安藤熊之助

同　橋本雅邦

同　松岡春藏

同　花房職

十二等出仕　橋瓜保輩

同　櫻井當道

同　石崎安藏

十三等出仕　佐々倉義道

十四等出仕　橘道守

十五等出仕　村田顯友
等外二等出仕　水野權之助
同　横内伸
兵學校出勤
海軍中佐　本山漸
同大尉　服部潛藏
同　山本淑儀
同中機關士　横井時庸
同機關士副　吉田貞一
同　馬場新八
同　佐久間國安
同大軍醫　前田清則
十五等出仕　秋庭八郎
等外二等出仕　篠崎學助
生徒ヲ退校セシム

等外一等出仕　植林實利
同　二等出仕　藤田則行
海軍大尉　香山永隆
同　根津勢吉
同中尉　谷信久
同少尉　河村弘貞
同機關士副　權田正三郎
同　原實員
同中主計　石丸和義
同少軍醫　熊谷直温
等外一等出仕　岩下周助

運砲科生徒　大野俊德
機關科生徒　永井平八郎　機關科生徒　野元從虎
兵學校監學課長被仰付　海軍中佐　本山漸
同庶務課長被仰付　七等出仕　河野榮次郎
同計算課長被仰付　海軍主計少監　有馬純武
九月二日　五等出仕　麻生武平　同　粟津高明
兵學校教務副長被仰付
九月五日　生徒ヲ筑波艦ニ乘組マシム

一號生徒
鹿野勇之進　永峰光孚　小倉鋹一郎　中山長明
大宮正路　武井久成　安原金次　甲斐直好
荒井柳次郎　成川挨　伊東義五郎　橋本正明
出羽重遠　新島一郎　三須宗太郎　馬場練兵

二號生徒
石田五六郎　井上敏夫　向山愼吉　石原忠俊

吉田鐵吾　大井上久磨　坂元八郎太　山田彦八
伊集院五郎　松枝新一　飯牟禮俊位　大河平隆義
大村三亟　池端清

三號生徒

中尾雄　淺岡俊吾　鏑木誠　深尾弘
中澤德太郎　丹治寛雄　佐久間秀三郎　林讓作
安岡淳吉　荒木保喜造　細谷資氏　本山丈三
永島松籟　玉利親賢　矢島功　中村貞邦
機關科生徒　近藤格

九月十一日　英國留學生徒大村松次郎試驗成績ノ件ニ付左ノ通達セラレシニ付之ヲ山口縣ニ申送ル

（成績表ハ略ス）

海軍省ノ生徒ナルコトハ明ナルモ果シテ兵學寮ノ生徒ナリシヤ又何年何月英國ニ留學シタルカ明ナラス後十一年五月頃海軍少佐ニシテ乾行艦長タリ

豫科生徒今井寛彦以下三十四名本科ヘ進ム

第二號生徒

今井寛彦　中村靜嘉　島村速雄　池田早苗
野元綱明　吉松茂太郎　松本有信　佐々木廣勝
高橋助一郎　伊東吉五郎　千頭正賢　加藤友三郎
伊地知季珍　齋藤孝至　淺井正次郎　藤井較一
松本和吉

第三號生徒

坂本一　栗田伸樹　成田勝郎　伊地知彦次郎
川浪治倫　福井正義　志賀直藏　田口三平
高橋義篤　仁禮幸助　馬場金八郎　梶川良吉
內田義方　今井兼昌　中江員可　上原伸次郎
逸見一來

九月十二日　海軍中佐伊藤雋吉筑波艦長被差免更ニ兵學校監學課長兼教務課副長被仰付海軍中佐本山漸筑波艦長被仰付

九月十三日　本月八日附御書面拜見致候然者測量手「アレキサンドルベイツー」及二等下士「オーゴスチンペンヲット」兩名義「ケプテインウイルラン」氏到着迄助力ノ爲メ筑波艦ヘ乘組之義許可致候左

様御承知有之度此段御答申進候也

海軍大輔　川村純義

准艦長兼司令官「ジョンス」貴下

九月二十二日　校長ノ印章一顆新鐫シテ渡サル

生徒稽古用船雛形製造ノ件ニ付左ノ通リ上申ヲ聞届ラル

一　凡金百八拾五圓

右ハ當校ニ生徒稽古用ノ爲メ備置候船雛形ハ外部ノミ顯レ内部ハ不相見稽古ニ差支候ニ付中央ヨリ二個ニ截斷シ内部ノ結構ヲ生徒ニ視セ度ト存候右截斷並繕ヒ等ノ入費其筋ヘ爲積候處本行ノ通相懸リ候ニ付當校定額金ノ内ヲ以テ仕拂度尤モ會計局ヘモ協議濟ニ御座候至急御指揮有之度此段申出候也

九月二十八日　豫科生徒十三名機關本科ヘ轉入セシメラル

澤　鑑之亟　岩城男外鐵　星　清二郎　福島篤平
志水正直　大塚文倫　萩島政吉　渡邊壽太郎
伊東茂治　相川信順　磯野善八郎　大屋釗三郎

通學少尉補及練習生徒ノ件制定

一　當校ヘ通學少尉補ノ義通學中ハ當校管轄ト心得可然哉

一　生徒ノ義校内ニ於テ座學成業ノ末實地研究トシテ當校所轄練習艦ノ外各艦船ヘ乘組相成候者ハ當校ノ管轄ヲ離レタル者ト心得可然哉

右二條御詮議ノ上何分ノ御指揮有之度此段伺出候也

右裁可サル

十月三日　豫科生徒石倉初太郎本科ヘ轉入セシム

雇教師天文學教師英國人「グールト」妻ト共ニ本日着京（一日横濱着）

十月十日　軍務局所轄海兵士官學校自今本校所轄トナリ兵學校分校ト改稱ス

十月十一日　左ノ通海軍兵學校官費自費生徒撰擧布達甲號及乙號ヲ布達ス

海軍兵學校官費生徒撰擧布達甲號

一　當明治九年十一月當校ニ於テ運用砲術測量科並蒸汽機關科ノ豫科生徒三十人（十二歲ヨリ十四歲マテヲ限リ）撰擧候條志願ノ者ハ華士族平民ヲ論セス當十月三十一日限リ左ノ雛形ノ願書東京府ヲ經テ當校ヘ差出スヘシ

但シ當府在住若クハ寄留ノ官員若クハ親戚等ニテ身元引請可致事

何府縣華士族平民何某男或ハ弟
東京何大區何小區何町何番地在住或ハ寄留

（美濃紙二ツ折リ捻二通共）

何年何月何日於何國何郡何地生

父兄在住所何々　何　某

九年十月何年何ヶ月

右之者海軍志願ニ付海軍兵學校ニ於テ御檢査ノ上(運用、砲術、測量科)歟(蒸汽機關科)豫科生徒ニ入校奉願度就テハ私儀身元引請ニ相立御規則遵奉爲致候間同校へ御通達可被下此段奉願候也

何府縣華士族平民東京何大區何小區在住或ハ寄留
何町何番地
身元引請人　何　某　印

明治九年　月　日

東京府　御中

(折リ返シ裏)

前書ノ通リ願出候條御檢査ノ上合格候ハヽ、入校御許容相成度此段申副候也

明治九年　月　日　東京府

海軍兵學校　御中

一　第一身體ノ檢査、但身體强壯ト雖近眼ノモノハ入校ヲ許サス

一　第二試驗ノ科目左ノ如シ但年齡及就學ノ年數ヲ斟酌スルコト

手跡作文　皇漢學國史略、輿地誌略十八史略　英學書取、文典　數學算術、幾何學代數學　地理學

一　右生徒ハ入校ノ日ヨリ衣服ハ勿論其他ノ諸具ニ至ル迄悉ク官費ヲ以テ給與スヘシ

但シ青色ノ「ブランケット」二枚續キ三枚、靴二足、靴刷毛一ツ、「フランネル」下襦袢五枚、股引五枚、靴下足袋十足、稽古用筆墨紙並必要ノ品ハ始メ入校ノ節而已持參可致事

一　生徒入校ノ節ハ終身海軍ニ從事スヘキ誓書ヲ爲ス可シ

明治九年十月　海軍兵學校

海軍兵學校自費生徒撰擧布達乙號

一　當明治九年十一月當校ニ於テ運用、砲術、測量科並ニ蒸汽機關科ノ豫科自費生徒二十人(十二歲ヨリ十五歲迄ヲ限ル)撰擧候條志願ノ者ハ華士族平民ヲ論セス當十月卅一日限リ左ノ雛形ノ願書ヲ東京府ヲ經テ當校ニ差出ス可シ

但當府在住或ハ寄留ノ親戚等ニテ身元引請可致事

何府縣華士族平民何某男或ハ弟
東京何大區何小區何町何番地在住或ハ寄留
何　某
九年十月何年何ヶ月

父兄住所何々

右之者海軍志願ニ付海軍兵學校ニ於テ御檢査ノ上(運用、砲術、測量科)歟(蒸汽機關科)ノ豫科生徒ニ入校奉願度就テハ私儀身元引請ニ相立御規則遵奉爲致候儀ハ勿論月々無滯納金可仕候間同校ヘ御通達可被下此段奉願候也

何府縣華士族平民東京何大區何小區何町何番地在住或ハ寄留
身元引請人　何　某　印

明治九年　月　日

東京府　御中

一　第一身體ノ檢査　但身體强壯ト雖近眼ノ者ハ入校ヲ許サス

一　第二試驗ノ科目左ノ如シ

手跡作文　皇漢學國史略、十八史略　輿地誌略　英學書取、文典　地理學　數學算術、代數　幾何學

一　身元引請人ヨリ毎月五日ヲ限リ其月ノ入費金六圓宛納ムヘシ尤モ衣服其他諸雜用小遣金等ハ當校ヨリ給與ス可シ

右納金之期ヲ遲延スル者ハ兩度迄催促スルトモ納金セサル者ハ退校セシムルコト

但青色ノ「ブランケット」二枚續三枚、靴二足、靴刷毛一ツ、「フランネル」下襦袢五枚、下股引五枚、靴下足袋十足、稽古用筆墨紙竝ニ必要ノ品ハ始メ入校ノ節ノミ持參可致事

一　滿十六歲迄ヲ豫科ニアル期限トス十六歲ノ末ニ至リ大試驗ニ合格セサル者ハ退校セシム合格ノ者ハ本科ニ移リ其日ヨリ官費トス

一　本科成業ノ後滿七年ノ間ハ本人ノ學術及其才能ニ從テ相當ノ俸給ヲ與ヘ必ス海軍ニ從事セシム尤モ七年ノ後自己ノ志願ニ任セ進退セシムヘキ事

明治九年十月

海軍兵學校

十月十二日　機關生徒撰集

機關本科生徒撰集ニ付當校豫科生徒ノ中竝他ヨリ志願ノ者トモ去月中教官竝ニ教師「サットン」試驗致候處外來生ニハ合格ノ者一名モ無之候「サットン」ヨリ閣下ヘ差出候試驗表竝ニ外來生體格竝ニ學術不合格ノ人名書トモ入御覽候尤モ豫科生徒ヨリ本科ヘ撰集ノ義ハ後ヨリ御屆可仕候此段申出候也

十月十三日　海軍中匠司渡邊忻三横須賀分校兼務被仰付置候處更ニ同校長心得兼務被仰付

十月十四日　本校所轄櫻丸小蒸汽船自今軍務局所轄トナル

十月十六日　本校所轄蒼龍丸ノ義自今軍務局所轄トナル

雇教師水夫長屬「ハンモンド」妻及男子ヲ伴ヒ來着

十月十八日　本校所轄櫻號自今軍務局所轄トナル

十月二十日　本校所轄御召船春風丸竝ニ付屬小蒸汽船自今軍務局所轄トナル

雇教師「チエンバーレン」本年中ニテ滿期トナルヲ以テ來年一月ヨリ十二月迄雇繼ノ上申ヲ出シ許可セラル

十一月十五日　教師「ハンモンド」ノ男子ヲ豫科學校ニ於テ修學セシムル事ヲ許サル

十一月二十四日　筑波艦乘組生徒四十五名試驗ノ爲來ル二十七日歸校セシムル樣筑波艦長ニ達ス

十一月二十五日　帆前操練ノ件制定

帆前操練ノ義ニ付上申

筑波、富士山、乾行等ノ各艦ヘハ是迄教師乘組各課教授相成候ニ付常備艦ヨリモ都合ヲ以テ人員差出傳習爲致來候得共帆前ノ一課ニ至リ候テハ事業多端ニシテ悉ク熟達致兼候殊ニ艦ノ大小ニ依テ檣桁ノ數不同モ有之實地施行ノ上ニ無之候テハ現場不適當ニ付御雇教師ノ内ヨリ二名位先以龍驤ヘ乘セ付同艦傳習濟各艦ヘ順次ニ乘組セ度候條許可相成度此段申出候也

東海鎮守府司令長官　海軍少將　伊東祐麿

海軍大輔　川村純義殿

申出ノ趣聞屆兵學校ヘ相達候條同校ヘ可及打合事

十二月八日　監學課長海軍中佐伊藤雋吉校長病氣不參中校長代理ス

十二月九日　生徒淺間俊吾退校申付ク

十二月十二日　生徒志願者合格者入校差許度義ニ付左ノ上申ヲ出ス

運用、機關豫科生徒志願人試驗ヲ遂ケ候處合格ノ者別紙人名ノ通ニ御座候一體自費生徒ハ二十名官費生徒ハ三十名撰擧ノ御布達ニ候處自費ノ分ハ志願者少ク隨テ合格ノモノ五名ニ有之官費ハ合格ノモノ撰擧ノ定員ヨリハ八名剩餘ニ相成就テハ官費志願人過員ニ候得共自費ノ分小數ニ付別紙人名ノ通リ合格ノモノ都テ入校差許度至急御詮議ノ上何分ノ御指揮有之度此段伺出候也

上申ノ通リ

官費生徒志願人年少ノ者入校差許度儀ニ付キ上申

官費生徒志願人ノ内別紙人名ノ者試驗ノ節低點ニテ不合格ノ者ニ候得共年齒弱齡ニ付教育ノ上ハ後來有器ノ人種ト見込候間今度限リ特別ノ課ヲ以テ入校差許度奉存候至急何分ノ御指揮有之度此段伺出候也

十二月十五日　實彈定數ノ制ヲ設ケラル

生徒用彈藥等一ヶ年定用云々ノ義上申

一　大砲放射　壹ヶ年兩度　大凡生徒百二十八トシテ此數四百八十發

但生徒一人ニ付二發ツヽ

一　小銃射的　　壹ヶ年　　大凡前同斷此數一萬〇八百發

但生徒一人ニ付九十發ヅヽ、臨時此數ヲ超ルコト可有之候

一　拳　銃　　壹ヶ年　　大凡前同斷此數一萬〇八百發

但前同斷

一　空發小銃稽古

但其期ニ臨ミ教師ノ見込有之候ニ付豫メ大凡ノ數モ治定難致候

右ハ當校定用品トシテ年々御渡相成度尤モ兵器局ヘ協議濟ニ御座候此段申出候也

申請ノ通リ但大砲發射ハ生徒一人ニ一發ノ割合ヲ以テ可相渡事

十二月二十七日　通學少尉補福島虎次郎以下左ノ人名艦務研究トシテ獨逸國軍艦「ビヲタ」號ヘ乘組申付ラル

少尉補　福島虎次郎　　少尉補　山本權兵衛　　少尉補　横尾道昱

同　片岡七郎　　同　澤良渙　　同　早崎七郎

同　中山訥　　同　河原要一

十二月二十八日　本校經費左ノ通リ定メラル

其校經費ノ義是迄定例費一ヶ月金壹萬圓宛其他給料並ニ諸需用費等ハ概額ヲ以テ月々相渡來候處來

ル明治十年一月ヨリ本校一切ノ常費及教師ノ給料並ニ需用諸費分校費共合計金一萬五千圓ヲ以テ一ヶ月ノ定例費ト相定候事此旨相達候也

明治十年一月十一日　豫科生徒ヨリ本科生徒ニ轉入者

岩城男外鐵　大塚文倫　磯野善八郎　星清次郎

澤鑑之亟　志水正直　福島篤平　大屋釛三郎

渡邊壽太郎　相川信順　伊東茂治　萩島政吉

下條於兎丸　石倉初太郎

一月十二日　雇教師「コンマンドル、ジョンス」病死ニ付來ル十七日其葬式ヲ終ル迄休業ス

別紙三號ノ通リ正院ヨリ御達相成候條此旨相達候事

但廢官ノ向ハ追テ何分相達候迄當分從前ノ通リ事務取扱可致事

（別紙第三號）

一　各省中諸寮被廢候事

但從前諸寮事務ハ各省長官ノ見込ヲ以テ適宜ニ局ヲ設ケ可屆出事

一　各省中大少亟以下被廢候事

一　諸省書記官屬官等給左ノ通リ被定候事

大書記官　四等　月俸二百圓　　權大書記官　五等　月俸百五十圓

少書記官　六等　同　百圓　　權少書記官　同　同　八十圓

以上奏任

一等屬　八等　月俸六十圓　　二等同　九等　月俸五十圓
三等同　十等　同　四十五圓　　四等同　十一等　同　四十圓
五等同　十二等　同　三十五圓　　六等同　十三等　同　三十圓
七等同　十四等　同　二十五圓　　八等同　十五等　同　二十圓
九等同　十六等　同　十五圓　　十等同　十七等　同　十二圓

以上判任

一月十七日　海軍生徒申付　市來勘六

海軍運用及砲術修業トシテ米國留學申付　海軍生徒　市來勘六

故教師「ジョンス」葬儀執行横濱英國人墓地ニ埋葬

豫科生徒ハ新橋停車場迄本科生徒及樂隊ハ横濱埋葬地迄見送ル

一月十八日　豫科生徒志願人ノ内ヨリ五十名ヲ採用シテ入學セシム

二月十九日　鹿兒島縣暴動ニ付キ本校所轄筑波艦當分鎮守府所轄常備艦ニ定メラル同二十三日午後一時横須賀發兵庫ニ向フ乘艦ノ生徒ハ退艦セシム（キナレトモ砲員不足ノ爲左記二十三名（半數）ハ乘艦ノ儘發艦セリ

吉田鐵吾　荒井柳次郎　飯牟禮俊位　伊東義五郎
伊集院五郎　大村三亟　大宮正路　小倉鉞一郎
鹿野勇之進　鏑木誠　佐久間秀三郎　坂元八郎太
出羽重遠　細谷資氏　三須宗太郎　向山愼吉
矢島功　安岡淳吉　安原金次　石田五六郎
中尾雄　中溝德太郎　近藤格

二月二十三日　本日生徒二十一名左ノ通リ淺間艦及日進艦ヘ分乘セシメラル

永峰光孚　中山長明　武井久成　甲斐直好
橋本正明　新島一郎　馬場練兵　井上敏夫
石原忠俊　大井上久磨　山田彦八　松枝新一
大河平隆義　池端清　深尾弘　丹治寛雄
林讓作

二月廿八日　分校生徒語學教師英國人「シームブソント」雇滿期ニ付解傭ス

三月一日　山階定麿王（後依仁親王）豫科ヘ御通學ノ處本日ヨリ御入校

三月十九日　豫科生徒川本平橘ヲ退校セシム

四月廿一日　生徒沖山良政ヲ罰ニ處ス

兵學校生徒　沖山良政

其方儀明治九年六月十四日夜脱校四十八時ヲ過キ且一週間内專掌スル處ノ官物ヲ典却ス其贓金百十七圓云々ニ付退校ノ上准流徒刑十年申付候處口供甘結後滯獄三十日以外曠過セシ日數百四十二日ヲ減シ九年二百二十三日申付候事

五月七日　豫科生徒(自費)堤雅長ヲ退校セシム

五月十九日　海外留學生徒歸京ノ者醫務局生徒、造船所生徒ヲ除クノ外自今兵學校管轄ニ定メラル

五月廿一日　初メテ軍用風船ヲ製ス

今般陸軍省ヨリ依頼ノ輕氣球兵學校ニ於テ製造方落成ニ付明二十三日無風無雨ニ候ハヽ午前第八九時頃北省門外操練場ニ於テ試揚施行致候條各廳御用ノ都合ヲ以テ來觀可爲勝手此旨相達候事

追テ雇教師等有之向ハ其廳ヨリ通知可致事

(按)　本年一月西南ノ役起リ擧國ノ兵ヲ合シテ肥後ニ集メ戰爭數月ニ亘リテ未タ熊本城ト連絡スルコト能ハス此風船ハ斯連絡ニ供センカ爲ニ製セリ而シテ當日俄ニ强風起リ成績分明ナラス且不充分ノ點ヲモ發見シ更ニ改造ニ從事ス其中ニ連絡成リテ實試ノ機ヲ得スシテ止メリ而シテ製作セシ風船ハ十一月平定ノ後試揚セリ此際ニ於テハ參觀者半ハ祝勝ノ賀事トシテセル如キ狀アリ

五月卅日　有栖川稠宮戰地御巡視ノ爲丁卯艦ニテ鹿兒島ヘ向ケ御出發遊ハサル

六月卅日　教師英國掌砲長屬上頭「ウイルリヤムゴートレイ」ヲ解傭ス

七月二日　兵學校生徒褒與例ヲ定ム

兵學校生徒褒與例

第一條　此例ハ兵學校生徒ノ學業進歩及品行善良ナル者ニ褒與ヲ授與スルノ法ニシテ毎年中夏試驗ノ後若干名ヲ撰定シ本省ニ具狀シテ施行スルモノトス

第二條　學業進歩ノ者撰定ノ方法ハ本科生徒(運用、砲術科、蒸汽機關科)ヲ數號ニ(今年ハ運用、砲術科ハ三號ニ蒸汽機關ハ二號ニ)區分シ各號中ノ各科目毎試驗點數最多キ者二名ヲ撰ンテ之ニ授與スヘシ

第三條　海圖科ハ該科中試驗點數最多キ者一名ヲ撰ンテ之ニ授與スヘシ

第四條　豫科生徒ハ(運用、砲術科、蒸氣機關科ヲ混淆ス)數號ニ區分シ(今年ハ分ツテ四號トス)其各號中本年運用砲術ノ本科ヘ進入ヲ要スル生徒ノ英學數學ヲ試驗シ其點數最多キ者四名ヲ撰ンテ之ニ授與スヘシ

第五條　豫科生徒各號中本年蒸汽機關ノ本科ヘ進入ヲ要スル生徒ヲ併合シテ英學數學ノ試驗ヲ行ヒ其點數最多キ者二名ヲ撰テ之ニ授與スヘシ

第六條　前二條ノ生徒ヲ合併シテ皇漢學ノ試驗ヲ行ヒ其點數最多キ者二名ヲ撰テ之ニ授與スヘシ

第七條　豫科生徒中末號ニ屬シテ本年本科ヘ進入ノ試驗ヲ爲ササル者ハ只夏季小試驗ニ於テ英學數學乃至漢學ノ點數トモ合併シテ其數最多キ者二名ヲ撰ヒ之ニ授與スヘシ

第八條　分校生徒ハ（今年ニ限リ）其生徒中試驗點數最多キ者ヲ撰ンテ授與スヘシ

第九條　本科、豫科共品行善良ノ者每號及分校生徒（今年ノミ）中一名ツヽヲ撰ンテ褒與ス其ノ撰定ノ法ハ入校以來（今年以降ハ夏季ヨリ夏季迄一週年間）無罰ニシテ其就業時間最多キ者トス

第十條　前條無罰ニシテ就業時間最多キ者若シ每號及分校生徒中二名以上アル時ハ其中諸學科ノ試驗點數最高ノ者ヲ撰フヘシ

第十一條　褒與品ハ其點數ノ多寡就業歲月ノ多少ニ因リ自ラ等差アリトス故ニ之ヲ數等ニ區分シ其物品代價一等ハ凡金二十五圓ヨリ多カラス末等ハ二圓ヨリ少ナカラサル可シ

第十二條　每年七月十四日ヲ以テ褒品授與施行ノ定日トシ（此日土曜日又ハ日曜日ニ當ルトキハ其前日トス）兵學校中ニ臨時其場所ヲ設ケ衆同會合シ生徒整列ノ前ニ於テ本省ノ長官該品ヲ手授スヘシ

但シ授與ノ時間ハ軍樂隊樂ヲ奏シ且生徒ノ親族朋友ニ縱覽ヲ許スヘシ

八月十三日　午前十時生徒學業進步及品行善良ノ者褒品授與式ヲ施行ス

八月十九日　教師英國人「ハンソン」願ニ依リ解傭ス

八月二十二日　筑波艦東海鎭守府所轄常備艦ヲ免セラレ本校所轄練習艦ニ定メラル

十月二十日　雇教師英國掌砲屬上頭「エマニユール、スメール、ヨー」不行狀ニ付放傭ス

十月三十一日　自今本校ヘ次長ヲ置カル

雇教師「ブリンクリー」滿期解傭ス

「ブリンクリー」ヘ左ノ勅語ヲ賜フ

勅語寫

我明治四年十月舊兵部省教師ニ依賴シ續テ海軍省ニ於テ砲兵生徒ノ教育ヲ擔任シ砲術及將帥術ノ練習等汝能ク黽勉盡力ス其功勞不尠

朕深ク之ヲ嘉尙ス

「ブリンクリー」左ノ通リ通知ス

昨日貴下我

天皇陛下謁見ノ節大和錦三卷下賜相成候ニ付貴下ヘ御渡可致旨宮內省ヨリ申越候間御回申候

條御領收有之候此段得貴意候敬具

中牟田海軍大輔代理ヨリ左ノ賞詞ヲ送ラル

賞詞寫

「ブリンクリー」貴下明治四年十月以來舊兵部省ヨリ引繼當省教師ニ依賴ス貴下專砲兵生徒ノ教育ヲ擔當シ六ヶ年餘ノ久シキ勵精盡力シ以テ今日定約完了ノ期ニ際ス其勤勞不尠當省ニ於テ感謝ノ至ニ堪ヘス今此ニ我國產靑銅花瓶一對同香爐一對及金三百圓ヲ進呈ス聊貴下勤勞萬分ノ一ヲ報酬シ併テ當省滿足ノ寸意ヲ表ス請フ之ヲ領セヨ

（按）「ブリンクリー」氏ハ初メ我海軍ニ海兵養成ノ爲ニ備入後海兵學校ヲ廢セラレ其生徒ハ兵學校ニ轉スルニ至リ氏ハ其後專語學教師トシテ從事セリ氏ハ我國語ニ精通シ其著ハス所語學獨案內ハ今ニ至テ尙語學界ノ珍重スル所タリ氏ハ此後横濱メール新聞主筆トナリ頗ル名聲アリ

十一月三日　來ル七日輕氣球試揚天覽ノ旨達セラル

（別　紙）

御省兵學校ニ於テ製造ノ輕氣球來ル七日築地海軍操練場ニ於テ再試揚ノ所右ハ內國初製ノ義ニ付同日學校ヘ臨御　天覽被爲在度云々御照會ノ趣承知致候則遂奏聞候處來ル七日午前九時御出門皇城內吹上ニ於テ今般凱旋ノ各縣召募ノ者整列　天覽被爲在還御ノ節同校ヘ臨幸被爲遊候旨被仰出候間此段及御答候也

明治十年十一月三日

海軍大輔　川村純義殿　　宮內卿代　宮內少輔　杉孫七郎

十一月七日　輕氣球再試揚ノ件ニ付省達

本日輕氣球再試揚ニ付臨御ノ御序ヲ以テ省內海岸練砲所備付ノ「アルムストロンク」砲一門ニ付空砲五發ツヽ其校生徒手續打方　天覽ニ相入候樣可致此段相達候也

追テ火藥等渡方ノ義ハ兵器局ヘ相達置候條同局ヨリ可受取此旨副達候也

十一月九日　運用航海砲術等修業トシテ英國留學申付

海軍兵學校本科生徒　伊集院五郎

同　深尾弘

十一月十日　雇教師「ヲスボーン」願ニ依リ解備ス

十一月三十日　本校所轄筑波艦實地練習ノ爲濠太利亞洲「シドニー」府ヘ回航仰付ラル

但航海五ヶ月間ノ見込

十二月十五日　午後三時芝離宮ニ於テ本校雇教師英國人「ウイルラン」外數名列席接待左ノ如シ

饗應

「ロレンスビール、ウイルラン」　同人妻

「フレデリック、ウイルリヤム、サウトン」　同人妻

「チャールス、ウイルリヤム、ベーリー」　同人妻

「トーマス、ヘンリー、ヂエームス」　同人妻
「ウイルリヤム、アンデルソン」　同人妻
「アルフレッド、ミルンス」　同人妻
「ジョン、イー、グールト」　同人妻
「ステフエン、シヤット」

接待

川村海軍大輔　中牟田海軍少將　伊東海軍少將　赤松海軍少將
林　海軍大佐　松村海軍大佐　伊藤海軍中佐　小森澤海軍中秘史
楠目海軍中秘史　澤　五等出仕　濱武海軍少佐　米川海軍少佐
大村海軍少佐　石川少書記官　大久保六等出仕
麻生六等出仕　同　人　妻
粟津六等出仕　同　人　妻

十二月廿日　東海鎮守府所轄雷電艦練習艦トシテ本校所轄仰付ラル
十二月卅一日　豫科生徒教師「ミルンス」雇滿期解傭ス

兵學校上申

當校豫科生徒教師「ミルンス」儀本月限リ滿期解約歸國可致候ニ付テハ奉職中教授向勉勵致シ候ニ付別紙案文ノ如キ謝狀被差遣度且外ニ代償金百圓内外ノ國產物壹品御賜與相成度此段申出候也

明治十年十二月十二日

指令　申出之通リ

但シ青銅花瓶一對差遣候事

足下我海軍兵學校豫科生徒教師トシテ去明治九年三月二十一日來着以來教授向勉勵被致候儀生徒學術進歩ニ於テ相顯ハレ深ク滿足ニ存候今般滿期御歸國ニ付右慰勞ヲ表スルタメ青銅花瓶一對ヲ贈リ候間御受納有之度候也

明治十年十二月

長官姓名

大學得業生　アルフレッド、ミルンス　貴下

生徒現在員（三十一日調）

皇族　二人　東京府士族　二四人　同平民　七人

計　三三人

府下寄留士族　一七四人　　府下寄留平民　一三八

計　一八七八

合　計　二二〇人

明治十一年一月九日　海軍始　臨幸アリ奉迎例年ノ通リ祝砲ハ分校生徒之ニ任シ本校海岸重砲臺ニ於テ生徒七「インチ」砲ノ空砲及實射次ニ輕砲臺ニ於テ乾行艦水兵戰爭操練次ニ圍柵内ニテ生徒禮式行進等天覽十二時四十分　還幸

還御ノ節祝砲ハ二號生徒之ニ任ス

一月十四日　本校卒業生徒齋藤實以下十八名ハ實地練習ノ爲メ乾行艦乘組ヲ命セラル

一月十五日　ヨリ四月十四日迄三ヶ月間英國人「リウテナント、ジー、エス、ホース」ヲ英語學教師トシテ本校ヘ傭入ル

一月十六日　生徒田川榮太郎依願退校

一月十七日　東海鎮守府所轄風帆船肇敏丸當分ノ内練習艦トシテ兵學校所轄トナル

本校所屬練習艦筑波横濱抜錨濠州「シドニー」ヘ向フ

（按）　同艦ハ三月九日濠州「ブリスベン」ヘ投錨同十九日「シドニー」ヘ向ケ抜錨同廿五日「シドニー」ヘ着四月二十七日「シドニー」抜錨横濱ヘ向ケ六月十三日品海ヘ着セリ

一月十九日　兵學校所轄横須賀分校ヲ造船所畫舍ト交換セリ

一月廿一日　兵學校事務章程中第一章第八條ノ次ヘ左ノ二條ヲ增加セラル

一　次長ハ佐官ヨリ之ニ任ス

但六等官以上ノ文官ヲ以テ任スルコトアルヘシ

一　其次長ハ職掌長ニ亞キ長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

一　第十三條削除

（按）當初寮時代ニハ頭以下文官制度ナリシカ次第ニ武官組織ニ改メ來リタレトモ未全カラス故ニ此ノ章程ニ於テモ尙文官ヲ以テ次長ニ任スル事ヲ規定セリ

純然武官組織ニ改メ今日ノ形體ヲ成セルハ明治十九年ノ改革以後トス

二月十六日　豫科學校規則中左ノ通リ改正セラル

二月大試驗ヲ　六月大試驗ニ

六月中試驗ヲ　十二月中試驗ニ

二月廿六日　生徒北鄕資良退校（疾病）

三月二日　兵學校所轄雷電艦ヲ練習艦ト定メラル

三月四日　海軍中佐本山漸兵學校敎務課副長被仰付

三月九日　機關生徒松本理太郎退校（品行不正）

本校生徒千頭正賢退校（疾病）

四月五日　海軍大佐仁禮景範校長被仰付

四月十五日　本日ヨリ十二月卅一日迄八ヶ月半英國人「リウテナント、エ、ジ、エス、ホース」ヲ英學數學敎師トシテ傭繼ヲナス（月額俸給二百圓トス）

四月廿七日　金剛艦ヲ屬セラル

英國ニ於テ新製ノ軍艦金剛號ヲ今般横濱着港ニ付自今其校所轄練習艦ト被定候事　艦位三等ト定メラル

四月廿九日　海軍兵學校次長伊藤雋吉金剛艦長被仰付

五月四日　兵學校敎務課副長海軍中佐本山漸兵學校監學課長兼務被仰付

六月四日　兵學校所轄横須賀兵學校分校自今兵學校所屬機關學校ト改唱本校機關科生徒悉皆同校ヘ轉移ノ旨達セラル

六月十四日　乾行艦乘組生徒齋藤實以下十八名金剛ヘ轉乘ス

六月廿日　本年八月海軍兵學校ニ於テ機關科生徒十二名七月十三日ヲ限リ華士族平民ヲ論セス一般ヨリ撰擧スルコトヲ東京府ヘ達セラル

七月十三日　英國人「ゼームス、ダブルユ、クラッチ」ヲ本日ヨリ滿三ヶ年間本校機關科敎師トシテ傭入ヲナス

七月十五日　賞與式ヲ施行ス

午前八時生徒ヲ二階圓室前ニ整列セシメ成績書ヲ與フ同四十五分赤松海軍少將來校生徒玄關前ニ整列シ之ヲ迎ヘ馬場内式場ニ於テ賞與式ヲ行フ事昨年ノ例ニ同シ

七月十七日　兵學校所轄第一利根丸自今横須賀造船廠所轄被仰付

七月十九日　生徒西原友忠、平井練次郎、塚原茂藏退校（試驗落第）

七月廿二日　運用、砲術、測量科ノ卒業生徒三十九名ニ假卒業證書ヲ授與ス

七月廿五日　關重忠、清水門之助、武田秀雄、戸澤大力試驗合格ニ付入校

七月廿七日　筑波艦乘組生徒佐久間秀三郎外一名金剛艦ヘ轉乘

七月廿九日　機關科生徒荻原政吉、石原初太郎退校（大試驗落第）

七月卅一日　本校教師生徒員數及校費

海軍兵學校　但船具、運用、海軍砲術、算術、航海測量及豫科學（皇漢學、英學、算術、圖學）

横須賀機關學校　但蒸汽機關學、算術、

兩校教員　六十二人内　内國人三十五人　外國人二十七人

生徒　二百十四人　滿六年ヨリ十四年迄ノ者五人、十四年以上ノ者二百九人

學資出納高　金三萬五千二百七十七圓二十五錢八厘

是ハ生徒總員二百十四人分ノ一ヶ年總費

但シ一人ニ付金百六十四圓八十四錢七厘

八月六日　有栖川稠宮　大試驗御及第ノ賞トシテ「セッキスタント」一函、地圖軸　御賜

山階宮定麿王　學事御勉强ノ賞トシテ圖引機械一組　御賜

八月七日　兵學校所轄金剛艦生徒練習ノ爲本邦周海巡航被仰付

八月十日　機關科一號生徒二名練習トシテ金剛艦乘組命セラル

八月十二日　生徒成川揆外一名疾病ノ爲金剛艦乘組免セラル

八月十六日　卒業生徒出羽重遠以下左記三十五名海軍少尉補ニ任セラル

出羽重遠　坂元八郎太　三須宗太郎　向山愼吾
小倉鉄一郎　安岡淳吉　伊東義五郎　鏑木誠
細谷資氏　石田五六郎　荒井久要　矢島功
中尾雄　安原金次　仮牟禮俊位　吉田鐵吾
中溝德太郎　甲斐直好　大村三亟　山田彦八
永峯光孚　武井久成　池端清　井上敏夫
松枝新一　大河平隆義　中山長明　丹治寛雄
新島一郎　林讓作　大井上久麿　石原忠俊

永島松穎　荒木保喜造　玉利親賢

八月十七日　英國軍艦「オーデシアス」號乘組生徒富岡定恭退艦歸朝ス

八月廿四日　本科生徒逸見一東退校(疾病)

豫科ヨリ本科ヘ編入ノ運用、砲術科生徒十八名ハ自今五號生徒ト稱セラル

蒸汽機關科生徒中一號ヲ先進號ニ二號ヲ一號ニ三號ヲ二號ニ新入生徒ヲ三號生徒ト稱セラル

九月七日　機關生徒森友彦六以下八名練習トシテ扶桑艦乘組ヲ命ス

機關生徒藤沼物以下四名練習トシテ比叡艦乘組ヲ命ス

九月十一日　生徒富岡定恭海軍少尉補ニ任セラル(一等級)

(按)　富岡生徒ハ明治九年六月以來英艦「オーデシアス」號ニ乘組練習シ十一年八月十五日退艦シタルナリ其技倆ハ直ニ少尉ニ任スルニ足レトモ規則上致方ナク少尉補トシテ直ニ一等俸ヲ給セラレタルナリ

九月十六日　生徒採用ノ制ヲ改メ又其數ヲ定メラル

海軍卿代理赤松海軍少將ヨリ左ノ通達セラル

其校生徒從來豫科本科ト相立總テ豫科ヨリ入校セシメ來リ候處自今本科ノミ入校セシム可ク尤モ

兵學校

毎年在校ノ定員ハ運用、砲術、測量ノ本科生百十二人機關ノ本科書三十六人ト相定候條此旨相達候事

但現今在校ノ豫科生徒ハ追々本科ニ可繰入隨テ新入校ノ義ハ本科ノ定員本文ノ數ヨリ相減候年ヨリ取計フ筈ト可相心得事

生徒定員改定

川村海軍卿ヨリ左ノ通達セラル

其校生徒定員ノ義ニ付過ル九月十六日附ヲ以テ相達置候處右ノ内運用、砲術、測量ノ本科生毎年在校之定員百十二人ト相定候義ハ全ク當分ノ定メニ付追テ該定員八十八人ト相定候筈ニ有之候條兼テ可心得置此段相達候也

十月卅日　獨見所ヲ新設シ室内ノ制ヲ立ツ

分校生徒ノ室内ニ冬季火鉢ヲ入ルル事ヲ禁シ室内ニ於テ就寢ノ外一切書見ヲ止メ講堂ヲ獨見所トシテ同所ニ於テ復習等ヲ爲サシムル事ト定ム

(按)　從來生徒室ハ二間位ノ小室ニ區畫シ各室四人ヲ容レ其内ニ於テ温習セシメ別ニ獨見所ノ設ケナク室ハ寢眠温習ヲ兼テ火鉢モ燈火モアリ監理上宜シカラサルヲ以テ今講堂ヲ以テ温習所トナシタルナリ後ニ到リテ別ニ温習所ヲ特設シテ今日ニ至レルナリ

十一月五日　兵學校生徒整列其他諸信號ノ爲喇叭專務ノ者二名自今本校定員ト定メラル

（按）　從來諸信號ハ鐘ノミヲ用ヒタリ

十一月十四日　本校一ヶ年ノ經費拾四萬千百二十圓ト假定セラル

但十一年七月ヨリ十二年六月ニ至ル會計年度

十一月廿一日　海軍中佐相浦紀道兼監學課長被仰付

海軍中佐本山漸兼監學課長被差免

（按）　監學課ハ今ノ監事部ニシテ監學課長ハ今ノ監事長ナリ

十二月二日　大試驗成績改定

本科五號機關科三號竝ニ豫科生徒共自今大試驗成績ハ小試驗ニテ得タル點數ト大試驗ノ得點數トヲ平均スルコトト相定候條此旨相達候事　（掲示）

十二月五日　兵學校規則竝ニ內則改正セラル但シ十二年一月ヨリ施行

十二月十三日　攝津艦自今練習艦ト定メ兵學校所轄被仰付

十二月廿六日　自今海軍始式廢セラル

十二月廿七日　卒業生徒佐久間秀三郎、本山丈三海軍少尉補ニ任セラル

十二月卅一日　兵學校生徒現在數

本科　運用、砲術、測量科　百〇三人　機關科　五十人

計　百五十三人　內乘艦三十一人

豫科　運用、砲術、測量科　二十人　機關科　一人

計　二十一人　內自費一人

合計　百七十四人

明治十二年

一月一日　英國人「バシル、ホール、チヤムバーレーン」及同國人「ジー、エス、ホース」ヲ傭入ル

「チヤムバーレーン」ハ豫科語學教師トシ「ホース」ハ英語、數學教師トス共ニ本日ヨリ本年度末迄ヲ期トス

（按）「ホース」ハ實際數學ヲ擔當シタルコトナシ「チヤムバーレーン」ハ後文部省雇トナリ帝國大學文科大學教師ヲ勤メ我國體文藝ニ關スル著書多シ「ホース」ハ明治九年二月解傭セラレタル海兵大尉ニシテ案内記書簡文ノ著アリ後轉シテ亞弗利加ニ「アンザ」領事トナリ其後布哇在勤中死去セリ

一月三日　海軍省雇教師ノ席順ヲ定ム

「コンマンドル」（我海軍少佐）　「エル、ビー、ウイルラム」

「チーフ、エンジニル」（我海軍機關少監）　「エフ、ダブリユー、サットン」

「ナビゲーチング、リユーテナント」（我海軍大尉）　「シー、ダブリユー、ベーリー」

同　（同）　「チー、エッチ、ジエームス」

「リユーテナント」（我舊海兵大尉）　「エー、ジー、エス、ホース」

「エンジニール」（我海軍少機關士）　「スーチーフン、ジヤット」

「プロフエツソル、オブ、メヂシン」(醫學博士)　「ウイルヽヤム、アンデルソン」

一月四日　海軍兵學校規則改定セラル

(註)　學期　運用、砲術科生徒ハ五箇年、蒸氣機關科生徒ハ六箇年ト定メラル

試驗　新入校生徒ノ試驗ヲ皇漢學、數學、英學ノ三大科トナシ及第者中ヨリ高點ノモノヲ撰ヒ採用ス

運用、砲術科生徒ノ試驗ヲ五種トナシ第一小試驗、第二中試驗、第三大試驗、第四終期大試驗、第五卒業大試驗ト定メラル

蒸氣機關科生徒ノ試驗ヲ三種トナシ第一小試驗、第二大試驗、第三卒業大試驗ト定メラル

賞與　生徒ノ賞與ヲ分チテ四種トナス(一領章ヲ受クルモノ、二甲ノ賞劵ヲ受クルモノ、三乙ノ賞劵ヲ受クルモノ、四品行善良ニ付賞品ヲ受クルモノ)皆毎年大試驗ニ成績ヲ審査シ品行學術ノ差等ニ依リ之ヲ與フルコトニ定メラル

一月九日　機關科一號生徒悉皆分校ヨリ新校ヘ移轉ス

一月十日　自今分校復習所廢セラル

二月三日　兵學校所轄金剛艦自今常備艦トシテ東海鎮守府所轄被仰付

二月六日　兵學校規則中生徒給與品規則改正セラル

二月八日　兵學校内則改正、本則ト共ニ施行セシメラル

二月十二日　非常警備規則、防火規則ヲ設ケ自今之ヲ施行セシメラル

二月十五日　教場出入ノ紀律ヲ設ク

一　席上稽古ノ日ハ各號ノ部長喇叭ノ合圖ニテ號中ノ生徒ヲ廊下ニ集メ總員整列ノ上講堂ニ導キ業終リ教官退場後各自混雜ナク退出スヘシ

一　外業ノ日ハ前記ノ通リ部長之ヲ各自ノ教場ニ導キ業終リ亦之ヲ校前ニ集メ解散ヲ命スヘシ

二月十八日　生徒夏服ハ從前春廣折襟製ノモノナリシヲ自今各服同樣「ジヤケツト」製ニ改メラル

兵學校所轄筑波艦實地演習トシテ支那海廻航被仰付

三月三日支那海廻航トシテ品海發航同廿七日新嘉坡着四月二日「ペナン」ヘ向ケ新嘉坡發港五月九日香港着同廿六日廈門着六月八日鹿兒島着港同廿日兵庫發六月廿三日品海ヘ歸着セリ

二月廿六日　本校内則第廿五條中課長以上巡視ノ節敬禮法左ノ通リ

一　課長以上講堂又ハ復習所ヲ巡視ノ節立禮ノ義其時々校直又ハ教官ヨリ「氣ヲ付ケ」ノ號令ニテ禮式ヲナスヘシ號令ナキトキハ禮式ヲナスニ及ハス尤モ室内ハ此限ニアラス

三月廿四日　生徒處罰申渡法ヲ改定サル

從前巡吏罰文讀渡來リ候處本校規則改正ノ結果自今校直ニ於テ讀渡スコトニ定メラル

三月廿五日　生徒懲戒法ヲ定メラル

一　毎月小試驗一ヶ月諸科全點十分ノ三以下ノ評ヲ受クル者ハ一週日外出差止メ引續キ二ヶ月同前ノ者ハ二週日三ヶ月同前ノ者ハ三週日三ヶ月以上一ヶ月ヲ加フル毎ニ半週日ヲ加フ

一　毎月小試驗二ヶ月引續キ諸科全點十分ノ四以下ノ評ヲ受クルモノハ一週日外出差止メ引續キ三ヶ月同前ノ者ハ二週日三ヶ月以上一ヶ月ヲ加フル毎ニ半週日ヲ加フ

四月二日　海軍卿川村純義ノ巡閲アリ

午前九時來校東海岸重砲臺ニ於テ生徒ノ七尹砲操練竝ニ五號生徒大砲町打試驗一覽畢テ乾行艦ニ於テ水兵整列竝帆前操練施行

午後一時新校授業場竝生徒室及本校生徒室其他階上五號生徒ノ授業場ヨリ圖學講堂一覽

退校ノ節生徒整列シ生徒長ヨリ各生徒ノ姓名ヲ呼揚ク此ノ日生徒ノ授業割左ノ如シ

運用科　一號　運用　　運用科　二號　航海　　運用科　三號　火工術
同　四號　航海　　同　五號　三角　　蒸汽科　一號　圖學
豫科　一號　算術　　豫科　B號　皇漢學
豫科　A號

四月十一日　機關生徒星野檜吉以下扶桑艦乘組免セラル

星野檜吉　山本安次郎　永嶺謙光　河野虎彦
大木治吉　穐桑直衛　成田整二郎　森友彦六

機關科生徒山本艮三郎、山本直德兩名金剛乘組ヲ免セラル

機關科生徒小鹽力三郎、横山正恭、藤沼狃、山原春海ノ四名比叡乘組ヲ免セラル

四月十四日　兵學校教務課長五等出仕澤太郎左衛門兵器局兼務ヲ免セラル

四月十五日　今般教務課廢セラレ更ニ左ノ六課ヲ置カル

航海課　砲術課　運用課　編輯課　機關課　普通學課

左ノ任命アリ

航海課長　六等出仕　近藤眞琴
同　副長　七等出仕　長田清藏
砲術課長　五等出仕　澤太郎左衛門
運用課長兼務　海軍少佐　濱武慎（乾行艦長）
編輯課長　海軍中佐　本山漸
機關課長　六等出仕　麻布武平
普通學課長　同　粟津高明

四月十九日　自今生徒處罰手續ヲ定メラル

一　一週日以下ハ校直立會生徒長次長ニ於テ罰文ノ讀渡ヲナサシム

一　二週日以上ハ監學課長立會校直ニ於テ罰文ノ讀渡ヲナサシム

四月廿二日　自今復習時間終業ニ至ルトキハ事業止ノ喇叭ヲ用ヒシム

四月廿三日　機關科第三期生徒大試驗落第ノモノハ第二期後半期ニ第二期落第ノモノハ初期後半期ニ繰下ク

四月廿五日　雇外國教師五人滿期歸國ス

「ジャット」　「オースチン」　「コックラム」　「グローリー」　「シントジョン」

四月廿九日　雇外國教師「クリストヂョン」滿期歸國ス之ニ漆器ヲ贈與ス

五月二日　雇外國教師十三人滿期歸國ス

掌砲長屬上頭	「ヂアイルス」	掌砲長屬	「イーストウード」
製帆手	「ベーカル」	機關掛火夫	「ブロックウエー」
測量手	「ベーリー」	下士	「ベンヂット」
俊秀水夫	「ウードワルド」	同	「シー、コリンス」
同	「ドナルドソン」	同	「ジョン、コリンス」
同	「ベッブレル」	適應水夫	「ホブトン」
同	「アッブス」		

五月十六日　兩宮殿下ノ御寢具自今生徒同樣ノモノ御用ヒアラセラル但從前ハ御自品御所有

（按）兩宮ハ　有栖川威仁親王殿下　山階宮定麿王殿下（後依仁親王殿下）ナリ

雇外國教師滿期歸國ス

上頭機關士「サットン」　測量士官「ベイリー」　小監補「クリスチスン」

六月八日　獨逸國皇孫「プリンス、ハインリヒ」殿下臨校アリ

一　校門外側ニ儀仗兵一小隊ヲ置ク乾行艦水兵之ニ任ス

一　同東側ニ樂隊ヲ置ク

一　御車校門ニ近クトキ儀仗兵捧銃シ樂隊ハ奏樂ス其時獨逸國旗ヲ本省ノ旗竿ニ上ク

一　祝砲二十一發ヲ放ツ一號二號砲員之ニ任ス

一　校門內ニ校長、次長、諸課長並諸官員生徒順次ニ中央敷石ノ左右ニ整列出迎ス校長ハ直ニ圓室ニ先導ス

一　圓室ニ於テ休憩酒菓ヲ供ス夫ヨリ校長先導生徒ノ技術供覽左ノ通

一　機關科生徒　先進號　製圖

一　同　一號　機關學
一　運砲科生徒　三號　航海天文
一　同　四號　三角術
一　同　五號　代數學
一　豫科生徒　一號　英學
一　同　二號　皇漢學

一　東海岸重砲臺ニ於テ生徒ノ大砲操練竝擊劍ヲ施行ス運砲科一號乃至五號生徒之ニ任ス
一　帆船操練乾行艦水兵之ニ任ス　御通車ノ節一覽終テ本省門ヨリ御歸館

六月十二日　午前九時獨逸國皇孫「プリンスハイリヒ」殿下延遼館御出門横濱港碇泊同國軍艦「プリンツアータルヘルト」號ヘ御歸艦
但シ本校ヨリハ有栖川、山階兩宮殿下御見送トシテ横濱迄御參港アリ

六月十三日　生徒懲戒令制定

六月十四日　午前十一時三十分海軍卿告諭アリ

六月十七日　乾行艦乘組生徒宇野順時死去ス

六月十九日　露國軍艦「ヂギイット」號艦長來校

從前生徒席次ハ年々大試驗成績ノ順ヲ以テ定メ組々ハ各號舊名ナリシヲ自今稽古組合ハ奇偶ノ數ヲ以テ分チ右舷左舷等ノ名ヲ附シ總テ同期生一緒ノ名ヲ附シ生徒長次長ハ右一號右舷左舷ノ中ヨリ撰扳部長ハ各舷ノ最頭ノ者ニ命スルコトニ定ム

六月廿日　改正規則ニヨリ豫科生徒ト入校願人トヲ合併シ同一ノ問題ヲ以テ大試驗ヲ施行ス
豫科生徒十七名ノ內

大試驗學術十四科共全ク及第ノ者　十二名
同十四科中一科或ハ二科落第ノ者　五名
入校願人外來生五十四名ノ內及第者　一名

（按）七月五日豫科生徒及第者十二名一科或ハ二科落第者五名ハ及第同樣本科ヘ編入外來入校願人中及第者一名竝高點者十一名ヲ合セ入校ヲ許サル

六月廿七日　生徒部長犯則ノ爲外出留ヲ命セラレタル節（部長懲戒中）ハ次席ノ者ニ部長ノ職務ヲ取扱ハシムルコトニ定メラル

六月卅日　生徒不品行ノ者ヲ懲戒ニ處スルトキ其減點ノ標準ヲ定メラル
但品行善良者ノ全點ハ百點トス　一週間外出禁足　十五點
歸校門限遲刻及缺食ハ　十點以下

二週間外出禁足　二十點　三週間同　三十點
一週間自室禁錮　四十點　二週間同　五十點
一週間別室禁錮　七十點　二週間同　百點

七月三日　生徒齋藤實以下十六名筑波艦乘組免セラル
生徒懲戒令改正
兵學校規則中運砲科生徒試驗第六條改正
第六條　卒業大試驗ハ終期大試驗ノ後一ヶ年實地航海ノ後施行シ及第ノ者ハ卒業免狀ヲ授與シ尙一ヶ年復習セシム
海軍大尉田中綱常筑波艦員外乘組免セラレ更ニ兵學校監學課長被仰付
七月五日　豫科生徒大江惟慶退校(不品行)
七月七日　筑波艦乘組生徒歸校ニ付本日及九日ノ兩日卒業大試驗施行(海軍卿參列セラル)
七月八日　機關科先進號生徒部長森友彦六ハ學術拔群且品行善良ニヨリ褒賞トシテ機關學書下附セラル、生徒賞與式ヲ施行セラル　但生徒ノ親族朋友ニ限リ參場ヲ差許サル
生徒ノ服裝ハ上衣黑服着用　賞與受領者左ノ如シ
將校生徒中

砲術科　五名　運用科　五名　航海科　五名　英學科　五名
皇漢學　五名　品行　四名
蒸氣科生徒中
機關學　三名　製圖及實地學　三名　英學　三名　數學　三名
皇漢學　三名　品行　三名
豫科生徒中
皇漢學　二名　數學　二名　英學　二名　別科　一名
品行　二名

七月十一日　生徒教室部別左ノ通リ
豫科生徒ハ本校　第二先進號生徒ハ分校　機關先進號生徒ハ新校
生徒ノ號稱ヲ改定セラル
從前先進號ハ　第一先進號
同一、二號ハ　第二先進號
同三、四號ハ　第一號
同五號ハ　第二號

豫科ヨリ本科ヘ編入ノモノハ　第三號

七月十六日　午前九時三十分米國前大統領「グランド」氏來校諸事取扱ハ獨逸皇孫來校ノ節ト同シ

七月廿六日　三品威仁親王殿下英國旗艦「アイロンジュク」號ヘ乘組仰付ラル

但皇族ノ御資格ヲ以テ御乘艦

（按）八月廿八日　殿下「ウラジヲストック」御着

七月廿九日　本日ヨリ十五年七月廿八日迄三ヶ年間本校生徒ノ船具運用ノ教師トシテ英國人「ウイルリヤム、ヘンリー、チップ」ヲ傭入ル

本日ヨリ十五年七月廿八日迄三ヶ年間本校生徒ノ砲術教師トシテ英國人「フレデリツキ、ハムモンド」ヲ傭入ル

以上給料一ヶ月日本貿易銀百五十圓ノ定メ

（按）兩人ハ先年一旦解傭セラレタル英國海軍ノ一等下士ナリ

八月二日　海軍樂手鎌田政明ハ　三品威仁親王英艦「アイロンジュク」號御乘組中隨從申付

三品威仁親王殿下勳一等旭日大綬章御拜授

八月九日　生徒山内萬壽治以下十六名海軍少尉補ニ任セラル

山内萬壽治　坂本俊篤　齋藤實　野口定次郎

岩崎達人　北古賀竹一郎　山田錄郎　成川揆

髙桑勇　大西庸行　宮岡直記　矢部功正

瀧川具和　荒川才藏　寺垣猪三　大濱和壽

生徒森友彦六以下七名ハ海軍機關士副ニ任セラル

森友彦六　河野虎彦　山木長三郎　大木治吉

秋庭直衛　山本安次郎　山本直德

八月十九日　兵學校次長海軍中佐相浦紀道筑波艦長仰付ラル

九月五日　郡司成忠ノ席次ハ本校敎則第三條但シ書ニヨリ第二先進號ノ上ニ定メラル

本校所轄筑波艦生徒練習ノ爲本邦周海廻航仰付ラル

（按）九月廿五日品海發十月三日室蘭ヘ着同十二日函館着同廿八日長崎着

九月十日　運砲科第二先進號生徒郡司成忠（及島村速雄級）以下三十一名練習トシテ筑波艦乘組命セラル

郡司成忠　島村速雄　加藤友三郎　吉松茂太郎

成田勝郎　佐々木廣勝　中村靜嘉　藤井較一

齋藤孝至　馬場金八郎　今井寛彦　福井正義

松本有信　中江員可　志賀直藏　田口三平

上原伸次郎　梶川良吉　淺井正次郎　松本和
野元綱明　伊藤吉五郎　川浪治倫　栗田伸樹
高橋助一郎　今井兼昌　伊地知季珍　伊地知彦次郎
坂本一　仁禮幸助　高橋義篤

九月十一日　海軍少尉補山内萬壽治以下十六名ハ兵學校試驗規則第六條ニヨリ尚ホ一期在校ヲ命セラル

九月十三日　軍務局附屬教師「ウイルラン」本校附命セラル

九月廿七日　海軍少尉補川村正介海軍生徒申付

海軍生徒川村正介海軍學科修業トシテ三箇年間英國留學命セラル

九月卅日　兵學校試驗規則第六條ニ依リ在校ノ少尉補ニ限リ生徒懲戒令ニ觸レタルモノハ生徒ニ准シ處分スルコトニ定メラル

中川重光以下六名入校申付(三號右舷ニ編入)

廣瀨勝比古以下六名入校申付(三號左舷ニ編入)

右舷　中川重光　愛知　瀨之口覺四郎　鹿兒島　深川喜文　佐賀
　　山下源太郎　山形　川合昌吾　岡山　森義太郎　岡山

左舷　廣瀨勝比古　大分　石橋甫　石川　中村健次郎　大阪
　　澤田友次郎　東京　名和又八郎　福井　加藤定吉　東京

本校規則學科表改正當分ノ内假施行

本年ヨリ卒業ノ兵學校生徒ヘ授與ノ免狀ハ菊御紋章漉透シ竝ニ銅版印刷附着ノコトニ定メラル

十月一日　本日ヨリ十四年九月卅日迄二箇月間兵學校生徒ノ算術、航海術及航海天文學ノ教師トシテ英國人「ジョン、イー、グールド」ヲ備入ル給料一箇月貿易銀二百二十四圓ノ定メ

本校規則中科業定時ヲ當分左ノ通リ定メラル

九月十一日ヨリ四月十九日迄

午前九時　授業始　十一時四十五分授業終
午後一時　同　四時　同

四月廿日ヨリ五月卅一日迄

午前八時　授業始　十一時四十五分授業終
午後一時　同　三時　同

六月一日ヨリ七月十日迄

午前七時三十分　授業始　十二時　同

自余ハ四月廿日ヨリ五月卅一日迄ニ同シ

十月八日　自今本校新校ノ兩校廊下中央ニ於テ復習終リ信號喇叭ヲ吹クコトニ定メラル

十月十一日　兵學校教員及俸給等次表ノ通リ制定

教授	准奏任	一等ヨリ七等ニ至ル　自二百五十圓至百二十圓
教授補	准判任	一等ヨリ十三等ニ至ル　自百圓至十五圓

十月十三日　兵學校規則中科業定時當分假定試施行

十月廿三日　自今帆船操練ノ節帆檣等ニ登ル輩ハ帽ノ紐ヲ腮ニ掛ケ且靴紐ヲ確ク結ヒ置キ總テ諸品離落セサル樣注意ノ件校直ヨリ口達セラル　但靴ハ甲板上ニ置クモ不苦候事

十一月廿八日　兵學校消耗兵器定額表確定　但十四年一月ヨリ定數支給ノ事

演習用實彈	生徒二組(五十六名)一名ニ付一ケ年	一
同榴彈	同　同	一
同小銃彈藥	生徒二組(五十六名)一名一ケ年「スナイドル」彈藥	二〇
同小銃空發	生徒(百四十二名)一名一ケ年「リチセルート」銃彈藥	二一〇
同拳銃彈藥	生徒(八十五名)一名一ケ年	三〇
同摩擦管	生徒一組(二十八名)一名一ケ年	四〇
	砲一門ニ付一ケ年	一〇〇

十一月廿二日　小試驗施行方法左ノ通定メラル

第一則　小試驗ハ毎月廿四日(二月ハ廿二日、十二月ハ十四日)ヨリ始メ月末迄ニ終ルヘシ

但雨天ノ節外業ハ此限ニアラス

第二則　小試驗科目及其時日ヲ生徒ニ豫告スルニ及ハス

第三則　小試驗ヲ終リタル翌月ノ五日迄ニ各課長ヨリ小試驗ノ總表ヲ校長ニ差出スヘシ

十一月十九日　一號生徒岩田久藏退校(品行不正)

十一月廿一日　本校内則第四十八條及生徒心得第卅一條中改正

第四十八條校内ニ於テ「オーバコート」ヲ着スルヲ禁ス

但校外ニ於テモ雨天ノ外ハ校直ノ許シヲ得サレハ着スルヲ禁ス

第三十一條　外出ノ末親族ノ外ニ於テ飲酒シ且途中ヲ醉歩スルハ勿論酒氣ヲ帶テ歸校スルヲ禁ス

十一月廿五日　本日ヨリ十四年十一月廿四日迄三ケ年間日本海行演習艦或ハ海軍兵學校生徒ノ航海術及數學ノ教師トシテ英國海軍士官「トーマス、エイチ、ゼームス」ヲ備入ル給料一ケ月日本貿易銀三百三十五圓ノ定メ

十二月二日　海軍卿ヨリ達

其校所轄筑波艦是迄海外遠航三回ニ及ヒ殊ニ屢々熱帶地方ヲ經過シ且今般爲練習周海ヲ巡航シ其

苦勞不少段深ク感銘ス

右同艦ヘ傳達相成度候事

慰勞トシテ乘組員一同ヘ酒肴料下賜セラル

十二月三日　本校懲戒令中第二類ニ該ル生徒ハ懲戒中タルトモ講堂授業ハ勿論外業座學ヲモ許サル

十二月四日　伊太利國皇族「ゼーワ」侯來校アリ

一　午前九時三十分來校

一　校門外側ヘ儀仗兵一小隊ヲ置ク（乾行艦水兵之ニ任ス）

一　同東側ヘ樂隊ヲ置ク

一　御車校門ニ近クトキ儀仗兵捧銃シ樂隊奏樂ス同時ニ祝砲二十一發ヲ放ツ（一號左右生徒之ニ任ス）

一　校門內ヘ校長並諸課長諸官員及生徒順次中央敷石ノ左右ヘ整列終テ生徒ハ各講堂ニ就ク但授業ハ木曜日同樣心得ヘシ豫科ハ皇漢學

一　圓室ニ於テ休憩アリ夫ヨリ校長先導生徒ノ技術供覽左ノ通リ

生徒ノ服裝「ラシヤ」服

左舷　一號　講堂　　右舷　一號　講堂

二號　講堂　　右舷　三號　同

豫科　同　　左舷　三號　同

新校復習所　　機關科圖學講堂

運砲三號生徒雛形室

一　東海岸重砲臺ニ於テ運砲科先進號一號二號生徒ニテ大砲操練並ニ擊劍アリ

畢テ本省門ヨリ歸館

「ゼワー」侯ヨリ褒詞アリ

本日貴校ニ臨ミ各生徒各科ノ學術大ニ進歩シ加之精神活潑ニシテ勇壯ナル動作就中大砲操練最善良ナル等予盡ク感銘ニ堪ヘス尙向後各生徒勉勵且貴國海軍ノ愈益振興アランコトヲ希望ス

十二月十二日　筑波艦乘組生徒當分ノ內本校ニ於テ坐學セシメラル　但シ乘組生徒ノ儘ニテ

十二月廿三日　生徒郡司成忠海軍少尉補ニ任セラル

十二月廿五日　天皇陛下特ニ本校ヘ臨幸アリ

一　午前九時三十分本校ヘ臨幸

一　北門外ニ於テ乾行艦、攝津艦水兵捧銃シ樂隊奏樂ス

一　校門外ニ奏任官以上ノ諸官員及士官以上ノ雇外國人奉迎ス

一　校門内左右ニ判任官、生徒及中士以下雇外國人奉迎ス
一　玄關ニテ御下車海軍長官竝校長御先導圓室ニ着御
一　海軍長副官、校長、海軍將官及諸艦船長、各廳長、兵學校諸課長竝士官以上ノ雇外國人謁見畢テ茶菓ヲ供ス
一　東海岸練砲場ニ於テ生徒ノ艦砲操練竝操劍術施行續テ乾行艦水兵帆前操練　叙覽畢テ午前十一時三十分還幸本省門内ニテ水兵捧銃シ樂隊奏樂ス

本日　勅語アリ川村海軍卿厚ク聖旨ヲ奉シ各勉强アランコトヲ希望スル旨訓示アリ

勅　語

朕本日諸生徒ノ事業ヲ觀ルニ進歩復昔日ノ比ニアラス感悅ノ至リ尙各勉强シ漸次海軍ノ盛大ナランコトヲ望ム

十二月卅一日　生徒一覽表

本科	運、砲	百十二人
同	機關	四十三人
豫科		四人
計		百五十九人

明治十三年

一月九日　海軍少佐田中綱常兵學校監學課長仰付ラル
一月十日　海軍卿竝林海軍少將來校生徒總員ノ砲臺操練一覽
一月十二日　筑波艦乘組生徒島村速雄以下三十名ハ學術修業ノ爲横須賀分校ヘ差遣ヲ命ス（三月廿五日歸艦）
一月廿日　兵學校所轄筑波艦ヲ航海練習艦ニ同乾行艦、攝津艦、雷電艦ヲ繫泊練習艦ト定メラル
一月廿一日　兵學校所轄葵敏艦々等自今五等ト定メラル
軍人ノ遺族（但准士官以上）ハ官費ニテ豫備科ニ入學ヲ許サル
（按）兵學校豫科ハ二樣二種時ヲ異ニシテ設置サル第一ハ廣ク國中ヨリ募リタル者ニシテ曩ニ廢セラレ茲ニ記セルモノハ第二ニ屬シ海軍々人ノ子弟ノミヲ試驗ノ上採用シ遺族ハ官費父兄生存ノ子弟ハ自費ナリ故ニ其員數最多ノトキニ於テモ三十人ニ充タサリシナリ
二月八日　威仁親王殿下英國海軍少尉補ニ御昇進アラセラル
但在香港英國旗艦「アイロンジューク」號ニ於テ試驗ニ御及第ノ上軍艦傳令官タルニ適格ノ證書ヲ受ケラレ前記ノ通リ御昇進アラセラル
二月十四日　少尉補山内萬壽治以下十六名在校差免セラル

三月十日　其校所轄筑波艦生徒演習トシテ北亞米利加西海岸萬古福島ヘ航行仰付ラル

（按）四月廿九日北米萬古福島ヘ向ケ品海抜錨六月九日萬古福島「エスカイモルト」港着七月一日同港發同六日桑港着同三十日同港發八月十八日布哇島「ホノルル」港着同廿五日同港發九月廿九日横濱港ヘ歸着十月八日品海ヘ回航

三月十五日　生徒一月一日菜菓料ヲ廢セラル

三月十六日　海軍卿來校々内各詰所各講堂竝生徒室ヲ巡視セラル

三月十七日　兵學校生徒年齢十四年ヨリ十八年迄ノ者ヲ選擧召集ノ義稟請裁可セラル

三月廿六日　兵學校運用、砲術、航海科生徒二十八名來ル六月選擧ヲ東京府ニ達セラル但該手續等別紙ノ通リ（別紙略）

志願者心得抜萃

年齢　十四年ヨリ十八年

書式　第一入校願書　第二戸籍明細證書

檢査　第一身體ノ檢査

第二學術試驗科目（本年ヨリ各小科目ニ就テ試驗法或ハ程度ヲ明示セリ）

皇漢學　日本外史、十八史略、作文

數學　平算、代數、對數、幾何

英學　文法、作文、書取、會話、地理誌、「バーレー」萬國史、「ガノー」窮理書

四月十四日　本校備教師「チップ」病氣療養トシテ一時歸國ヲ許サル

（按）五月六日出發歸國ノ末病氣全快ニヨリ同十一月十一日再ヒ來著ス

四月十九日　本日ヨリ機關科先進號生徒淺田整次郎以下六名ノ卒業試驗ヲ施行ス　但同廿八日終ル

四月廿九日　海軍少佐勝小鹿願ニ依リ攝津副長兼兵學校砲術課副課長ヲ免セラル

五月十四日　機關生徒ノ爲ニ授業料ヲ造船所ヘ辨償ス

五月十九日　藤沼牧以下七名海軍機關士副ニ任セラル

六月一日　一號生徒終期大試驗施行海軍卿臨席　但七月六日終ル

六月九日　兵學校生徒卒業證書授與式擧行

（按）明治七年九月英國教師「ドーグラス」氏ノ證狀（運砲科）ヲ受ケシ少尉補假免狀（運砲科）ヲ受ケシ中尉安田虎之助以下十二名十一年七月當校假免狀（運砲科）ヲ受ケシ少尉鹿野勇之進以下三十八名及今般新規調製ノ免狀ヲ受クヘキ少尉補佐久間秀三郎以下十九名竝九年七月英國教師「サットン」氏ノ證狀ヲ受ケシ少機關士副森友彦六以下十三名ニ對シ成規ノ卒業免狀ヲ授與セラル

六月十一日　繫泊練習艦雷電艦練習ノ爲露領樺太ヘ向ケ品海抜錨（八月一日品海ヘ歸着）

六月廿四日　露國海軍少將「ラスランベコーフ」及士官來校生徒ノ講堂授業及重砲臺ニ操練ヲ一覽ス

七月三日　豫科生徒淺田亨校内ニ於テ病死セリ

七月五日　本校十三年度經費額ヲ十三萬圓ト定メラル

七月十二日　兵學校編輯課長海軍中佐本山漸兵學校次長兼同校編輯課長仰付ラル

七月十七日　海軍大尉牧兼甫兵學校監學課副長仰付ラル

七月十九日　午前八時圓室ニ於テ試驗優等生徒ノ賞與式施行　但親族朋友ニ限リ參觀ヲ許サル

運砲科一號生徒ヲ第二先進號ニ二號ヲ一號ニ三號ヲ二號ニ追テ入校スヘキ生徒ヲ三號ト稱セラル

七月卅日　木年入校志願者九十名ノ内體格不合格ノ者三十六名ヲ除キ殘リ五十四名ノ學術試驗ニ全ク合格ノ者二名小科目ニ於テ點數不足ナルモ總計ノ上及第點ヲ得タル者十四名總計六百點以上ノ者六名五百點以上ノ者七名合計二十九名ノ内得點多數ノ者ヨリ順次二十八名ヲ採用ス

八月廿八日　朝鮮國修信使及隨行員十名來校生徒ノ技術ヲ覽ル

八月卅日　右　同

九月六日　威仁親王殿下英國旗艦「アイロンジユーク」號乘組免セラル

九月八日　軍務局所轄御召船春風丸竝小蒸汽船本校ヘ附屬セシメラル

九月十日　生徒ヲ命スヘキ田邊直維以下二十八名入校セリ

（按）　蓋シ假入學ヲ命シタルモノナラン

九月十三日　機關科生徒星清長郎以下三十六名增築ノ横須賀機關學校ヘ移轉セリ

九月十五日　第二先進號生徒今泉利義以下三十五名練習ノ爲龍驤艦乘組命セラル

九月廿一日　本校雇教師「チヤンブルレーン」眼病ニ付一旦歸國ヲ許サル　但一旦解約ニ付同廿八日慰勞トシテ貿易銀三百圓下賜十月九日歸國セリ

九月廿二日　海軍省九等出仕永峯秀樹兵學校普通學課副課長命セラル

十月三十日　龍驤艦航海練習艦トナル

十一月九日　平山藤次郎以下三十九名ヘ今般新調ノ兵學校課定ノ學科卒業免狀授與ノ件許可

（按）　從來非常其他ノ事變ニテ變則ヲ以テ少尉等ニ任官セシモノ

十二月十七日　生徒島村速雄以下三十名海軍少尉補ニ任セラル

島村速雄　加藤友三郎　吉松茂太郎　成田勝郎
佐々木廣勝　中村靜嘉　藤井較一　齋藤孝至
馬場金八郎　今井寛彦　福井正義　松本有信
中江員可　志賀直藏　田口三平　上原伸次郎
梶川良吉　淺井正次郎　松本和　野元綱明
伊藤吉五郎　川浪治倫　栗田伸樹　高橋助一郎

今井兼昌　伊地知季珍　伊地知彦次郎　坂本一
仁禮幸助　高橋義篤

十二月十八日　海軍六等出仕近藤眞琴飜譯課員、兵學校航海科長兼務免セラレ更ニ兵學校航海課長飜譯員兼務仰付ラル

十二月廿一日　西班牙國代理公使「トリグロス」氏安南國在留西班牙國公使「ヲルドチ」氏同道ニテ來校セリ

十二月廿四日　海軍少尉補島村速雄以下三十名兵學校通學ヲ命セラル

十二月卅一日　本校生徒現在人員調

本科　運砲科　百〇九人
同　機關科　三十六人
計　百四十五人　内三十五人乘艦
豫科　運砲科　三人
合計　百四十八人

本校職員現在調

中佐　本山漸
五等出仕　澤太郎左工門
少佐　田中綱常
主計少監　有馬純武
少書記官　河野榮次郎
六等出仕　近藤眞琴
大尉　本島芳武
同　山本淑儀
同　牧兼市
同　古賀喜三郎
同　二階堂智行
大秘書　安藤重典
大主計　西尾貞俊
七等出仕　長田清藏
中尉　肥後芳智
同　早崎源吾

數學	中軍醫	東城脩
同英學	少軍醫	日下秀明
編輯化學	八等出仕	荒川重平
同	中川將行	
同	永峯秀樹	
同	白藤道恕	
九等出仕	山口良藏	
同	小花萬次	
軍醫副	鳥原重義	
同	金田一義行	
三等屬	竹村知道	
同	安藤熊之助	
四等屬	斯波次郎	
十一等出仕	小林爲文	
同	松波直清	

同習字	同	山田養吉
同數學	十二等出仕	館德
同	同	大柳俊平
漢學	同	眞野肇
六等屬	內田邦靖	
同	石井忠温	
同	和田春造	
十三等出仕	小野邦尙	
七等屬	櫻井當道	
同	並木元節	
十四等出仕	橋本雅邦	
同	佐竹萬三	
八等屬	藤森長裕	
同	林雅昭	
十五等出仕	三浦義路	
編輯漢學		
圖書		
編輯圖書		

國學	同	時任爲樹
編輯	同	小畔養傳
	九等屬	藤田則行
	同	橋道守
	十六等出仕	市川清啓
	十等屬	永田儁
	十七等出仕	篠原學而
庶務	同	植林實利
會計	同	三角貞義
英學	御用掛	吉田直温
同	同	和田秀豐
劍術	雇	伊庭軍平

明治十四年

一月一日　本日ヨリ一ヶ年間英國人「エ、ヂ、エス、ホース」ヲ英學、數學教師トシテ雇繼ク

二月二日　生徒練習艦龍驤濠州へ向ケ横濱出帆

（按）三月廿六日「シドニー」着四月四日同地發八日「メルボルン」着同十四日同地發五月十七日「タスマニヤ」着六月一日同地發七月廿八日横濱へ歸着セリ

但一月廿九日海軍卿ヨリ龍驤艦長へ訓令アリ

訓　令

第一條　其艦ヲ濠洲へ派遣セシメラルルハ海軍士官生徒ヲ實地演習セシムル爲ニ付其趣意ヲ認體スヘキコト

第二條　航路ハ直線ニ濠州「メルボルン」府へ向ケ航行シ爾後「タスマニヤ」、「ニユゼーランド」、「ヒージーアイランド」、「ラドロン、アイランド」中ノ「ゲーム」島等ヲ經テ歸航致スヘキコト

第三條　航海ハ務メテ風帆ヲ用ヒ蒸汽ハ出入港及避險等全ク已ムヲ得サル時ノ外用フヘカラサルコト

第四條　風帆ニテ長航ヲ爲スヲ以テ諸生徒ノ爲メ最勝レタル教授トナル故ニ別ニ風帆操練ノ爲ニ艦ノ遲滯ヲ不可釀コト

明治十四年

第五條　「メルボルン」府滯在ハ二三週間ヨリ多カルヘカラス又航行間諸要求ノコトアルニ際シ某港ニ一週間碇泊スルハ無妨而シテ遲クモ本年七月下旬迄ニ必ス歸朝スヘキコト

第六條　「メルボルン」府博覽會ニ我官吏出張ノ者ヘ相當ノ補助ヲ可爲コト

右ノ通リ確守スヘキモノ也

十四年一月廿九日

海軍卿

龍驤艦長海軍大佐　福島敬典殿

通辯トシテ玉名三等屬龍驤艦乘組ミ濠州出張命セラル

二月十二日　兵學校所轄雷電艦今般東海鎮守府所轄常備艦ト定メラル

三月九日　布哇國皇帝陛下臨校アリ（出迎トシテ兵學校長及筑波艦長新橋停車場ヘ至ル）

一　午前十時臨校

一　校門前ニ儀仗兵一小隊ヲ置ク（乾行艦、攝津艦水兵之ニ任ス）

一　樂隊整列

一　御車校門ニ近ツケハ儀仗兵捧銃シ樂隊奏樂ス

一　校門內將官、諸局長、兵學校次長、諸課長並諸官員、生徒順次ニ中央敷石ノ左右ニ整列奉迎

但大禮服

一　玄關ニテ御下車海軍長副官、兵學校次長圓室ヘ御先導

但勅任官次長及艦長謁見畢テ茶菓ヲ供ス

一　海軍長官、兵學校次長御先導叡覽順序左ノ如シ

講堂生徒授業

船具雛形

乾行艦水兵帆前操練

海岸砲臺ニ於テ生徒大砲操練並擊劍術

右畢テ本省門ヨリ還御

門內ニテ儀仗兵捧銃樂隊奏樂

（按）我國ノ移民條約訂結ノ爲ニ來ラレ其後約成リ今日ノ布哇移民ノ本ヲ成セリ而シテ此帝殂シテ革命起リ遂ニ北米合衆國ニ併サルルニ至レリ

三月十七日　雇教師「ジエームス、ダブリユー、クラリツチ」依願解雇（同月廿四日橫濱出帆歸國セリ）

四月一日　本日ヨリ一ヶ年間英國人「バシル、ホール、チヤムブルレーン」英學數學教師トシテ雇入ル

四月七日　兵學校所轄龍驤艦ヲ東海鎮守府所轄常備艦ト定ラル

四月十一日　通學少尉補ニ限リ蒸氣機關學ヲ教授科中ニ追加教授ノ件許可セラル

但當校運砲科生徒ノ教授科目中ニ蒸氣機關學ヲ追加ノ件ハ目下校則改定方政府ヘ伺中ニ付御定ノ上諸教科一同取調更ニ伺出ツヘシト達セラレ前件ノ通リ通學少尉補ノミ許可セラレタルナリ

四月十二日　兵學校内則第五十八條但書追加

但郵便ニテ書狀等差出候節ハ郵便切手貼付スルカ或ハ税錢相添ヘ午前ハ朝食後ヨリ授業始メ迄午后ハ夕食後ヨリ同整列迄ノ内同課ヘ申出ツヘシ尤モ至急ヲ要スル節ハ此限リニアラス

五月廿日　一號生徒終期大試驗施行　六月廿九日終ル

五月廿三日　生徒河村備術退校(成績不良)

但在校中ノ諸費在校日數ニ應シ月賦返納命セラル

六月十五日　魯國海軍中將「レソフスキー」氏外二名來校重砲臺ニ於テ生徒ノ射擊ヲ一覽ス

但生徒ハ重砲臺入口兩側ニ迎送ス

六月十七日　金剛艦長海軍大佐伊藤雋吉兵學校長仰付ラル

六月廿四日　生徒伊藤雄次郎退校(疾病)

七月三日　雇教師「ジョン、イー、グルード」依願解雇(同日横濱出帆歸國)

七月五日　朝鮮視察使來校

一號生徒　化學

二號生徒右舷　航海術

同　左舷　三角術

三號生徒右舷　重砲臺操練

左舷

右畢テ乾行艦桁檣昇降操練

七月六日　機關學校生徒試驗優等ノ者ヘ賞與式施行

七月七日　海軍中佐本山漸兵學校次長兼編輯課長免セラル、海軍少佐笠間廣盾兵學校次長仰付ラル

七月九日　本校生徒及第證書授與式及優等者賞與式施行ス、海軍卿來校アリ

午前八時階上圓室ニ於テ試驗及第證書授與式施行(兩側ニ整列)

午前九時分校前ニ於テ賞與式施行

砲術、運用、航海、普通學科及品行賞與人員

學術賞　十六人　品行賞　四人

豫科數學及品行賞與人員

學術賞　四人　品行賞　一人

合計　二十五人

七月十一日　生徒船木錬太郎八年六月ヨリ英國ヘ留學中ノ所本年五月廿一日該地出發歸朝セリ身分ハ

七月廿八日　海軍省中新ニ機關學校ヲ設置セラル

（按）先年分校トシテ横須賀ニ設ケタルモノ此時ニ至リ兵學校ヲ離レテ立ツコトトナレルナリ

七月廿九日　御巡幸供奉航海中實地演習トシテ機關生徒十三名迅鯨艦其他ヘ乘組命セラル

八月三日　海軍少佐笠間廣盾海軍中佐ニ任セラレ兵學校監學課長兼務仰付ラル

八月十五日　生徒井上良智五年九月ヨリ米國留學中ノ所卒業セシヲ以テ歸朝セリ

八月廿三日　本校ニ於テ機關學校新徴募生徒四十四人ノ入校試驗ヲ行フ

但本日ヨリ身體試驗同廿六日ヨリ學術試驗

八月廿五日　生徒世良田亮去ル八年ヨリ米國ヘ留學中ノ所卒業シテ歸朝セリ

九月十二日　本校所轄繫泊練習艦乾行艦廢セラル船體ハ從前ノ儘同校所轄攝津艦ヘ附屬セシメラル

九月十五日　生徒今泉利義以下三十五名海軍少尉補ニ任セラル

今泉利義　竹内平太郎　津田三郎　岩本耕作

井手麟六　作間正一　吉井幸藏　西紳六郎

佐伯閭　飯田篤之進　伊地知源五郎　天笠喜三

小橋篤藏　牧村孝三郎　松居銓太郎　西山實親

和田賢助　人見善五郎　八代六郎　丹羽敎忠

南義親　新井次郎　高橋守道　毛利一兵衛

大野寅尾　立川濟純正　四方田榮太郎　志岐叶

志摩清直　中世古清美　丸尾楨次郎　佐伯胤貞

中川藤次郎　小泉鑅太郎　土方公三郎

但此期ノ少尉補ハ一期通學ヲ取止メ直ニ常備艦ヘ配乘セラル

九月十八日　生徒大河平才藏坂本俊一普國ヘ留學中ノ所造砲學ヲ卒業シテ歸朝セリ身分ハ兵器局ノ管理トス

九月廿四日　兵學校規則中改正セラル

運用、砲術科生徒試驗規則

第六條中（ケ年）ヲ（期）ニ（シ尚一期復習ヲナサシム）ヲ（スヘシ）ニ改ム

十月二日　米國留學生瓜生外吉英國留學生遠藤喜太郎滿期ニテ歸朝セリ身分ハ兵學校管理トス

十月十二日　兵學校中機關科廢セラル

但該課ニ係ル一切ノ事務ハ機關學校ヘ引繼クヘキ旨達セラル

十月十四日　先進號生徒井上保以下十七名實地演習トシテ筑波艦乘組命セラル

十月廿四日　兵學校生徒被服地質ヲ變更ス

（按）冬服ノ內是迄「セルジ」製ノ分ハ當冬季ヨリ試トシテ小倉織ニ品質ヲ換ヘ又絨服ハ內國製ニカユ主艦局貯蓄品缺乏ニヨリ品質換ヘ伺濟ミ認許セラレタルナリ

十月廿一日　福島邦鼎以下八名ヘ及第證書ヲ授與ノ件認許

（按）福島邦鼎以下八名ハ明治五年一月ヨリ海兵士官學校ニ於テ英國教師「ブリンクリー」ニ就キ傳習修業中九年十月同校ヲ廢セラレ一旦兵學校生徒トナリ同年十二月大試驗ニ及第シ直ニ少尉ニ任セラル而シテ此大試驗ハ數學、重學、實地測量、銃隊、築堡學等ニシテ固ヨリ兵學校課程ノ三科卒業トハ云ヒ難シト雖モ多年學業勉勵方今既ニ少尉ニ任セラレ常備艦ニ在テ其任ニ堪ヘタリ今ヤ他ノ生徒ヘ卒業證書授與式擧行セラルルノ際右ノ者ヘモ終生ノ一榮譽タルヲ以テ及第證書ヲ授與センコトヲ兵學校長ノ具申ニ依リ特別ノ詮議ヲ以テ之ヲ聞屆ケラル

十一月十一日　筑波艦試運轉ノ爲品海扳錨鹿兒島ヘ回航ス（十二月二十日品海ヘ歸着）

十一月十九日　聖駕臨幸海軍中尉平山藤次郎以下既ニ在校中卒業及及第セシ者ニ新定證書ノ式ヲ施行サル

一　午前八時三十分　御出門同九時兵學校　臨御

一　北門外ニ於テ水兵捧銃　樂隊奏樂

一　海軍將官及諸艦船營長各廳長掛リ官員奏任官以上並士官以上ノ雇外國人禮服着用校門外ニ奉迎

一　掛リ官員判任官及生徒並中等士官以下ノ雇外國人校門內左右ニ奉迎

一　玄關ニテ　御下車海軍卿並兵學校長御先導圓室ニ着御海軍卿輔將官兵學校長次長諸艦船營長各廳長兵學校諸課長（奏任官以上）並士官以上ノ雇外國人拜謁畢ヲ茶菓ヲ供ス

一　海軍卿兵學校長御先導御步行ニテ生徒卒業證書授與式場ヘ臨御　御勅語ヲ賜フ海軍卿奉答右授與式畢テ還幸奉送等奉迎ノ時ニ同シ

勅語

朕本日生徒卒業證書授與式ヲ覽ル其典ニ與ル者甚タ多シ是教官鑄冶ノ宜キニ因ルト雖モ生徒勉勵ノ効ヲ見ルニ足ル朕深ク之ヲ嘉ス海軍ノ盛備ヲ期スルハ今日ノ急務汝等益々奮勵シテ怠ル勿レ

十一月廿四日　雇教師「エフ、ダブルユ、ハムモンド」ヘ慰勞トシテ紙幣百五十圓ヲ贈與セラル

十二月二十七日　海軍中佐笠間廣貭兵學校次長免セラル

海軍中佐山崎景則兵學校次長仰付セラル

十四年度本校經費額十一萬六千百九十六圓（會計年度）內八月五日機關學校分離ノ爲二萬千百九十八圓ヲ分割セシニヨリ本校經費額九萬四千九百九十八圓トナル

十二月卅一日　生徒現在調

本科　七十一人　豫科　三人

合計　七十四人

（備考）八月五日機關學校分離ニ付二十六人同校ヘ轉セリ

雇教師現在調

國名	學科	人名	雇入廳	月給	雇入年月日	解約年月日
英國	航海術	「チー、エッチ、ジエームス」	兵學校	貿易銀三三五圓	三、二、二五	
同	砲術	「エフ、ダブルユ、ハムモンド」	同	同一五〇	三、七、二九	一五、七、一八
同	英學數學	「バシル、ホース、チャンブルレーン」	同	同二〇〇	一四、四、一	一五、三、三一
同	船具運用	「ウイルリヤム、ヘンリー、チップ」	同	同二〇〇	三、七、二九	一五、七、一八
同	英學數學	「エ、ジ、エス、ホウス」	同	同二〇〇紙幣五〇	一四、一、一	一四、三、三一

本校職員現在調

大佐	伊藤雋吉	
中佐	山崎景則	
五等出仕	澤太郎左衛門	
同	少佐	近藤眞琴
同	少書記官	田中綱常
同	主計少屬	河野榮太郎
同	大尉	奈良眞志
同		本島芳武
同		山本淑儀
同		牧兼甫
同		古賀嘉三郎
同		谷信久
同		二階堂智行
同		肥後芳智
同		門屋道四郎
同		中御門經隆
大軍醫		鏑木融
七等出仕		長田清藏

大秘書　安達重典
中尉　船木錬太郎
同　瓜生外吉
中軍醫　東城修
中主計　川上親英
中機關士　權田正三郎
少軍醫　井田武雄
八等　荒川重平
同　中川將行
同　永峯秀樹
同　白藤道恕
九等出仕　山口良藏
同　小花萬治
主計補　時任爲樹
三等屬　安藤熊之助

同　竹村知道
軍醫補　鈴木春山
四等屬　斯波次郎
十一等出仕　小林爲文
同　松波直清
五等屬　石井忠温
十二等出仕　館德
十二等出仕　大柳俊平
同　眞野肇
六等屬　和田春造
同　並木元節
十三等出仕　小野邦尙
七等屬　櫻井當道
同　藤森長裕
十四等出仕　橋本雅邦

同　佐竹萬三
同　植原方儀
同　津村愛藏
八等屬　三浦義路
同　林雅昭
九等屬　藤田則行
同　橘道守
十等屬　永田情
同　土屋愛助
十七等出仕　植林實利
同　三角貞義
御用掛　吉田直温
同　和田秀豐
同　矢野久米男
同　坂本常英

兼務者職員現在調

摂津艦ヨリ兼　中佐　濱武慎
同　大尉　田代郁彦
同　平山藤次郎
龍艦驤ヨリ兼　横尾道昱
比叡艦ヨリ兼　澤良渙
淺間艦ヨリ兼　山本權兵衛
摂津艦ヨリ兼　早崎七郎
同　中尉　富岡定恭
同　菅野退輔
同　少尉　鹿野勇之進
同　東郷正路
同　中山長明

一等水兵喇叭専務　山上才次郎
同　信好平三郎

同　少尉補　山内萬壽治
同　掌砲長　加藤佐吉

一月一日　本日ヨリ一年間英國人「エー、チー、エス、ホース」ヲ英學數學ノ教師トシテ雇入ル

一月四日　陸海軍ニ　御勅諭ヲ賜ハル

一月十六日　勅諭御下賜ニ就テ海軍卿ヨリ達示セラル

軍人御訓戒ノ　勅諭下附置キ候處自今生徒ヘ毎週一回宛讀ミ聞セ厚キ御訓誡ノ旨趣貫徹セシムヘシ

一月二十日　露國軍艦々長二名竝士官六名來校

一　本日午前十時來校校長ノ案内ニテ生徒ノ授業巡覽

第一號生徒右舷　天文
第二號生徒同　航海
同　左舷　理學　問答
第一號生徒同　化學　同
豫科生徒　漢學　同

一　重砲臺ニ於テ第一、第二號生徒操練及擊劍施行右畢テ輕砲臺及攝津艦巡覽再ヒ圓室ニテ酒菓ヲ供ス

一月廿三日　魯國海軍士官「ヘックルミスセス」來校

一月廿六日　兵學校所轄筑波艦生徒實地練習ノ爲新西蘭ヘ航行ノ件達セラル

（按）三月四日生徒井上保以下十七名ヲ乘セ新西蘭ヘ向ケ品海發三月十八日香港着廿六日發四月七日「シンガポール」着十三日發十六日伯帶庇亞着二十五日發六月六日濠洲「メルボルン」着七月六日發同九日「タスマニア」着八月三日發同十八日「オークランド」着二十六日發十月五日品海歸着

二月八日　雇教師「エル、ビー、ウイルラン」解雇同十一日横濱出帆歸國セリ

但「ウイルラン」解雇歸國ニ付二月四日賞狀竝織物銅花瓶等ヲ贈與ス

二月廿一日　本日ヨリ兵器局雇獨逸人「フレデリッキ、エーレルト」ヲ兵學校砲術顧問ニ囑託ス　報酬一ケ月五十弗

三月十三日　本校生徒ニ白色毛布貸與ノ件裁可セラル

（按）本校生徒毛布ノ義是迄最初入校ノ節赤色ノ分八枚宛貸與シ乘艦ノ節ハ其内ヲ三枚宛貸與スル例規ノ處本年七月以降生徒ノ被服類ハ主船局ノ管理ニ屬シタルニ依リ自今生徒入校ノ節ハ七ケ年ノ保存期ヲ以テ白色ノ毛布生徒一人ニ付在校ノ者ヘハ其内ヨリ四枚（但内一枚ハ豫備）貸與スルコトニ取極メ是迄貸與ノ赤色ノ分ハ其儘据置キ乘艦ノ節白色ノ分ニ引換ヘ方主船局ヨリ協議ニテ稟請セシモノナリ

四月一日　本日ヨリ六月廿日迄三ケ月間英國人「バシル、ホール、チャンバーレイン」ヲ兵學校生徒ノ英學數學ノ教師トシテ雇繼ク

本校出版ノ書籍一般ヘ拂下ヲ止ム

從來本校生徒教授用ノ爲出版ノ書籍殘餘ノ分ハ一般望人ヘ拂下ケタルヲ取止メ諸艦船ニ於テ海軍士官以上下士以下ニハ一人一部ヲ限リ拂下ケノコトニ定ム

四月七日　兵學校所轄龍驤艦自今東海鎮守府常備艦ト定メラル

兵學校生徒航海練習艦ノ所轄兵學校ヨリ離ル

（按）今般生徒航海練習艦規則設定ニ依リ從前ノ如ク生徒航海練習艦ヲ本校ニ所轄スルヲ止メ生徒實地練習艦トシテハ東海鎮守府長官若ハ艦隊司令官ノ揮下ニ屬スル常備艦ヨリ撰ミ之ヲ專用シ而シテ生徒實地練習ノ役務ヲ終ルノ後ハ直ニ常備艦ニ復セシムルコトニ定メラレ本校ヘハ唯繫泊練習艦一隻ヲ置カル

五月二日　西班牙公使及「ゼ子ラル、ウイラ」竝「エドカン、モール」當校一覽ノ爲來校生徒ノ授業等通覽セラル此日生徒ハ表門内ニ整列校長次長諸課長玄關前ニ出迎ス

但退出ノ節ハ生徒ノ見送ナシ

五月四日　本校十五年度經費ヲ九萬三千七百五十圓ト定メラル

但本年度ノ支出額ハ八萬七千八百九十三圓十錢四厘ナリ

五月十一日　兵學校ニ於テ豫科生徒二十名ヲ別表ニヨリ撰擧ノ件東京府ヘ達セラル

別表抜萃

年　齢　十一年以上十六年以下

仕　格　（官費）一　准士官以上ノ海軍軍人遺子弟

（同　）二　判任官以上ノ海軍軍屬及下士ニシテ戰鬪或ハ公務ニ因リ死亡セシ者ノ子弟（但シ一戸一人ニ限ル其他ハ自費）

（自費）三　准士官以上ノ軍人ノ子弟

前記ノ子弟ハ其父兄戸籍中ノ實子弟或ハ其養嗣子ニ限ル

一　官費、自費共入校ノ日ヨリ衣食幷ニ稽古用諸具等悉皆給與ス

一　自費ハ毎月五日限リ身元引受人ヨリ金七圓ヲ收メシム

一　自費ノ者入學中第一、第二ニ適合スルトキ又本科生徒ニ編入スルトキハ官費トス

檢　査　第　一　身體ノ檢査

第　二　學術試驗（年齢ニ應シ相當ノ試驗ヲナス）

和漢文　日本地誌略、輿地誌略、國史略、日本外史、十八史略、元明史略ノ内及尺牘作文

數　學　四術ヨリ代數學ノ分數マテノ内

英　文　「スペルリング」、「リーダー」、文法史類及會話作文、翻譯ノ内

但十一年ノ者ハ此試驗ヲ受ケサルモ妨ナシ

書　式　入校願、誕辰證書、履歴書（以上略）入校ヲ許ストキ身元引受人ヨリ引受證書竝ニ族籍證書本人ヨリ誓證ヲ出サシム

六月二日　葡萄牙國公使外四名來校

六月六日　海軍大佐伊藤雋吉海軍少將ニ任セラル

六月十六日　海軍少將伊藤雋吉海軍兵學校長仰付ラル

六月十九日　朝鮮人金玉均、徐光範、生徒ノ授業一覽トシテ來校　但外務屬五辻長中隨行

六月廿二日　金玉均以下復タ來校

六月卅日　雇教師「バシル、ホール、チャンブルレイン」解雇

七月八日　當期大試驗及終期大試驗及第卒業證書授與式竝學術優等品行善良賞與式施行

七月廿八日　雇教師「ダブリユー、エッチ、チップ」滿期ニ付解雇

七月廿九日　本日ヨリ十七年七月廿八日迄英國人「エフ、ダブリウ、ハンモンド」ヲ兵學校生徒ノ砲術教師トシテ雇繼　但十四年九月廿九日ヨリ攝津艦乘組本校兼務

八月八日　海軍志願生徒身體檢査手續設定セラル

八月十八日　龍驤艦ヲ生徒航海練習艦ト定メラル

九月八日　七月廿一日本校生徒入學試驗ニ及第セシ吉見乾海以下十六名ニ入校ヲ許ス

吉見乾海　新潟　林三子雄　大坂　高野鱗六　長崎
須賀德彌　山形　依田光二　熊本　平野哲三　長崎
山屋他人　岩手　江頭安太郎　長崎　成富寅吉　同
石井義太郎　長崎　坂井彦次郎　同　土屋光金　愛知
牛田從三郎　京都　藤田定市　鳥取　矢島純吉　山形
松尾龜次郎　佐賀

九月十一日　明治九年八月丙第三號達中兵學校事務章程竝各校規則ヲ廢シ更ニ本校條例設定セラル

九月十二日　明治十三年入校ノ生徒ニ限リ其在學期課程試驗法ハ今般制定ノ條例ニ準據セス從前ノ校則ニ據リ施行スヘキ旨省達アリ

九月十五日　本校豫科生徒規則假定セラル

本校生徒學術課程制定

生徒大城源三郎以下廿七名練習トシテ龍驤艦乘組ヲ命ス

大城源三郎　加藤定吉　瀨之口覺四郎　山下源太郎
川合昌吾　矢代由德　宇敷甲子郎　仙頭武央
石橋甫　森義太郎　廣瀨勝比古　澤田友次郎
西山保吉　岡部鉚造　中川重光　西田四郎次郎
深川喜文　武久又八郎　奥宮衛　淺羽金三郎
山村彌四郎　荒川規志　中村健次郎　杉田秀一郎
三戸與十郎　堀秀房　遠山政行

九月十八日　豫科生徒ノ入學試驗ニ及第セシ者二十四名ニ入校ヲ命ス

谷村愛之助　鹿兒島　福村覃吉　東京　松岡修藏　山口
溝口武五郎　東京　松村龍雄　長崎　吉島重太郎　長崎
柴準一　同右　中村道一　愛媛　山下義章　鹿兒島
林喜久人　熊本　河村金五郎　東京　川上親幸　同右
南里圍一　佐賀　立花輝明　愛媛　有馬伊太郎　同右
川村茂男　東京　加藤寛治　福井　澤野庚三郎　佐賀
平賀德太郎　廣島　井上林太郎　長崎　柴勇二　東京

松村純一　長崎　澤野辰次郎　長崎　增田忠吉郎　長崎

當校所轄分校ヲ豫科學舍ト改稱ス

九月二十日　米國人「ベンヂット」來校

九月廿一日　龍驤艦生徒練習ノ爲品海抜錨九州地方ヘ向ケ發艦(十一月十日品海ヘ歸着)

九月廿二日　伊國軍艦「クリストフヲロ、コロンボ」號艦長「ラブラー」及同國公使「ランシヤルス」等來觀

九月廿六日　校達

各國將官或ハ公使等來校ノ節是迄繰合ヲ以テ格別ノ授業等施行シ且其節ハ午後休業致シ候義モ有之候處自今右等ノ儀相廢止平日ノ通施行ノ旨達セラル

但海軍卿ヨリ授業繰替ノ義特別御達シ有之候節ハ本文ノ限リニアラス

追テ本文ノ節生徒ヘ菓子被下候義モ有之候處是亦相廢止候事

十月六日　七月廿一日入校試驗ニ及第セシ茶山豐也以下四名ニ入校ヲ命ス

茶山豐也　石川有馬良橋　和歌山羽喰政次郎　石川原武之佐賀

十月十二日　本校所轄筑波艦ヲ中艦隊司令官ヘ引渡方達セラレ同十六日引渡セリ

海軍少將伊藤雋吉依願海軍兵學校長免セラル

海軍少將松村淳藏海軍兵學校長仰付ケラル

十月十六日　海軍中佐澤野種鐵海軍兵學校次長同校敎務總理仰付ラル

海軍五等出仕澤太郎左衛門、同近藤眞琴海軍兵學校敎務副總理仰付ラル　但學術主任タルヘキ事

海軍少佐田中綱常海軍兵學校敎務副總理仰付ラル　但紀律主任タルヘキ事

海軍中佐山崎景則海軍兵學校次長差免セラレ更ニ攝津艦長仰付ラル

十月二十日　講堂規則改定

十月廿四日　本年四月制定ノ本校生徒ノ航海練習艦規則中改正增補セラル

第二條中東海鎭守府長官ノ下ニ(若クハ艦隊司令官)ノ八字ヲ加フ

第四條中長官ノ下ニ(司令官)ノ三字ヲ加フ

第五條、第八條、第九條中長官トアルヲ「所屬長官(司令官)」ト改ム

十月廿七日　海軍生徒懲戒規則設定セラル

十月三十日　本年十月廿七日海軍生徒懲戒規則制定ニ付明治十二年四月制定ノ生徒懲戒令廢セラル

海軍生徒乞暇手續設定セラル

十月卅一日　監事擔任ノ事務ニ付左ノ校達アリ

今般本校條例設定ニ付テハ內則取調中ニ付右調制迄ノ處監事ニ於テ擔任ノ事務ハ本校條例及日課時

間表ニ抵觸ノ廉ヲ除クノ外ハ舊監學課章程中校直心得ニ依リ取扱フヘシ
追テ實際差支ノ廉ハ伺出ヘシ

十一月八日　本校條例中小改正（略）

十一月十日　生徒井上保以下十七名ノ卒業證書授與式ヲ施行ス即日海軍少尉候補生ニ任セラル

卒業證書授與式手續（式場ハ豫科學舍前）

一　明治十五年十一月十日海軍兵學校卒業生徒ニ證書授與式ヲ行フ

一　本日午前九時三十分海軍卿將官兵學校長次長教務總理副總理筑波攝津兩艦長機關學校長次長諸艦船營長事務課長各局所長　陸軍士官學校長　同提理　東京大學法理文三學部總理工部大學校長式場ニ列ス

一　本日武官ハ禮服文官ハ「フロックコート」着用ノコト

一　證書ヲ受ル生徒ハ卒業成績順序ニ依テ式場ニ整列ス

一　同生徒ハ監事ノ喚名ヲ待チ一名宛順序ニ列ヲ離レ校長ノ前ニ進ミ禮シテ證書ヲ受ケ退テ舊列ニ復ス

一　式終リテ招待シタル諸員ハ新校樓上ニ於テ立食ノ宴ニ會ス

一　樂隊ハ式場及宴會中奏樂スルコト

一　生徒ノ親戚等ハ參觀ヲ許ス

卒業生徒人名（第九期）十七人

井上　保　靜岡　豫科ニ入リ若干年ヲ經テ本科ヘ編入
宮地貞辰　高知　同
木村浩吉　東京　同
村地正敏　長崎　同
高木助一　鹿兒島　同
但馬惟孝　同　同
宮内重秋　同　同
豐島四敎　靜岡　同
生中小次郎　島根　同
谷　雅四郎　東京　同
松村直臣　同　同
今橋安就　高知　同
江口一三　長崎　同

牟田寛六　同　同
室田習三　山口　元海兵士官學校ヨリ本校ニ屬シ大試驗ヲ經テ本科ニ編入
坂元宗七　鹿兒島　豫科ニ入リ若干年ヲ經テ本科ニ編入
杉坂虎次郎　石川　同

十一月廿四日　雇教師「トーマス、ヱーチ、ジヱムス」解雇
十一月廿七日　本日ヨリ生徒加藤權太郎大試驗施行（十二月十四日終ル）
十一月卅日　龍驤艦生徒實地練習ノ爲南亞米利加西海岸地方ヘ航行ノ件達セラル
十二月十六日　教場規則第五條中ノ疑義ニ對シ左ノ校達アリ
自今長上平常ノ巡視ノ時及特ニ長上ノ入場ヲ豫メ達セサルトキハ生徒ニ立禮セシムルニ及ハサル儀ト相心得フヘキ事
十二月十九日　練習艦龍驤先進號生徒加藤定吉以下二十七名ヲ乘セ品海發遠航ノ途ニ向フ
（按）十六年二月八日「ウヱリントン」着同廿四日發四月十五日智利「バルパライゾ」着五月三日發同十五日白露「カラヲ」着同廿日發七月三日「ホノルル」着八月五日發九月十五日品海歸着
十二月卅日一

學科

教員	內國人	本科	砲術	二	七
			運用術		
			航海術		
			數學		
			文學		
	外國人	豫科	和漢文	二	一
			數學		
			英文		
生徒	本年中卒業生徒	計		二五	一七
		本校職員現在調			
		少將	松村淳藏		
		大佐	澤野種鐵		
		少佐	田中綱常		
		五等出仕	澤太郎左衛門		
		同	近藤眞琴		

少佐　本島芳武
同　山本淑儀
少書記官　河野榮次郎
大尉　牧兼甫
同　原田元信
大尉　古賀喜三郎
同　谷信久
同　二階堂智行
同　肥後芳智
同　門屋道四郎
同　中御門經隆
同　遠藤喜太郎
大軍醫　桑原諸武
大主計　川上親英
權少書記官　安達重典

七等出仕　長田清藏
中尉　永井重英
少軍醫　井田武雄
八等出仕　荒川重平
同　中川將行
同　永峯秀樹
同　白藤道恕
同　小花萬次
同　山口良藏
二等屬　竹村知道
同　安藤熊之助
軍醫補　長井又藏
同　朝倉亮五郎
三等屬　斯波二郎
十等出仕　小林爲文

十一等出仕　松波眞清
同　館德
同　大柳俊平
五等屬　石井忠温
同　和田春造
十二等出仕　眞野肇
六等屬　並木元節
十三等出仕　小野邦尙
同　櫻井當道
同　橋本雅邦
七等屬　佐竹萬三
十四等出仕　藤森長祐
同　津村愛藏
同　植原方儀
林雅昭

同　三浦義路
八等屬　藤田則行
十五等出仕　橋道守
教授補　伊庭軍平
十等屬　土屋愛助
同　永田情
十七等出仕　植林實利
同　三角貞義
御用掛　吉田直温
同　矢野久米雄
同　松本虎之助
同　山賀新太郎
同　岩崎吉人
同　坂元常英

等外一等出仕　五人　雇　六人　警吏　二人　警吏補　五人

明治十五年

二等主厨　二人　三等看護手　二人　一等水兵喇叭專務　二人

攝津艦ヨリ兼務者現在調

大尉　田代郁彦　大尉　平山藤次郎　大尉　早崎七郎
同　瓜生外吉　中尉　富岡定恭　中尉　早崎源吾
少尉　中山長明　同　中村貞邦　同　山内萬壽治
掌砲長　加藤佐吉　二等筆記　倉田龜三郎

明治十六年

一月一日　本日ヨリ一ヶ年半英國人「アルベルト、シドニー、チョルヂ、ホウス」ヲ兵學校生徒ノ英學數學教師トシテ雇續ク

一月十三日　生徒品行減點法ヲ定ム

生徒品行減點表

品行	重		輕	戒	戒
全點	十週間	九週間	八週間	七週間	六週間
百點	六十五點	六十點	五十五點	五十點	四十五點
	五週間	四週間	三週間	二週間	一週間
	四十點	三十點	二十五點	二十點	十五點

一月二十九日　英國軍艦「キユラソー」號艦長「カピテン、ロング」來校

二月一日　校達

生徒ノ體重自今醫官ニ於テ毎月頭ニ審査セシム

二月三日　自費豫科生徒病院外泊者納金ノ件

自費生徒病氣ノ節醫官ノ見込ニ依テ自宅療養差許シタル時或ハ休業中夏季冬季下宿又ハ歸省差許シタル時ハ其外出中ハ諸費自辨ナルカ故ニ外出差許候月ハ右新入校等ノ節同樣納金日割ヲ以テ納付セシム

但シ日割起算方ハ外出ノ翌日ヨリ歸校ノ前日迄ノ日數ヲ除算シ外出歸校ノ當日ハ在校中ニ算入ス

三月一日　兵學機關兩校生徒席次准士官次席ト定メラル（丙第二五號）

但本年十二月十一日陸軍省警視廳東京憲兵本部ヘ通知セラル

（按）生徒ノ待遇海陸軍同シカラス往々途中敬禮上ニ紛議ヲ生シタルニ依リ今更新ニ部外ニ對シテ其位置ヲ明カニシタルナリ

三月三十日　兵學機關兩校生徒手當金及被服其他給與法設定セラル（省達）

四月九日　十二年一月設定ノ內則ヲ廢シ更ニ內則改定セラル

五月七日　校達

十三年九月入校ノ生徒ニ限リ學期課程試驗法ハ從前ノ校則ニ據リ施行方省達ノ義客年九月通達候處小試驗成績取調方法ニ限リ今般頒布ノ內則ニ據リ施行スヘシ

五月廿一日　生徒大試驗施行（七月二日終ル）

五月廿三日　校達

生徒卒業證書々式自今改正セラル　書式略

五月廿五日　西班牙國海軍機關士「マニユール、ジナルド」來校

五月廿八日　本日ヨリ生徒志願者百七人ノ試驗ヲ行ヒ體格檢査ニ不合格ノ者十五人ヲ除キ學科試驗ニ劣等ノ者ヲ除キ更ニ相當ノ試驗ヲナシ合格ノ者三十七人ヲ得タリ

布告第十五號ニヨリ本校生徒中本貫族籍變更ノモノ

長崎縣ヨリ佐賀縣ニ變更者

村上格一　相浦六之助　藤本秀四郎　小田喜代藏

江頭安太郎　江口鱗六　石井義太郎　原武之

成富寅吉　坂井彦次郎　土山哲三　松尾龜次郎

吉島重太郎　松村純一　增田忠吉郎　南里圓一

澤野辰次郎　澤野庚三郎　井上林太郎　松村龍雄

鹿兒島縣ヨリ宮崎縣ニ變更者

山下義章

六月五日　生徒館新築落成ス

（按）今ノ海軍大學校是ナリ建築ハ工部省ニ於テ負擔シ東京煉瓦築造最初ノ中ノ一ナリ

本校內則中第二章諸官員心得第八條病氣不參六日ヲ一週ニ改ム

六月九日　當校生徒心得改定

六月十六日　來ル十六年度ヨリ其校計算課長ヲシテ會計主務官吏ノ任ヲ負擔ノ件省達（十四年第三十六號公達）

七月一日　本日ヨリ大政官ニ於テ官報發行從前官省等ノ達及告示類ハ官報ニ登載スルヲ公式ト定メラル

七月五日　本校十五年度經費金九萬三千七百五十圓ト定メラル

郵便報知新聞官費講讀認許（生徒食品買入等參考ノ爲メ）

（按）當時報知ハ日々ト相拮抗シテ所謂大新聞中ノ首要ナルモノナリシナリ

七月九日　生徒ノ及第證書竝褒賞授與式施行兼テ生徒館開館式ヲ行フ

七月十二日　本校及機關學校通學士官等ノ給與規則設定

但同規則第一條ニ於テ通學士官ハ其ノ通學ヲ命シタル者ト自己ノ願ニ依リ許可シタル者トノ別ナク在職俸ヲ給セラル

教務部竝ニ庶務課計算課ハ校舍修繕中舊兵器局跡ヘ移轉ス（九月十一日落成ニ付キ舊ニ復ス）

七月十四日　本校所轄攝津艦十六年度經費五萬四千圓ト定メラル

本校條例中改正

第六十四條　其在校中ノ費用ヲ償還セシムル償金七圓ト定ム

（按）月七圓ナリ

七月廿四日　温習所生徒心得設定（掲示）

温習所生徒心得

一　温習所ハ生徒各其ノ學ヒタル業ヲ温習スル所ナリ而シテ其温習ヲ定時温習各自温習トス

一　定時温習時間ハ日課時間表ニ記スル所ノモノニシテ監事之ヲ監ス定時温習ノ時ニ至レハ遲延ナク温習所ニ至リ沈默整頓シテ温習シ監事ノ許可ヲ得サレハ其席ヲ離ル可カラス

一　各自温習時間トハ授業時間及定時温習時間外ノ時ヲ云フ其間ハ各自隨意ニ温習スヘシ

一　各自温習時間ト雖モ温習所内ニテハ雜談戲謔ハ勿論音讀等ヲナシ他人ノ勉勵ヲ妨ク可カラス

一　温習所ヲ退去スルトキハ書籍物品等ヲ收メ机上ヲ整頓スヘシ亂雜ニナシ置クヘカラス

七月卅日　校達

下宿歸省ノ生徒歸校ノ節及今般入校ヲ命セラルヘキ生徒入校ノ節尙一應身體檢査ヲ施行スヘシ

八月三日　生徒懲戒規則中第六條及第八條ノ取扱方校達

第六條中列外トハ一列ノ外ニシテ他生徒ト列ヲ同クセス懲戒生徒ノミ列ヲ外ニシテ立シムヘキ事

卓末トハ總生徒ノ食卓ノ末ニ別卓タルヘキ事

第八條中別科余業トハ區別シタルモノト相心得ヘキ事

八月十日　生徒志願及第ノ者太田三次郎以下三十七名入校セシム

太田三次郎　愛知　　關野謙吉　東京　　山本竹三郎　東京
西垣富太　熊本　　黑井悌次郎　山形　　今井倫太郎　滋賀
栃内曾次郎　巖手　　重信彦二　鹿兒島　　伊藤乙次郎　愛知
有森元吉　岡山　　笠間直　福岡　　秀島成忠　佐賀
成田長祐　愛知　　野間口兼雄　鹿兒島　　井内金太郎　山形
原靜吾　佐賀　　大迫市熊　同右　　秀島七三郎　佐賀
東郷吉太郎　鹿兒島　　山田猶之助　愛知　　大立龜吉　長崎
川上吉熊　同右　　正戸爲太郎　廣島　　花房祐四郎　岡山
山口九十郎　同右　　平尾兵次　佐賀　　河野左金太　神奈川
橋本又吉郎　廣島　　江副元一郎　同右　　米原林藏　長崎
速水鍋次郎　滋賀　　東郷靜之助　鹿兒島　　神宮司純清　鹿兒島
緒方於菟男　愛知　　田中格四郎　新潟　　田中盛秀　同右
中山鋌次郎　東京

八月十七日　生徒心得第六十八條中自室ヲ自席ト改ム

八月十八日　本校教授及教授補ヲ廢止シ海軍教官ヲ置カル

省達

今般其校教授並教授補相廢止候ニ付テハ是迄右勤務ノ者ハ追テ何分相達候迄從前ノ通リ教務ニ從事セシムヘシ

九月十二日　筑波艦ヲ生徒航海練習艦ト定メラル

九月十七日　校達

是迄生徒ノ席次ヲ定ムルハ學術試驗得點數ノミヲ算シ順次ヲ定メシヲ自今品行點數ヲモ合算シ其總點數ノ多寡ニ依ルコトニ定ム

九月廿二日　兵學校ヘ通學ヲ命セラレタル者左ノ如シ

少尉　林昌澄　丹治寛雄　種子島輔二　石原忠俊
貴島才藏　中溝德太郎
少尉補　吉井幸藏　田口三平　上原伸次郎　野元綱明
今井兼昌　藤井較一　川浪治倫

九月廿七日　少尉補丸尾楨次郎兵學校ヘ通學命セラル

九月廿九日　獨逸國人「フレデリッキ、エーレルト」ニ砲術教授ヲ囑託セリ

十月四日　中尉迫田甚之丞兵學校ヘ一期通學ヲ許サル
少尉補竹内平太郎兵學校ヘ通學ヲ命セラル
十月八日　大尉新納時亮兵學校ヘ通學ヲ許サル
十月十日　少尉補加藤友三郎兵學校ヘ通學ヲ命セラル
十月十一日　海軍教官ノ位置ハ海軍技術官ノ上ニ列セラル
十月十三日　第二先進號生徒二木勇次郎以下二十七名筑波艦乘組命セラル

二木勇次郎　村上格一　川島令次郎　林作次郎
三上兵吉　庄司義基　小花三吾　岩下知克
小田喜代藏　山澄太郎三　久保田彦七　外波内藏吉
山縣文藏　山本正勝　釜屋源五郎　服部雄吉
福島春長　田邊直維　藤本秀四郎　築山清智
中川源吉　加藤權太郎　相浦六之助　石田一郎
森亘　白藤友吉　藤田幾三郎

十月十五日　先進號生徒加藤定吉以下二十七名ニ卒業證書授與式施行セラル
加藤定吉以下二十七名海軍少尉補ニ任セラル

本日車駕本校ヘ臨幸アリ
一　本日午前九時三十分御出門同十時着御此時校門内ニ於テ水兵捧銃樂隊奏樂ス
一　海軍將官及諸艦船營長各廳長掛リ官員奏任官以上竝士官以上ノ雇外國人禮服着用本校東側ニ列シ奉迎ス
一　掛リ官員判任官及生徒竝ニ中等士官以下ノ雇外國人本校東側奏任官ノ次ニ列シ奉迎ス
一　生徒館玄關ニテ御下車海軍卿竝兵學校長御先導樓上ニ着御茶菓ヲ供ス
一　海軍卿竝校長御先導校内御順覽畢テ海軍卿輔將官兵學校長次長諸艦船營長各廳長兵學校總理副總理竝ニ士官以上ノ雇外國人拜謁
一　海軍卿竝校長御先導生徒卒業證書授與式場（臨御授與式、午前十時三十分海軍卿輔海軍將官兵學校長次長教務總理副總理練習艦（龍驤、筑波、攝津）長諸艦船營長各局所學舍長學校課長教員監事士官以上ノ雇教師陸軍士官學校長戸山學校長工部大學校長東京法理文三學部總理商船學校長學習院長式場ニ列ス
一　證書ヲ受クル卒業生徒ハ卒業成績順序ニ依ツテ式場ニ整列ス
一　卒業證書ハ校長之ヲ授與ス
一　卒業生徒ハ監事ノ喚名ヲ待チ一名宛順次ニ列ヲ離レテ玉座ニ對シ敬禮ヲ行ヒ而シテ校長ノ前ニ

進ミ禮シテ證書ヲ受ケ退テ舊位ニ復ス

一 式終リテ樓上ニ着御生徒館ニ於テ立食卒業生モ共ニス

一 樂隊ハ館外ニ於テ時々奏樂シ宴會中モ奏樂ス

一 御晝餐畢テ講義(水雷、諸岡大尉、砲術、富岡中尉)被　聽召御休憩

一 還幸奉送ハ奉迎ノ時ニ同シ

卒業者名

姓名	生國	入校年月日	
加藤定吉	武藏	一二、九、三〇	直ニ本科ニ入校
大城源三郎	肥前	九、一〇、一〇	元海兵士官學校ニ在リ後チ本校豫科ニ入リ大試驗ヲ經テ本科ニ編入
瀨之口覺四郎	大隅	一二、九、三〇	直ニ本科ニ入校
山下源太郎	羽前		同
川合昌吾	備中		同
矢代由德	武藏	一〇、一、一六	豫科ニ入リ若干年ヲ經テ本科ニ編入
宇敢甲子郎	信濃		同
石橋甫	加賀	一二、九、三〇	直ニ本科ニ入校

森義太郎	山城		同
廣瀨勝比古	豐後		同
澤田友次郎	尾張		同
西山保吉	土佐	一〇、一、一六	豫科ニ入リ若干年ヲ經テ本科ニ編入
岡部鉚造	武藏		同
中川重光	尾張	一二、九、三〇	直ニ本科ニ入校
西田四郎次郎	越後	一〇、一、一六	豫科ニ入リ若干年ヲ經テ本科ニ編入
深川喜文	肥前	一二、九、三〇	直ニ本科ニ編入
武久又八郎	武藏		同
奥宮衛	土佐	一〇、一、一六	豫科ニ入リ若干年ヲ經テ本科ニ編入
淺羽金三郎	武藏	同 七、一〇、二〇	同
山村彌四郎	紀伊	一〇、一、一六	同
荒川規志	薩摩	六、一〇、二七	同
中村健次郎	山城	一二、九、三〇	直ニ本科ニ入校
杉田秀一郎	近江	一〇、一、一六	豫科ニ入リ若干年ヲ經テ本科ニ編入

三戸與十郎　長門　同
堀　秀房　駿河　同
遠山政行　武藏　同

十月廿二日　通學士官ハ本校內舊兵器局ヘ寄宿ス　但シ自費賄
十月廿五日　米國公使「ベンハム」並ニ同國領事「ジョンス」來校
十月廿七日　寄宿通學士官申合規則設定
一　通學士官心得ノ諸規則遵奉スヘキハ勿論ノ事
一　朝起ヨリ日沒迄ハ必徽章服着用ノ事
一　二名ノ當直ヲ置キ每月曜日ヲ以テ交代スヘキ事
一　當直中一名ハ必ス在宿致スヘキ事
一　當直中ハ寄宿士官ニ關スル諸務總テ可致擔當事
一　事故アリテ外出セント欲スルモノハ其旨當直ニ斷リ可致外出事
一　燈火ヲ滅セス就寢スルヲ禁ス
一　當直ハ就寢前舍及小使室ヲ巡視シ消火ノ有無可相改事
十一月二日　通學士官中少尉補ヨリ少尉ニ進級スルモノ

加藤友三郎　藤井較一　田口三平　野元綱明
川浪治倫　今井兼昌　上原伸次郎　吉井幸藏

入校生徒ノ給與品制定（省達）
十一月九日　通學士官少尉ヨリ中尉ニ進級ノモノ
林　昌澄　中溝德太郎　丹治寛雄　石原忠俊
十一月十三日　十六年度經費科目教場費（書籍器械買入費）金九百三十六圓七十九錢增額セラル
官立及公立學校ニ於テ退學ヲ命セラレタル生徒ハ入校ヲ差許サレザルコトト定メラル
十二月三日　本校條例中改正（省達）
第一條第四十條中「教授ス」ヲ「授ク」ト改ム
第三條第十九條第二十條第二十三條第三十九條第六十五條中及第二十六條各科ノ下「教授」ヲ「授業」ト改ム
第二十條中「中少佐」ヲ「佐官」ト改ム
第二十六條中「少佐」以下ノ五字ヲ削ル
第六十九條中「教授シ」ヲ「授ケ」ニ「教授ス」ヲ「授ク」ニ但書中「教授」ヲ「授業」ト改メラル
十二月十二日　練習艦外國出航ノ都度交付シ來リシ訓令自今東海鎭守府ヨリ直ニ該艦長ヘ交付方達セ

ラル

但訓令案ハ經伺スヘキ義ト心得ヘシ

十二月十八日　海軍生徒傳染病ノ爲死亡シタル者ハ埋葬料ノ外ニ現費ヲ以テ其焚(甕)代支給セラル

十二月十九日　練習艦筑波號生徒實地演習ノ爲布哇國(航行歸路露領「ウラジヲストック」及朝鮮國釜山浦ヘ寄港セシメラル

十二月二十日　十七年六月生徒十八名召募ノ儀府縣ヘ達セラル

但年齡ハ慶應二年七月以後明治元年六月以前出生ノ者ニ限ル

仕格　華士族平民ヲ論セス總テ官費ノコト

書式、入學願、誕辰證書、履歷書(以上略)入校ノ時身元引請人ヨリ引受證書、族籍證書、本人ヨリ誓書ヲ出サシム

第一　身體ノ檢査

第二　學術試驗

漢文史類　作文(尺牘遊記等)

數學平算　代數(多元二次方程式迄)

對數(乘方開方迄及八線對數)　平面幾何(釋名)

英文　文法、和文英譯、英文和譯、書取、會話

學術優等及品行善良褒賞授與人名表(七月九日)

學術優等　本科　一號生徒　村上格一　佐賀

同　二木勇次郎　鹿兒島

同　川島令次郎　石川

本科　五號生徒　江頭安太郎　佐賀

同　上泉德彌　山形

同　坂井彦次郎　佐賀

和漢文學　豫科生徒　松村龍雄　佐賀

同　平賀德太郎　廣島

同　福村覃吉　東京

數學同　河村金五郎　同

同　平賀德太郎　廣島

同　南里團一　佐賀

英學同　柴準一　東京

同　松村龍雄　佐賀
同　加藤寛治　福井
品行善良　本科一號生徒　山澄太郎　三東京
本科五號生徒　江頭安太郎　佐賀
同　上泉德彌　山形
同　成富寅吉　佐賀
同　吉見乾海　新潟
同　有馬良橘　和歌山
豫科生徒　谷村愛之助　鹿兒島
同　山下義章　宮崎
同　林喜久人　熊本

（備考）品行賞與ハ條例第五十五條ニ依リ各號一名宛（五號江頭、豫科谷村）授與スヘキノ處全點ノモノ五號ニ五名、豫科ニ三名アリ依テ本表ノ通リ授與ス

十二月卅一日　本校職員現在調

少將　松村淳藏

大佐　澤野種鐵
中佐　田中綱常
二等教官　澤太郎左衛門
同　近藤眞琴
少佐　山本淑儀
少佐　原田元信
少書記官　河野榮次郎
大尉　古賀喜三郎
同　谷信久
同　二階堂智行
同　肥後芳智
同　門屋道四郎
同　中御門經隆
同　平山藤次郎
同　早崎七郎

大尉	瓜生外吉
同	友野雄介
同	富岡定恭
大軍醫	馬居忠章
大主計	貴島兼誼
大機關士（東京大學理學部ヘ寄宿）	權田正三郎
權少書記官	安達重典
三等教官	長田清藏
中尉（攝津艦ヨリ兼）	鹿野勇之進
同（同）	坂元八郎太
同（陸軍戸山學校ヘ寄宿）	石田五六郎
同	井上敏夫
同（攝津艦ヨリ兼）	玉利親賢
五等教官	荒川重平
同	中川將行
同	永峯秀樹
同	白藤道恕
同	小花萬次
同	高須碌郎
少尉（攝津艦ヨリ兼）	山内萬壽治
同（同）	郡司成忠
少主計	小倉悌太郎
六等教官	松波直清
同	眞野肇
八等出仕	山口良藏
掌砲上長	加藤佐吉
二等屬	竹村知道
同	安藤熊之助
軍醫補	關文之助
同	草野復人

同	小島秀治
三等屬	斯波二郎
十等出仕	小林爲文
十一等出仕	館德
同	大柳俊平
五等屬	石井忠温
同	和田春造
十二等出仕	吉田直温
同	松本虎之助
同	小野邦尙
六等屬	並木元節
十三等出仕	櫻井當道
同	橋本雅邦
同	佐竹萬三
同	矢野久米雄

同	植原方儀
同	津村愛藏
十四等出仕	三浦義路
同	林雅昭
八等屬	藤田則行
同	岩崎吉人
十五等出仕	橘道守
同	伊庭軍平
九等屬	土屋愛助
同	永田懌
十六等出仕	植林實利
同	三角貞義
十七等出仕	森島彦次郎
御用掛	櫻井省三
同	山賀新太郎

十二月卅一日現在（生徒及教員表）

學科		教員 內國人	教員 外國人	生徒 本年中卒業生徒
本科	砲術 運用術	三二	二	八六 二七
	航海術 文學 數學			
豫科	和漢文 數學 英文			二五 二一一 二七
總計		三二	二	

同	上原植吉		
同	横内伸		
同	柴田美啓		
等外一等出仕 一名	雇	七名	警吏 五名
一等筆記 一名	警吏補	三名	二等主厨 二名
三等看護手 一名	一等水兵（喇叭專務）二名		一等看病夫 一名

雇外國人調

國名	姓名	學科	月給	雇入年月日	解約年月日
英國	「アルベルト、シドニー、ヂョルヂ、ホウス」	英學數學	二五〇	一六、一、一	一七、六、三〇
同	「フレデリツキ、ウイルリエム、ハムモンド」	攝津艦ヨリ兼砲術	一五〇	一五、七、二九	一七、七、二八
獨逸	「フレデリツキ、エーレルト」	砲術	報酬一ケ月二〇〇	一六、九、二九	無期限囑託

十二月卅一日現在（通學士官及教員表）

學科	教員	通學士官
文學	內國人	一
力學	外國人	一
砲術	內國人	五
造帆術	內國人	九
造船術	教員兼務	一
機關大意	教員兼務	一
計		一七

明治十七年

一月十日　兵學校教務副總理海軍中佐田中綱常免本職會計局副長ニ補セラル

一月十一日　兵學校教授海軍少佐山本淑儀兵學校教務副總理紀律主任兼務心得ニ補セラル

一月二十一日　軍務局長海軍中將伊藤祐麿免本職兵學校長ニ補セラル

兵學校長海軍少將松村淳藏免本職中艦隊司令官ニ補セラル

兵學校教授海軍少佐山本淑儀兵學校教務副總理紀律主任兼務心得差免セラル

肇敏艦長海軍少佐伊月一郎免本職兵學校教務副總理紀律主任ニ補セラル

一月二十二日　中尉中溝德太郎兵學校通學ヲ免セラル（疾病）

一月二十四日　練習艦筑波ノ航路ヲ改定シ新西蘭ヲ經テ智利及布哇ヘ廻航セシメラル

二月三日　第二先進號生徒二木勇次郎以下廿五名實地演習ノ爲筑波艦ニ搭シ南亞米利加ニ向ケ抜錨セリ

（按）　三月二十一日「オークランド」着四月二十日同地發、六月二十二日「バルバライゾ」着同二十七日發、七月二日「コッキンボー」（智利）着七月三十日發、九月十九日「ホノル、」着十月八日發、十一月十六日東京灣歸着

二月十二日　豫科生徒　山階定麿王殿下英國留學御許可

三月七日　自今東京及横須賀ニ軍醫長ヲ置キ醫務局ニ直管セシム

但東京軍醫長ハ兵學校等ノ醫務術生ヲ監督スヘシ（省達）

三月十五日　生徒心得ニ教場規則溫習所規則擊劍場規則水泳規則小銃射的規則ノ成規ヲ內則中ヨリ拔萃シ之ヲ一冊ニ蒐集ス

三月二十三日　豫科生徒溝口武五郎英國ヘ留學

四月九日　佛國公使「シイヤンケビッチ」書記官「ブリチ」公使館附陸軍大尉「ブーグアン」來校

四月十七日　山階宮定麿王英國ヘ御留學ノタメ東京御出發

（按）二十年七月佛學ヘ御轉學、二十一年七月「ブレスト」海軍兵學校ヘ御入校、二十三年七月二十六日同校御卒業

四月二十一日　明治十五年丙第六十八號達兵學校豫科生徒規則中左ノ通リ加除改正セラル（丙第十四號）

第一條　海軍兵學校豫科學舍ハ海軍將校准將校ノ遺子ヲ豫科生徒ト爲シ之ヲ本科ニ入ルヘキ豫科學ヲ教授スル所ナリ

第三條　豫科生徒トナルヘキ者ハ其年齡十一年以上滿十六年以下ニシテ戰鬪或ハ公務ニ死セシ海軍將校准將校ノ遺子トス　但其父戶籍中ノ實子或ハ其養嗣子ニシテ一戶一人ニ限ル

第五條　豫科生徒ハ入校ノ日ヨリ修學費用及被服食料等一切官給トス

第二十條中官費ノ二字刪除

第四條第六條削除而シテ從前ノ第五條ヲ四條ニ七條ヲ五條ニ改メ以下各條順次繰上

五月二十二日　本日ヨリ入校志願者ノ體格檢査ヲ行フ（身體合格者ノ學科試驗ハ六月二日ヨリ始メ同十四日ニ終レリ）

五月廿七日　本校條例中第三十八條第三十九條ヲ左ノ通リ改正セラル

第三十八條　練習艦長ハ直ニ校長ニ隸シ生徒ニ運用術砲術ノ各科ヲ練習セシムルヲ任トス而シテ教務ニ係ル事件ハ教務總理ニ稟議シ又其教授ノ方法ニ付意見アレハ之ヲ校長ニ具申スヘシ

第三十九條　練習艦乘組ノ將校ハ艦內ニ於テ生徒ノ實地練習ヲ分掌シ又校內生徒ノ授業ヲ兼掌スヘシ

六月廿四日　本校規則附錄第二號五科學術大試驗全點表中術業三科ノ點數左ノ通リ改正但シ學業ハ從前ノ通リ

（十八年大試驗ノ節ヨリ本表改正ノ通リ施行セシメラル）

學期	舊點數	改正點數	學期	舊點數	改正點數	學期	舊點數	改正點數	學期	舊點數	改正點數
術業 砲術	二八〇	四七〇	第一期	五〇〇	一、八〇〇	第二期	八〇〇	一、三〇〇	第三期	一、五〇〇	一、八〇〇
同 運用術	二五〇	四〇〇	第四期	六五〇	一、八〇〇	第一期	八〇〇	一、三〇〇	第二期	一、五〇〇	一、八〇〇

同	航海術	〇	六〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇
合	計	二、一三〇	三、八七〇	五、六五〇	九、〇〇〇

七月一日　本日ヨリ二ヶ年間英國人「リューテナント、エ、ジ、エス、ホウス」ヲ英學數學教師トシテ雇繼ク

七月十日　本科四號五號生徒ニ及第證書ヲ授與ス同式場ニ於テ本科豫科生徒ノ學術優等及品行善良ノ者ニ褒賞授與式ヲ行フ

學術優等品行善良褒賞授與人名

學術優等	本科	四號生徒	江頭安太郎　佐賀
同	同		坂井彦次郎　佐賀
同	同		山屋他人巖手
同	五號生徒		成田長裕　愛知
同	同		伊藤乙次郎　同
同	同		有森元吉　岡山
和漢文	豫科生徒		松村龍雄　佐賀
同	同		谷村愛之助　鹿兒島
同			增田忠吉郎　佐賀
數學	同		河村金五郎　東京
同	同		平賀德太郎　廣島
同	同		南里圜一　佐賀
英學	同		松村龍雄　同
同	同		河村金五郎　東京
同	同		平賀德太郎　廣島
品行善良	四號生徒		江頭安太郎　佐賀
	五號生徒		成田長裕　愛知
	豫科生徒		柴　準一　東京
	同		谷村愛之助　鹿兒島
	同		平賀德太郎　廣島

七月廿五日　豫科生徒松村龍雄以下九名本科生徒ニ編入ス

豫科ヨリ本科（編入者（九人）

松村龍雄　柴　準一　澤野辰次郎　河村金五郎

中村道一　谷村愛之助　吉島重太郎　松岡修藏
林嘉久人

七月廿九日　本日ヨリ三ケ年間英國人「フレデリック、ウイルリヤム、ハムモンド」ヲ砲術教師トシテ雇繼ク

九月四日　上野亮以下左記五十一名ニ入校ヲ命ス

上野亮　石川　荒井富三郎　石川　鈴木貫太郎　千葉
兒玉彪　宮崎　平原文三郎　新潟　佐藤鐵太郎　山形
森義臣　岡山　筒井秀之助　愛知　高島萬太郎　高知
田中龍太郎　佐賀　高松公冬　東京　上村經吉　鹿兒島
福葉宗太郎　愛知　市原卯之助　山形　和田垣幸太郎　兵庫
大澤喜七郎　岡山　中村虎之助　佐賀　下村亮太郎　佐賀
上村翁輔　鹿兒島　水町元　宮崎　富永壯次郎　鹿兒島
岩村團次郎　高知　遠山小太郎　山形　石川壽次郎　秋田
東郷宗之助　鹿兒島　竹内次郎　東京　一條實輝　東京
廣瀨順太郎　神奈川　釜屋六郎　山形　千住儀一郎　佐賀
伊藤純一郎　東京　小酒井政三郎　愛知　小林丑之助　鹿兒島
小笠原長生　東京　下條小三郎　山形　野田保太郎　長崎
河瀨早治　兵庫　内田良隆　佐賀　荒西鏡次郎　滋賀
磯部謙二郎　愛知　中島悅太郎　同上　伊藤滿嘉記　宮崎
丹羽千太郎　佐賀　佐多直道　鹿兒島　大石士郎　佐賀
松村卯三郎　東京　古賀精吉郎　佐賀　千坂智次郎　東京
黑岡英七郎　鹿兒島　谷元彦次郎　同上　隅元通純　同上

九月十一日　少尉田口三平尙一期通學命セラル

九月十二日　本校生徒心得中第十二條第三十六條ヲ左ノ通リ改正ス

第十二條　毎朝整列ハ喇叭ノ合圖ニテ玄關前ニ集合シ各號其成績順序ニ列シ奇數ハ右偶數ハ左ニ對列スヘシ

第三十六條　物品ヲ携ヘテ外出スルトキハ館内詰メ警吏ヨリ通門鑑ヲ請取リ監事ノ檢印ヲ乞ヒ之ヲ外門守掛ニ出スヘシ

九月十六日　通學士官大試驗施行（同廿六日終ル）

九月十七日　香港駐在英國陸軍大佐「クラフォールド」來校生徒ノ授業及重砲臺操練ヲ覽ル

九月廿日　一期通學許可ノ者

中尉　鈴木大三郎　同　永原好豐　同　武藤喜平治　同　吉田鐵吉

九月廿四日　東京商船學校卒業後ハ海軍長官或ハ准士官ノ豫備員ニ定メラル因テ十月十三日ヨリ通學シテ砲術ヲ修ム

十月二十四日　內則第七十三條ノ第一、三、四項及生徒心得第六十九條第七十五條改正

十一月一日　明治十六年三月丙第三十七號達　海軍(兵學、機關)在校生徒給與品表中帽子雨覆ノ項目刪除セラル

十二月十三日　生徒喜多村儀武、松尾龜次郎退校(疾病)

十二月廿二日　本校通學士官及卒業生徒二木勇次郎以下廿五人ニ卒業證書授與式ヲ行フ

但當日　御臨幸アリ式場ハ生徒館脇トス

一　本日午前十時三十分海軍卿輔海軍將官兵學校長次長教務總理練習艦(筑波、攝津)艦長軍事部長鎭守府長官機關學校長練習(富士山)艦長軍醫主計兩學舍長本校課長教員監事士官以上ノ雇外國人教師陸軍士官學校長同戶山學校長工部大學校長東京法理文三學部總理學習院長商船學校長式場ニ列ス

一　證書ヲ受クル通學士官ハ官位相當順ニ卒業生徒ハ終期大試驗成績順序ニ因テ式場ニ整列ス

一　卒業證書ハ校長之ヲ授與ス

一　通學士官ハ佐官、卒業生徒ハ監事ノ喚名ヲ待チ一名宛順次ニ列ヲ離レ　玉座ニ對シ敬禮ヲ行ヒ校長ノ前ニ進ミ禮シテ證書ヲ受ケ通學士官ハ舊位ニ復シ卒業生徒ハ卒業成績順序ニ列ス

一　樂隊ハ館外ニ於テ時々奏樂ス

一　式終リ生徒講演ノ後招待シタル諸員通學士官及卒業生徒ハ同館ニ於テ立食ノ宴ニ會ス

卒業生徒(二十五人)

二木勇次郎	鹿兒島	村上格一	佐賀	川島令次郎	石川		
林作次郎	東京	三上兵吉	石川	莊司義基	東京		
小花三吾	東京	岩下知克	鹿兒島	小田喜代藏	佐賀		
山澄太郎三	山口	久保田彥七	東京	外波內藏吉	愛知		
山縣文藏	山口	山本正勝	高知	釜屋源五郎	山形		
服部雄吉	京都	福島春長	東京	田邊直維	石川		
藤本秀四郎	佐賀	築山清智	靜岡	中川源吉	東京		
加藤權太郎	三重	相浦六之助	佐賀	石田一郎	山口		